

令和 6 年度 山梨県立わかば支援学校

研究のまとめ

1 研究主題

個別の指導計画の新様式について検証する
～観点別目標及び評価の記載についての検証～

2 主題設定の理由

我々教員の本来の仕事は児童生徒への指導であるはずなのに、児童生徒1人あたりの必要書類が多いため、書類作成に多くの時間を費やしている現状がある。また、それらの中身を見ると内容的には重複している箇所も多くあり、教員が徒労感を感じる一因となっている。そこで指導の基になっている個別の指導計画の様式を見直すことで、他に作成している通信表等の書類に反映しやすくし、教員の業務量軽減につながると考えた。

3 研究体制

研究対象が指導計画であり実際の授業体制を考え、各学部とも学年ごとの研究グループとして研究に取り組んだ。(ただし、人数が少ない学年については複数学年でグループを結成した)

4 研究方法

各グループで実態の異なる2人を事例対象とし、新しい指導計画の様式(以下、新様式)で作成しグループ内で検証する方法を行った。作成する教科等については、1事例あたり「任意の教科」+「日常生活の指導」「特別活動」「特別の教科道徳(以下、道徳)」のいずれか1つとした。1学期の研究では、本校校長から出された新様式(案)に、既に作成していた前期の指導計画の内容を移し替え、検証する形で新様式の研究を進めた。2学期は、事例対象者(グループによっては複数)の後期の指導計画を新様式(該当教科等)で作成し、グループで検証していった。学部ごとにそれぞれのグループで出た意見を集約し、「業務軽減」と「様式の変更」という観点でまとめた。

5 研究経過

- 4月12日・・・第1回全体研究会(研究テーマの説明)
- 5月20日・・・指導計画原案説明
- 6月20日・・・グループ研究
- 7月11日・・・グループ研究
- 7月25日・・・全体研修会(講師による観点別の目標及び評価についての講義)
- 9月 5日・・・グループ研究 10月24日・・・グループ研究
- 11月28日・・・グループ研究
- 12月12日・・・グループ研究
- 1月23日・・・学部研究会①

2月 6日・・・学部研究会②

2月19日・・・第2回全体研究会（指導主事招聘）

6 学部研究

（1）小学部

①事例とまとめ

＜1年生グループ＞

事例：音楽（実態：軽度）

令和6年度					音 楽		指導計画及び評価		小 1 年		組		児生氏名		教科担当			
年間指導目標		(1) 音や音楽に関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。 (3) 教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。						教科等における 合理的配慮		・授業の流れをはじめに提示し、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ・グループ活動や個別活動など、さまざまな形式の活動を用意する。 ・自信がもてない活動に関しては、教師と一緒に取り組めるようにする。								
評 価																		
【2、3学期】															音 楽		0	
単元名		指導計画(目標及び内容)						観点		評価				次の段階に進むための指導等				
1【身体表現】曲を感じて表現しよう (4時間)		(1) 曲調や歌詞に合わせた身体表現の方法を知る。 (2) 曲に合わせて身体部位を意識しながら表現する。 (3) 友だちの活動に目を向けたり、自分から身体を動かして表現しようとしたりする。 内容 (A 表現：身体表現) 身体表現：「ジャングルぐるぐる」						【知・技】		教師や友だちの表現に目を向け真似をしようとしたり、自分なりに表現しようとしている。				はじめは、リズムを感じられる題材を取り扱う。				
								【思・判・表】		曲に合わせて身体部位を意識しながら、表現しようとしている。								
								【主体】		音楽にかかわる中で、自分なりに身体を動かして表現しようとしている。								
2【器楽】楽器に親しもう (4時間)		(1) 楽器の正しい使い方・鳴らし方を知る。 (2) 正しい鳴らし方で楽器を鳴らそうとしている。 (3) 教師や友だちの活動に注目したり、興味をもったりしている。 内容 (A 表現：器楽) 「ことりのうた」(ペルハーモニー、ドレミマット)						【知・技】		ドレミマットやペルハーモニーの鳴らし方がわかる。				絵譜等の視覚支援を取り入れ、一人で演奏できる経験を積めるようにする。自信につながっていくとよい。				
								【思・判・表】		曲に合わせて楽器を鳴らすことができたり、楽器を鳴らす回数を意識したりすることができる。								
								【主体】		教師や友だちの鳴らす音色に気付き、顔を向けるなどして興味を示している。								
3【鑑賞】様々な音や音楽に触れよう (4時間)		(1) 聴こえてくる音や音楽に気付き、耳を傾けて聴く。 (2) 曲に合わせた表現(スケッチブックシアター)に目を向け、自分なりに感じたことを表現している。 (3) 身近な人の演奏に興味をもって見たり、聴いたりする。 内容 (B鑑賞) 「とんぼのめがね」						【知・技】		聴こえてくる音や音楽に気付き、耳を傾けて聴いている。				様々な曲調のものに触れていけるとよい。				
								【思・判・表】		音楽遊びを通して、声や身振り、表情などで感じたことを表している。								
								【主体】		自分なりの楽しみ方で、活動に参加しようとしている。								

事例：音楽（実態：重度）

令和6年度		音楽		指導計画及び評価		1	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標		・音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。 ・音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。 ・音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。				教科等における合理的配慮		・作業の際は動作がしやすくなるよう肘を支える。 ・興味関心を持てる活動や教材を探りそれを取り入れながら、主体的な動きを引き出していく。 ・実物や写真、絵カードなど、視覚的な教材を用意し見通しをもって活動できるようにする。 ・転倒防止のため、歩行時は手をつないだり見守ったりする。		
評価										
【2・3学期】										
単元名		指導計画(目標及び内容)				観点		評価		次の段階に進むための指導等
音楽に合わせて表現してみよう～夏を感じる曲～ (4時間)		○小学部1段階 A表現：音楽遊び (知)・表現する音や音楽に気付く (技) ・思いに合った表現をするために必要な音や音楽を感じて体を動かす技能を身に付ける。 ・思いに合った表現をするために必要な音や音楽を感じて楽器の音を出す技能を身に付ける。 ・思いに合った表現をするために必要な音や音楽を感じて声を出す技能を身に付ける。 (思) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとする。 (人)・手作り楽器やオーシャンドラムなどに興味をもち、自ら手を伸ばし音を出す。 ○B鑑賞： (知)・聴こえてくる音や音楽に気付く。 内容：歌唱「うみ」器楽「オーシャンドラム・レインスティック」身体表現「手をつなごう(鈴組)」・「長岡花火・復興祈願花火フェニックス」				【知】	・オーシャンドラムやレインスティックの音の出し方に気付いている。	◎	・声を出すことを意識できるよう、マイクを使うなど工夫する。 ・教師の補助がないと鈴組を持ち続けることが難しい。手遊び歌など一対一でのふれあい遊びを十分に行う必要がある。 ・レインスティックが長いため、自分で動かすことのできる短い物を用意し、音の出し方を知らせていく。	
							・花火の映像に視線を向けたり動きをとめて音楽を聴いている	◎		
						【技】口	・友達や教師が動かす鈴組をもち続けている。	△	・手作り楽器やオーシャンドラムなどに興味をもち、自ら手を伸ばし音を出している。	
							・自ら楽器をもち、オーシャンドラムやレインスティックを動かす音を出している。	○		
						【思・判・表】	・教師の歌が止まった時に声を出している。	△	・手作りのオーシャンドラム作りでは、好きな素材を選び容器に入れようという思いをもっている。	
【主体】	・手作り楽器やオーシャンドラムなどに興味をもち、自ら手を伸ばし音を出している。	◎								

事例：日生（実態：軽度）

令和6年度		日常生活の指導		指導計画及び評価		小1	年	組	児生氏名	教科担当	
年間指導目標	(1) あいさつや日付調べ、読み聞かせ等の活動を通して、言葉や数字の理解を深める。 (2) 友だちとのかわりを広げ、集団のルールを守って行動する。 (3) 学校生活の流れに見通しをもち、意欲的に活動に向かう。						小学部 生活科 段階 自立活動	教科等における 合理的配慮	・言葉と合わせて視覚的な情報も取り入れながら本見の理解を促す。 ・自分から取り組んだり、気持ちを表現したりした際には、大きく称賛し、自信をもって行動できるようにする。		
	評 価										
【1学期】											
単元名		指導計画(目標及び内容)				観点		評価		次の段階に進むための指導等	
1【日課・人との かかわり】 (時間) ※生活		(1) 数字や日付の読み方や天気に関する言葉に関心をもつ。 (2) 教師や友だちと一緒に確認したり、声に出して読んだりする。 (3) 進んで教師とやりとりしたり、友だちの活動の様子に注目したりする。 内容 ・あいさつ ・名前呼び ・出席調べ 他				【知・技】		あいさつや言葉に関心をもっている。		・言葉や数字に興味をもてるよう、国語算数と結び付けながら取り組む。 ・本見なりに表現できた際には、大きく称賛し、自信につなげていく。 ・友だちの活動の様子に目を向けられるように支援する。	
						【思・判・表】		ボードに示された日付や天気を、教師や友だちと一緒に読んでいる。			
						【主体】		教師からの問いかけに、自分なりの言葉で答えようとしている。			
2【基本的生活 習慣】 着替え・身支度 (時間) ※生活		(1) 着用する衣服の前後を確認し、間違えずに着替える。 (2) 毎日忘れずにハンカチを携帯する。 (3) 朝の支度の流れを覚え、自分から進んで取り組む。 内容 ・衣服の前後、ハンカチの携帯、朝の支度				【知・技】		衣服の前後を確認して着ている。		・朝の支度や着替えの際に声掛けを行い、定着を促す。	
						【思・判・表】		カバンからハンカチを取り出し、ポケットに入れている。			
						【主体】		朝の支度の流れがわかり、自分から行動している。			
3【集団や社会との かかわり】 (時間) ※自立活動		(1) 遊びの中で約束やきまりがわかり、守ろうとする気持ちをもって行動する。 (2) クラスで共有して使用している玩具を使いたい時には、その意思を教師に伝える。 (3) みんなの役に立つことへのやりがいを感じ、意欲をもって係活動に取り組む 内容 ・集団での遊び ・係活動						自分の係(予定係)がわかり、毎日欠かさずに取り組んだ。朝の会では、小さい声ではあるが一日の予定を発表することができた。毎日繰り返し取り組んだことで、授業名を覚えることもできた。また、休みの友だちの係に気付き、自分からやろうとする姿も見られた。		・毎日取り組むことで、自信がもてる活動へと繋げていく。	

【2、3学期】				日常生活の指導	0
単元名		指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1【日課・人との のかかわり】 (時間) ※生活	(1) 数字や日付の読み方や天気に関する言葉の理解を深める。 (2) 教師や友だちと一緒に確認したり、声に出して読んだりする。 (3) 進んで教師とやりとりしたり、友だちの活動の様子に注目したりする。 内容 ・日付天気調べ		【知・技】	今日の日付や天気はわかり、教師の質問に答えている。	
			【思・判・表】	ボードに示された日付や天気を、教師や友だちと一緒に読んでいる。	
			【主体】	自分から活動に取り組もうとする。	
2【健康の保持】 清潔・衛生 (時間) ※自立活動	(1) 給食後、おしぼりで自分の机を拭く。 (2) 手の汚れに気づき、せっけんで洗う。 (3) けがや体の痛む部位を、自分なりの方法で身近な大人に伝える。 内容 ・机拭き ・手洗い ・身体各部の状態の理解		給食後、おしぼりを小さくたたみ机を拭くことが習慣化された。机の上部から少しずつ下にスライドさせて汚れをふき取ることができるようになった。		
3【集団や社会との のかかわり】 (時間) ※道徳	(1) 遊びの中で約束やきまりがわかり、守ろうとする気持ちをもって行動する。 (2) クラスで共有して使用している玩具を使いたい時には、その意思を教師に伝える。 (3) みんなの役に立つことへのやりがいを感じ、意欲をもって係活動に取り組む 内容 ・集団での遊び ・係活動		自分でやりたい遊びを見つけ、教師に要求することがまだ難しい。特に朝の支度後は、教師からの指示待ちなことが多い。		

事例：日生（実態：軽度）

令和6年度		日常生活の指導		指導計画及び評価		1	年	組	児生氏名	教科担当	
年間指導目標	(1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。 (2)自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。 (3)自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。						小学部 生活科 段階 自立活動	教科等における 合理的配慮	・名札をボードに貼る際は、目の前にボードを提示し名札を貼りやすくする。 ・呼名の際は興味をもって手を上げることができるよう、カスタネットを提示する。 ・実物や写真、絵カードなど、視覚的な教材を用意し見通しをもって活動できるようにする。 ・ダンスをする時は、転倒防止のため手をつないだり見守ったりする。		
	評 価										
【2、3学期】											
単元名		指導計画(目標及び内容)				観点	評価			日常生活の指導	依田 凜果
1【日課・予定】 朝の会 (70時間) ※生活		(1) 簡単な日課について、関心をもつ。 (2) 身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。 (3) 提示された2つの選択肢の中からカードに手を伸ばし選ぶ。 内容 日付天気調べ 今日の予定				【知・技】	日課表に貼られた絵カードに視線を向けている。				
						【思・判・表】	教師の声掛けや絵カードにより行くべき場所に基づき、教師と一緒に行動しようとしている。				
						【主体】	晴れと雨、曇りと晴れなど2つ提示したカードに手を伸ばし、どちらか1方を選択している。				
2【環境の把握】 今日の予定、天気調べ、給食調べ、絵本の読み聞かせ、ダンス (38時間) ※自立活動		・絵カードや写真、教師の声かけに対して、視線を向けたり、手を伸ばして触れるなど予定や天気に関心を持つ。 ・絵本や教師の読み聞かせに興味を持ち、視線を向けたり手を伸ばす。 ・音やリズムに反応したり、動画に視線を向けたりする。									

まとめ

指導計画及び評価		小学部1年グループ		
①年間指導目標	・こんなにたくさんの目標を考えて立てることは、若手教員や慣れていない教員にとっては大変。指導要領の目標及び内容の語尾を変えることで、個人の目標としてもよい、としてもらえれば少しは負担軽減になるのでは。 ・年間指導計画は指導要領の段階に合わせて記入し、指導計画の目標は指導内容の段階の目標を記入、評価の観点はもう少し具体的に本人に合ったものを記入するといよい。	小学部 1 段階	③配慮すべき 特性等	
②評 価				
【1学期】				
④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価(規準・基準)	⑦次の段階に進むための指導等
・「単元名」だと表記しにくい教科もある(音楽など) ・「内容」の項目は「単元名」の項目に入れてもよいのでは。	・「⑤指導計画(目標及び内容)」という項目では何を書けばよいのか抽象的で分かりにくい。 ・必ず3観点で書くなら(1)(2)(3)ではなく、【知】【思】【主】にした方が分かりやすい。 ・指導内容や計画、目標などもデータで一覧にする(シラバスを作成する)など、校内で情報共有を図ると、指導計画が作成しやすい。 ・「日常生活の指導」のシートの中で「朝の会帰りの会」「給食」「登下校時の身支度等」全ての項目の指導計画を立てると膨大な文章量になってしまう(特に1年生)記載すべき場所を予め指定してほしい。 ・「朝の会、帰りの会」は指導の形態は日常生活の指導だが、評価は各教科のシートで行うとやりやすい。(自立活動や生活のシート内で) また、学部や学校内で統一を図ると指導の連携、引継ぎがしやすい。 ・日常生活の指導の「朝の会帰りの会」の中に必ず自立活動が入るとは限らないと思う。生活科だけで計画・評価できる児童もいる。 ・1年生は実態が分からず初めから適切な目標をたてるのは大変。作成時期など柔軟に対応してほしい。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】	・評価基準は指導案等を通じて単元の始めに共通確認できるとよい。単元の終わりごとに評価もCT、ST間で共通確認できるとよい。 ・項目の文言について。「評価」の枠は◎○△のどこ。文章のどこは「評価の観点」という項目にするとかかりやすい。 ・目標で記載した「～する」等の文章の語尾を「～している」と変えるだけで評価の文言にしてもよいが、学校全体で共通確認を図りたい。 ・全員◎または○になるのではない。 ・教科「音楽」の場合、指導要領では観点が【知】と【技】に分かれているので、この様式でも分けたほうが良いのでは。教科毎どういう観点別になっているのか確認してから様式作成を行う必要がある。	◎○△ 「次の段階へ進むための指導」→「課題と手だて等」簡単な文言でよいので、研究から出された「成果と課題等」もよい。 ・この項目に書く内容は「引継ぎ」ができるような内容だとうれしい。引継ぎの際に活用できる様式になると思う。
⑧その他については裏面に記載 ※書式そのもの(もしくは一部)を変えた場合は、変更した書式で記載				

⑧その他

- ・引継ぎ資料として活用しやすい様式にしてほしい。書き込み量が多すぎるとそれだけ読み込むのことも時間がかかり、年度初めの引継ぎとして活用しにくい。また、書き方、記入例などもっと整理して例示してもらえると、担当が変わった際にも混乱が生じにくい。
- ・各学年の年間指導計画も、同じような様式にできれば活用しやすい。
- ・通信表に生かせる様式にできれば多忙化改善につながる。そのような様式にしてもらえると助かる。
- ・系統だった指導計画作成のためにも、学部横断的に段階表の作成や情報共有に取り組んでいってほしい。
- ・今小学部では個別の指導計画の目標は担任が設定しているが、新様式では年間指導目標や指導計画(目標及び内容)は授業のCTが立てるのがよい。
- ・自立活動の現在の様式(6項目からチェックをつけて実態を把握する表)は以前本校の研究で作成したもの。自立活動は教科ではないという観点から、個別の指導計画に入れず別様式を作成した経緯がある。新様式になったとしても個別の指導計画は教科のみにすると書きやすい。

< 2年生グループ >

事例：音楽（実態：軽度）

令和6年度		音 楽		指導計画及び評価		2	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1) 音楽に親しみ、身体を動かしたり楽器を鳴らしたり声を出したりして、簡単な音楽表現を行う。【知・技】 (2) 様々な音や音楽に興味をもち、感じたことを表現する。【思・判・表】 (3) 音楽活動を通して、教師や友達とのかわわりを楽しみながら進んで表現する。【学・人】		小学部 1段階	教科等における 合理的配慮	・繰り返しの活動を通して見通しをもって取り組めるようにし、主体的な動きが引き出せるように教材の選定や提示の仕方を変えていく。 ・リズムや音階を感じやすく、同じフレーズが繰り返される曲の選定。 ・個々の実態に応じて、手作り楽器など扱いやすいものの工夫。 ・実物や写真、絵カードなど視覚的支援の活用。					
評 価										

【1学期】				
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1【音楽遊び】 「音を鳴らそう！」 (時間)	(1) 楽器の音色に気付いたり、注目したりする。 楽器の鳴らし方を理解して鳴らす。 (2) 音や音楽を感じて、楽器に注目したり、選んだり、鳴らそうとしたりする。 (3) 自分から楽器に触れたり、音を鳴らしたりする。 友達や教師の音を聴いたり、一緒に楽しく演奏したりする。 内容 A表現・ア音楽遊び1段階(音や音楽を感じて楽器の音を出す技術) ・『ならしてみよう』(打楽器：ロリポップドラム、タンバリン、ボンゴ、太鼓) ・『かえるの合唱』(洗濯板のギョ、ビーズを付けた洗濯板)	【知・技】	楽器の音色に気付いたり、鳴らし方を理解して音を出したりしている。	・
		【思・判・表】	音や音楽を感じて、楽器に注目したり、鳴らそうとしたりしている。	
		【主体】	自分なりの方法で楽器にかかわっている。	
2【音楽遊び】 「身体を動かそう！」 (時間)	(1) 音楽を聴き、身体接触やくすぐられる等の期待感を抱く。 教師の真似をしたり、声かけなどを聞いたりして動きや表現方法を知る。 (2) 音や音楽を感じて、身体を動かそうとする。 (3) 音や音楽に気付いて、教師や友達と楽しみながら音楽活動に取り組む。 内容 A表現・ア音楽遊び1段階(音や音楽を感じて体を動かす技術) ・『ボクのあくしゅ』『ゆらゆらブランコ』(ふれあい遊び) ・『ちいさいうみ おおきいうみ』(スカーフ遊び、シーツブランコ) ・『くるるんかき』(ページサート遊び) ・『たんぽぽダンス』(ダンス)	【知・技】	教師からのふれあいやかかわりを期待感をもって受け入れている。	・
		【思・判・表】	音や音楽を感じて、身体を動かしている。	
		【主体】	音や音楽に気付いて、教師や友達と楽しみながら音楽活動に取り組んでいる。	
3【鑑賞】 「音楽を聴こう！」 (時間)	(1) 聴こえてくる音や音楽に気付く。 (2) 演奏を聴いたり、映像やパネルを見たりする中で感じたことを身体の動きで表現する。 (3) 様々な音楽に触れ、好きな音や音楽を見つける。 内容 B鑑賞 1・2段階 ・『たんぽぽダンス』(6年生のダンス映像) ・『ふうせん』(風船を使った鑑賞) ・『にじ』(映像鑑賞)	【知・技】	聴こえてくる音や音楽に気付いたり、映像に注目したりしている。	・
		【思・判・表】	演奏を聴いたり、映像を見たりする中で感じたことを身体の動きで表現している。	
		【主体】	様々な音楽に触れる中で、映像や風船の動きなどに注目して聴いている。	

【2、3学期】					音楽	
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等		
1【音楽遊び】 「音を鳴らそう！」 (時間)	(1) 楽器の音色に音の違いに気付いたり、注目したりする。 楽器の鳴らし方を理解して鳴らす。 (2) 音や音楽を感じて、楽器に注目したり、選んだり、鳴らそうとしたりする。 (3) 自分から楽器に触れたり、音を鳴らしたりする。 友達や教師の音を聴いたり、一緒に楽しく演奏したりする。 内容 A表現・ア音楽遊び1段階(音や音楽を感じて楽器の音を出す技術) ・『ちいさな鳥の歌』(オーシャンドラム) ・『ドレミの歌』『かもつれっしや』(音階楽器：ペルハーモニ、キーボード、シンバル) ・『おおきなたいこ』(和太鼓、締太鼓)	【知・技】	楽器の音色に注目したり、鳴らし方を理解して鳴らしたりしている。	・		
		【思・判・表】	音や音楽を感じて、楽器に注目したり、鳴らそうとしたりしている。			
		【主体】	教師や友達か楽器を鳴らす様子を見て、楽器を鳴らそうとしている。			
2【音楽遊び】 「身体を動かそう！」 (時間)	(1) 音楽を聴き、身体接触やくすぐられる等の期待感を抱く。 教師の真似をしたり、声かけなどを聞いたりして動きや表現方法を知る。 (2) 音や音楽を感じて、身体を動かそうとする。 (3) 音や音楽に気付いて、教師や友達と楽しみながら音楽活動に取り組む。 内容 A表現・ア音楽遊び1段階(音や音楽を感じて体を動かす技術) ・『ゆらゆらブランコ』『カマキリマッサージ』『バスに乗って』『こすれこすれ』『せんたく』 (ふれあい遊び) (ダンス) 等	【知・技】	教師からのふれあいやかかわりを期待感をもって受け入れている。	・		
		【思・判・表】	音や音楽を感じて、自分なりに身体を動かして表現している。			
		【主体】	音や音楽に気付いて、教師や友達と楽しみながら音楽活動に取り組んでいる。			
3【音楽遊び】 「声を出そう！」 (時間)	(1) 教師の合図で声を出す。 (2) 歌の中で声を出したり、声を出そうとしたりする。 (3) 教師とのやりとりを楽しみながら取り組む。 内容 A表現・ア音楽遊び1段階(音や音楽を感じて声を出す技術) ・『みんなの「あ」』 ・	【知・技】	歌の中や教師の合図で声を出すことを理解している。			
		【思・判・表】	歌の中で「あー」と発声している。			
		【主体】	教師の支援を受けて、タイミングよく声を出している。			
4【鑑賞】 「音楽を聴こう！」 (時間)	(1) 聴こえてくる音や音楽に気付く。 (2) 演奏を聴いたり、映像やパネルを見たりする中で感じたことを体の動きで表現する。 (3) 様々な音楽に触れ、好きな音や音楽を見つける。 内容 B鑑賞 1・2段階 ・『すいかのたわ』(ストロー笛、ラッパ) ・『さんぽ』『おもちゃのやちやちや』(マリンバの演奏) ・パネルシアター、映像 等	【知・技】	聴こえてくる音や音楽に気付いたり、映像やパネルに注目したりしている。	・		
		【思・判・表】	演奏を聴いたり、映像やパネルを見たりする中で楽しさや癒しさを身体の動きで表現している。			
		【主体】	様々な音楽に触れる中で、演奏やパネルに注目して聴いている。			

事例：日生（実態：軽度）

令和6年度		日常生活の指導		指導計画及び評価		2	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1) 基本的な日常動作を身に付け、教師の少ない支援や一人でできることを増やす。 (生活科1段階) (2) 教師とやりとりしたり、一緒に取り組んだりする中で基本的な生活習慣を身に付ける。 (自立活動：健康の保持、心理的な安定、身体の動き) (3) 毎日の活動を通して、見通しをもち、取り組もうとする姿勢を身に付ける。						小学部 生活科 1段階 自立活動 道徳1・2年	教科等における 合理的配慮	・繰り返しの活動を通して見通しをもって取り組めるようにし、自発的な行動が引き出せるように支援する。 ・視覚支援を活用しながら、言葉での指示も行う中で目と耳で理解できるようにする。 ・本児とやりとりを行いながら、意思の確認や選択して意思を伝えられる場面を増やしていく。	
	評価									

【2・3学期】				
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1【基本的な生活習慣】 食事 (時間) ※生活	(1) 教師の支援を受けて、食前に手を洗ったり、エプロンを付けたり、水筒の準備をします。 (2) 食事中は立ち歩かず、座って食事に向かう。 (3) 給食時間中に少しでも食べられるメニューを増やす。 内容 ・食事の準備(手洗い、エプロンを付ける、水筒の準備) ・食事のマナー(食事中は座っている) ・食べられるメニューを増やす	【知・技】	教師の声かけや支援を受けて、手洗い、エプロン、水筒など食事の準備をしている。	○ ○ ◎
		【思・判・表】	食事中は立ち歩かず、座って食事に向かっている(食べている)。	
		【主体】	メニューを見て、においを嗅ぐ、舐める、口に入れて食べるなど食事に意欲的に向かっている。	
2【健康の保持】 【心理的な安定】 (時間) ※自立活動	(1) 環境に慣れ、食事に向かう姿勢を身に付ける。 (2) 給食時間中に食べる経験を積み、少しでも食事を確保する。 (3) 内容 ・食事に向かう姿勢作り ・食べる経験や食べられるメニューを増やす	個別の空間(教室後方でカーテンを閉めた環境)で落ち着いて食事に向かうことができるようになった。食材に触る、においを嗅ぐ、舐める場面が増え、少しずつ摂取できるメニューが増えていった。ほぼ完全できる日が増え、食事が確保できるようになった。		引き続き本児の気持ちを大切し、食べる楽しみや意欲を保てるような環境設定を行っていくことで、食事量の確保につなげていく。

まとめ

令和7年度		指導計画及び評価		小学部2年グループ	
①年間指導目標	※授業担当者（ＣＴ）が記載	小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	※担任が記載 （視覚） （聴覚） （触覚） （その他）感覚以外での配慮すべき部分を支援計画から抜き出して記載	
②評 価	※授業担当者（ＳＴ）が記載				
【1学期】					
④単元名	⑤指導計画（目標及び内容）		観点	⑥評価（規順・基準）	⑦成果と課題等
・音楽を新様式で表す場合はどのように分けるのか。（器楽や歌唱で分けるのか、単元や題材で分けるのか）特に1段階は「音楽遊び」の中に器楽的内容や歌唱的内容が含まれている。単元で区切るのは複雑で難しかった。 ・日常生活の指導については指導の全てを書ききることはできないので、ピックアップすることが必要。	・「日常生活の指導」より、新様式でも取り組みやすかった。 ・評価規順は年間指導計画から抽出して設定した。その分、年間指導計画は細かに設定した。 ・1つの単元の中で、【知・技】の評価規順を2つ設定する等、評価規順を複数設定するとよいのではないかと。1つだけ設定するのでは、複数の題材にまたがる評価規順を設定しなくてはならなくなり、抽象的な表現に留まってしまう。また、特に重度の児童生徒は学年が上がっても評価規順の内容が変わらないということが起こりかねない。		【知・技】	・【思・判・表】と【主体】をどちらに分類するか悩んだ。【主体】は「楽しむ」等の表現が多くなってしまうが、そうならないようにした。 ・「◎・○・△」の3段階で評価するにあたって、教員共通の基準が大まかに周知されているとよい。 ・保護者が通信表を見て、児童生徒の成長に気付けるように評価していくことが大切である。そのためには、具体的に評価規順を設定すること、児童生徒の様子が想像できるような記述をしていくことが大切だが、3段階評価ではそれができるのだろうか。	◎○△
			【思・判・表】		
			【主体】		
			【知・技】		
			【思・判・表】		
			【主体】		
			【知・技】		
			【思・判・表】		
⑧その他については裏面に記載 ※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載					

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

- ・「体育科」は「日常生活の指導」よりも新様式で作成しやすかった。新様式でもできるかもしれない。「日常生活の指導」の時は細かくて辛いと感じた。
- ・新様式は作業量が増えるかもしれない。これまでのやり方のままでも単元のまとまりごとに段階的な評価項目を明確に設定し共有すること、反省を共有することが大事だ。
- ・1つの教科（シート）を作るのにも労力を使った。指導していくうちに計画は変わっていくこともあるので、徒労に終わってしまうこともあると思う。
- ・日々の授業（指導）の記録をうまく活用することで（評価の観点を明確にして、記録することで）新様式があってもなくても業務の改善が図れると思う。
- ・児童の実態が分からないうちに3観点で評価規準設定するのは大変だ。成績処理をする時期ごろに評価規準を立てるのはどうか。
- ・新しい評価規順を立てることができたのが後期の計画を立てた時だった。前期の指導計画作成期間（4月）では、児童の実態が把握できておらず難しい。
- ・年間指導計画もしくは単元計画では、ＣＴの教員があらかじめ段階的な評価規準を設定するとわかりやすい。それらを計画する段階で難しければ、指導案作成の段階で評価規準を細かに示すのはどうか。
- ・新様式だと、人によって書き方が変わることが多いと思う。「体育科」は学習指導要領の構成上、学習内容がはっきりとしているので、計画も立てやすい。しかし、「音楽科」は1つの題材から器楽・歌唱・身体表現・鑑賞へと発展させていくため、複雑になりやすく新様式では計画が立てにくい。
- ・あらかじめ評価規準細かく設定することが大切である。実態に合った指導目標を設定することで、児童生徒も教師も無理をすることがなくなる。
- ・「日常生活の指導」を「生活科」と「自立活動」に分けると、例えば時計を使った生活の指導を行っているとときに違和感が残る。「日常生活の指導」として、各教科等を合わせた指導として計画・評価をすると違和感がなくなる。
- ・「日常生活の指導」は今後も残してほしい。児童生徒の成長・発達を系統的に見ていくためにも、必要な指導であると思う。

< 3年生グループ >

事例：体育（実態：軽度）

令和6年度 体 育 指導計画及び評価 3 年 組 児生氏名					教科担当
年間指導目標	(1) 基本的な運動の楽しさを感じ、その方法を知り、基本的な動きを身に付ける。 (2) 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現したり、感じたことを他者に伝えたりする力を養う。 (3) きまりを守り、自分から友達と仲良く楽しく運動したり、安全に気を付けたりしようとする。	配慮すべき 特性等	(視覚) ・絵カードや文字を使い、見通しがもてるようにする。 (聴覚) ・自信がもてるような言葉かけをする。 (触覚) (その他) ・先走りしてしまったり、待てなかったりすることがあるため、声かけや寄り添いが必要だが、本児の意欲を低下させてないようにする。		
評 価					

【2、3学期】					体 育	〇〇 〇〇
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題等		
1【体づくり運動】 「」 (時間)	内容 ・音楽に合わせた体ほぐしの運動 ・縄跳び(長なわ・短なわ) ・線上歩行 ・新聞紙かけっこ ・フラフラフープ ・ケンケンパ ・しっぽ引き	【知・技】	・手足の曲げ伸ばしやバランスの保持等、体の基本的な動かし方が分かる。【知】 ・跳ぶ、歩く、走る等、基本的な体の動かし方が分かる。【知】	◎	◎	
		【思・判・表】	・音楽や声掛け、見本に合わせて体を動かす。【思】 ・見本や声掛けを手掛かりに、活動にあった体の動かし方をする。【思】			
		【主体】	・教師や友達と一緒に、積極的に体を動かす。【学】			
2【表現遊び】 「」 (時間)	内容 ・動物歩行、乗り物歩行(アザラシ、カンガルー、ウサギ、電車、バスなど)	【知・技】	・動物や乗り物、音楽の特性に応じた体の動かし方が分かる。【知】	◎	◎	・気持ちの波があり、気持ちが乗っている時は意欲的に活動することができた。気持ちが乗らない時は活動場所に入ることもしにくく、本児に寄り添う必要があった。
		【思・判・表】	・見本や声掛けを手掛かりに、活動にあった体の動かし方をする。【思】	◎		
		【主体】	・教師や友達と一緒に、積極的に体を動かす。【学】	○		

3【水遊び】 「」 (時間)	内容 ・水を使った簡単な遊び(手でくぐり、道具を浮かべる、沈める、体にかける、飛ばすなど)	【知・技】	・水の冷たさや温かさ、物の浮き沈み等、水の特性が分かる。【知】	◎	◎	・授業に対して期待感をもち、楽しみにしている様子が見られた。水中に顔をつけて活動することもできた。
		【思・判・表】	・見本や声掛けを手掛かりに、簡単な水遊びをする。【思】	◎		
		【主体】	・教師や友達と一緒に、積極的に親しむ。【学】	○		
4【器械・器具を使つての運動】 「」 (時間)	内容 ・マット運動(支持、手足での移動、回転など) ・平均台、跳び箱(跳び下り、またぎ乗り、またぎ下り)	【知・技】	・体勢の保持に関わる体の動かし方が分かる。【知】 ・教師の支援を受けながら、楽しく機械・器具を使つての基本的な運動をする。【知】	◎	◎	・気持ちが乗らないことが多く、授業に入ることが大変だった。授業に入ることができると意欲的に取り組むことができた。しかし、自分の思いで活動してしまい、指示通り活動できないことが多かった。
		【思・判・表】	・見本や声掛けを手掛かりに、体勢を保持する。【思】 ・教師と一緒に、体勢を保持する。【思】	◎		
		【主体】	・簡単なきまりを守りながら、運動に取り組もうとする。【学】	○		
5【ボールを使った運動やゲーム】 「」 (時間)	内容 ・ボールを投げる、蹴る(的に向かって投げる など) ・ボールを捕る(ボールキャッチ など)	【知・技】	・様々なボールの簡単な操作が分かる。【知】 ・教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをする。【知】	◎	◎	・意欲的に取り組むことができた。しかし、自分の思いで活動してしまい、指示通り活動できないこともあった。
		【思・判・表】	・見本や印を手掛かりに、ボールを操作する。【思】 ・教師と一緒に、ボールを操作する。【思】	◎		
		【主体】	・教師や友達と一緒に、積極的に体を動かす。【学】	○		

事例：図工（実態：軽度）

令和6年度 図画工作 指導計画及び評価 3 年 組 児生氏名 教科担当									
年間指導目標	(1)身近な材料に手や体全体を使ってかわり、素材の色や形の変化の様子や感触に気付く。 (2)素材の特徴をとらえ、自分なりの方法で、素材とかわる。 (3)進んで活動に取り組み、つくりだすことの楽しさや喜びに気づくことができるようにする。				配慮すべき 特性等	(視覚)映像や音楽に興味を示すので、手順や動機づけに動画や歌などを用意する。 (聴覚)極端に汚れることや、ドロドロした感触のものに触れることを嫌がるので、手を拭くタオルを用意したり、別の方法で関わる手だてを考えたりしておく。 (その他)			
評 価									
【2、3学期】									
単元名	指導計画(目標及び内容)				観点	評価		図画工作 成果と課題等	
1【表現】【鑑賞】 「果物狩りをしよう」 (3時間)	(1)花紙、和紙、画用紙などの素材の違いを感じながら、紙を丸めて作る。 (2)染める・ちぎる・丸める・貼るなどの活動の面白さを知り、意欲的に活動する。 (3)製作した果物を収穫する疑似体験をして、作品に注目したり、進んで関わったりする。				【知・技】	染めた和紙や花紙、画用紙を丸めることが分かり、自ら活動する。	○	・教師が活動のとりかかりを示すことで丸めることが分かって、活動することができた。	
	内容 ・染めた和紙、花紙、色画用紙を丸めてぶどうやりんごの実を作る。 ・製作した果物を吊るし、実際に収穫する。				【思・判・表】	紙の素材の違いに気付き、自分の好きな素材を選んで活動している。	○	・ぶどうやりんごに興味が無いため、活動に興味を持たせることが難しい。	
					【主体】	丸めた紙を選んでぶどうの実を作ったり、仕上がった作品を眺めて選んだり、自分の意思をもって活動する。	○		
2【表現】 「片栗粉で遊ぼう」 (3時間)	(1)水を入れると感触が変わることに気付き、自分の好きな感触に変化させようとする。 (2)握ったり、紙に乗せたり、スプーンですくったり、様々な関わり方で活動する。 (3)片栗粉スライムの感触を味わい、意欲的に活動する。				【知・技】	片栗粉に水を混ぜると柔らかさが変わることに気付き、感触を味わっている。	◎	・感触過敏があるため、手でドロドロした状態の物に触れることが極端に苦手なため、活動に消極的であった。	
	内容 ・片栗粉に水を混ぜ、感触の変化を楽しむ。 ・スライム状になった片栗粉に触ったり、垂らしたりして感触を楽しむ。				【思・判・表】	触ったり、スプーンですくったり、ビニール袋に入れたりして、自分なりの方法で触れて活動している。	◎	・教師と一緒に手をとって粉に触れたり、ビニール袋に入れたり、水の量を増やしてさらさらの状態にするなどすると関わりとうとする姿が見られた。	
					【主体】	状態の変化を楽しみ、教師と一緒に意欲的に活動する。	◎		
3【表現】 「新聞紙プール」 (2時間)	(1)新聞紙をちぎったり、丸めたりして、プールを作ることを知る。 (2)ちぎったり、丸めたり、バラばいたり、まとわせたりするなどして自分なりの方法で素材と関わる。 (3)教師と一緒に楽しみ、進んで活動する。				【知・技】	新聞紙をちぎったり、丸めたりする。	◎	・ちぎった新聞紙を入れたプールに入ることは嫌がった。	
	内容 ・新聞紙をちぎったり、丸めたりして新聞紙のプールを作る。 ・新聞紙プールに入り、寝ころんだり、投げたりして新聞紙の素材の心地良さを味わう。				【思・判・表】	新聞紙プールの中で、体勢を変えたり、新聞紙を投げたりして、自分なりに素材と関わる。	◎	・プールから新聞紙を出したり、ゴミ袋にまとめたり、サーキュレーターの風で新聞紙を舞わせたりする別の方法で活動を楽しむ姿が見られた。	
					【主体】	素材の感触を楽しみ、意欲的に活動する。	◎		
4【表現】 「どんぐりマラカス」 (2時間)	(1)木の実を紙コップに入れたり、飾りをつけることを理解して、活動する。 (2)自分でシールを選んだり、飾りを貼る場所を考えたりしている。 (3)自分が作った作品に興味をもち、音を鳴らしたり、眺めたりする。				【知・技】	飾りを貼ったり、木の実を容器に入れたりすることを理解して活動する。	◎	・シールを付けることや木の実をボトルに入れることを目の前で見せることで活動の意図を理解して、活動することができた。	
	内容 ・マラカスの容器になる紙コップやジュースの容器にシールや飾りを貼る。 ・木の実を入れてマラカスを作り、揺らして音を出す。				【思・判・表】	好きな飾りを選んだり、木の実の大きさを選んだり、自分なりに作品づくりに取り組もうとする。	◎	・木の実が転がる様子を見ることや音を楽しむ活動は教師と一緒に行うことができた。	
					【主体】	木の実が転がる様子や音が出る様子を楽しみながら活動している。	○		
5【表現】【鑑賞】 「リースづくり」「お面づくり」 (4時間)	(1)飾りをつけたリ、色を塗ったりすることを理解し、教師と一緒に活動する。 (2)自分の好きな色や飾りを選んで、作品を作る。 (3)リースを飾ったり、お面を被ったりして作った作品に関心をもち、鑑賞する。				【知・技】	ボンドを使って飾りをつけたリ、クレヨンで色を塗ったりすることを理解して活動する。	◎	・さつまいものつるで作ったリースに飾りをつけることを理解して、端から順番にボンドをつけて飾りを置くことができた。	
	内容 ・木の実やリボンなどの飾りをさつまいものつるにつける。 ・鬼のお面の台紙に色を塗ったり、毛糸で髪の手をつけたりする。 ・仕上がった作品をお互いに鑑賞する。				【思・判・表】	好きな飾りやクレヨンの色を選んで、教師に伝える。	◎	・ボンドででが汚れないよう、小さな容器にボンドを出して、それに飾りをつけることで活動を自分で行うことができた。	
					【主体】	作った作品を眺めたり、お面を着けたりして作品にふれている。	○		
6【表現】【鑑賞】 「ステンシル版画」 (3時間)	(1)ローラーで色をつけたり、形づくったシールを貼って版を作ったりすることを知り、ローラーで色を塗ったり、シールを貼ったりする。 (2)絵の具の色の重なり注目したり、形取ったシールを選んだりする。 (3)絵の具を重ねて、シールを貼った部分は形が浮き上がることに気付き、作品に注目したり、友達作品を鑑賞する。				【知・技】	絵の具をつけたローラーで色を塗り重ねたり、形シールを貼ることを理解し、活動する。			
	内容				【思・判・表】	形シールを選んだり、向きを工夫したりして台紙に貼る。			
					【主体】	色を重ねると変化することやシールを剥がすと形が浮かびあがることを楽しみながら活動する。			
7【表現】【鑑賞】 「桜の木を作ろう」 (3時間)	(1)手や指を使って模様をつけることを理解して、活動する。 (2)好きな色の絵の具を選んだり、自分で考えた場所にスタンプを押したりする。 (3)模様をつける面白さに気付き、自分から活動に取り組む。				【知・技】	手や指に絵の具をつけて、台紙にスタンプを押す活動をする。			
	内容				【思・判・表】	絵の具の色を選んだり、スタンプを押す場所をかんがえたりして活動する。			
	・手や指を使って、台紙に桜の花をイメージした模様をつける。 ・仕上がった桜の木を鑑賞する。				【主体】	仕上がった作品を飾ったり、見たりして興味をもつ。			

事例：特活（実態：軽度）

令和6年度		特別活動	指導計画及び評価	3	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1)望ましい集団活動を通して、心身を安定的に保ち、集団での行動の仕方を身に付ける。【知】 (2)集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を身に付けるために、話し合いをしたり、考えたりする思いをもつ。【思】 (3)集団の中で教師や友達と一緒に活動する楽しさを感じ、自分の力を知ったり、友達の良さについて認めたりしながら活動する。【字】			配慮すべき 特性等	(視覚)・絵カードや文字を使い、見通しをもてるようにする。・先走りしてしまったり、待てなかったりすることがあるため、カードなどを1度に全て提示せず、順番に提示するなど、場面に応じて方法を工夫する。 (聴覚) (触覚) (その他)			
評 価								

【2、3学期】					特別活動	
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題等		
学級活動 (時間)	(1) 仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習、係活動に進んで取り組む。 内容 ・学校生活全般 ・係活動 ・係決め活動 ・たんぼば集会 ・学期の振り返り	【知・技】	・自分の考え以外にもさまざまな意見があることを知ろうとしている。 ・自分の役割を理解し、丁寧に行動している。	・他者の意見を聞き入れることが難しく、本児の意見を通したいことが多かった。係決めの時に他児としたい係が重複したことがあった。今まではそのことを受け入れることができなかったが、少しずつではあるが他児の意見を受け入れようとする場面が見えるようになりつつある。		
		【思・判・表】	・自分の考えを言葉で表現しようとしている。 ・教師の依頼などを言葉で伝えようとしている。			
		【主体】	・今すべきことを知り、落ち着いて活動に参加しようとしている。			
児童生徒会活動 (時間)	(1) 年齢の異なる集団の活動を通して、仲良く、協力し、支え合おうとしたりする。 (2) 自分の役割を果たし、協力してよりよい学校生活にしようとする。 (3) 自主的・実践的な活動ができる。 内容 ・冬休みの生活 ・美化活動 ・全校お楽しみ会	【知・技】	・教師や友達と一緒に楽しみながら活動しようとしている。	・未実施		
		【思・判・表】	・意欲的に会に参加しようとしている。			
		【主体】	・自分の役割を意識して取り組もうとしている。			
学校行事 (時間)	(1) 大きな集団の中で、落ち着いて積極的に参加する。 (2) 学校の一員として集団への所属感や連帯感を味わう。 内容 ・儀式的行事 ・避難訓練 ・愛校作業	【知・技】	・行事の内容について、おおまかに理解しようとする。	・事前学習をすることで見通しをもち、活動に参加することができた。繰り返し行っている活動は自信をもって参加することができた。		
		【思・判・表】	・行事について知ったことや行事に参加しての思いなどを言葉で表現しようとする。			
		【主体】	・いつもと違う集団の中でも、落ち着いて活動に参加しようとする。			

事例：特活（実態：重度）

令和6年度		特別活動	指導計画及び評価	3	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1)望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 (2)集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 (3)人としての在り方、生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。			配慮すべき 特性等	(視覚)活動に見通しを持てるように、イラストや写真などを使った視覚的教材を使用する。 (聴覚)個別に声をかけ、活動に向かう気持ちをもちたせる。 (触覚)体験的な活動を多く取り入れる。 (その他)			
評 価								

【1学期】				
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題等
学級活動 (時間)	(1)集会に参加することを通して、学級、学年での活動に慣れる。 (2)愛校作業の手順を教師と一緒に確認しながら行う。 (3)自分の役割を知り、教師と一緒に行動とする。 内容 ・たんぼば集会・愛校作業・係の仕事	【知・技】	集会に参加することを知り、その場で教師や友達と一緒に活動する。	・集会などで集まる際に、何の活動をするかの見通しをもって、参加できるように指導を行う。 ・係や愛校作業では、自分の仕事として捉えられるように繰り返し行う。
		【思・判・表】	雑巾を絞ることが分かり、雑巾を絞ろうとしている。	
		【主体】	係や仕事を理解し、自ら行動しようとしている。	

【2、3学期】					特別活動	
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題等		
学級活動 (時間)	(1)集会に参加することを通して、学級、学年での活動に慣れる。 (2)係の仕事を選んだり、教師と一緒に仕事の手順を確認したりする。 (3)友達や教師との関わりを楽しみ、様々な活動に関心をもって取り組む。 内容 ・たんぼば集会 ・係の仕事 ・学期の振り返り	【知・技】	集会に参加することを知り、その場で教師や友達と一緒に活動する。	・たんぼば集会で進行役をクラスで担当し、次第をめくるという役割を受けもち、練習に取り組んだ。 ・当日は欠席してしまっていたが、役割があることで、その場で活動する目的が明確になる。 ・係の仕事を選ぶことは難しいが、教師と一緒に取り組むことで仕事内容を覚え、自分の係と認識して行うことができた。		
		【思・判・表】	係の仕事を選んだり、教師と一緒に仕事の手順を確認したりする。			
		【主体】	様々な活動を楽しみ、友達や教師と関わろうとしている。			
児童生徒会活動 (時間)	(1)他学年や他学部の児童生徒と一緒に活動することを知り、教師と一緒に会に参加する。 (2)学年や学級が異なる集団での交流を通し、様々な人との関わりを通して自分の気持ちを表現する。 (3)活動に関心をもち、楽しく取り組もうとする。 内容 ・わかばオンステージ ・冬休みの生活について	【知・技】	学年で発表する出し物の身体表現やダンスをすることを知り、音楽に合わせて身体を動かしている。	未実施(3学期実施予定)		
		【思・判・表】	発表することの楽しさを自分なりの方法で表現している。			
		【主体】	他学年や他学部の友達の様子に関心をもって見ようとしている。			
学校行事 (時間)	(1)行事や避難訓練を行うことを理解し、落ち着いて行動する。 (2)場の雰囲気を感じながら、教師と一緒に参加する。 (3)活動に関心をもち、意欲的に取り組もうとする。 内容 ・儀式的行事(始業式・終業式・50周年式典) ・学習発表会 ・避難訓練 ・愛校作業	【知・技】	避難訓練で避難することが分かり、教師と一緒に避難する。	・教師と一緒に練習したり、活動したりすることで、この場面で何をしたら良いかを知り、当日も教師の支援を受けながら活動することができた。 ・一人で行う場面を増やしていくことが課題である。		
		【思・判・表】	発表する場面で、練習してきたことを表現しようとする。			
		【主体】	活動を楽しみ、自分なりの方法で参加する。			

まとめ

令和7年度		指導計画及び評価		小学部3年グループ	
①年間指導目標	※授業計画者（CT）が記載	小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	※担任が記載 （視覚） （聴覚） （触覚） （その他）感覚以外での配慮すべき部分を支援計画から抜き出して記載。	
②評 価	※授業担当者（ST）が記載				
【1学期】					
④単元名	⑤指導計画（目標及び内容）		観点	⑥評価（規準・基準）	⑦成果と課題等
・授業カウント数がわからなかった。全体での指定が必要。 ※中高と描えた方がよい。	・一つの活動だけで【知】【思】【主】の観点別で計画できないものもあって悩み、単元というくくりで観点別に計画を立てた。 ・学習指導要領や年間指導計画などを参考に作成。 ・横断的な内容（道徳等でも扱う場合がある）について、どこで記載するのが悩んだ。指導内容表があると良いのでは。 ・「～を楽しむ」という目標が適切なのか疑問に感じた。評価する際も判断が難しい。 ・特に前期に関しては実態が把握できない中での作成になるので、個に落とし込んだ目標設定が難しい。CTが作成した目標をそのまま転記し、評価項目において個に合わせた評価 ・年間指導計画の目標や指導要領から【知】【思】【主】を個人におとせると良いが、図工などは量が増えてしまうのか？		【知・技】	・具体的な記述にすべきか悩んだ。 ・特別活動では単元が異なっても似た評価になってしまう。 ・一つの単元で【知】【思】【主】を網羅するような項目建てをした。 ・「楽しく取り組む」のように内面の心情に関しては、評価する判断が難しい。短い文章の中で適切な文言を探すのに悩んだ。 「自ら」「気づく」などをどこで評価したら良いか、より伝わるか。主体性はやや評価しにくい。 ・評価規準をグループでの統一とするか、個におとした文言にするかで悩む。実態差が大きいグループでは、どちらにするかで評価基準が大きく変わってしまう可能性がある。 ・特別活動で【知】【思】の評価の差をつけづらい	◎○△ ※授業担当者が記載 ・わかりやすく成果と課題について記載する。 ・評価規準では記載しきれない支援方法等をここに記載する。
			【思・判・表】		
			【主体】		
			【知・技】		
			【思・判・表】		
			【主体】		
			【知・技】		
			【思・判・表】		
⑧その他については裏面に記載 ※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載					

○その他

- ・教科の目標と個の目標が1枚になっていると良い。
- ・年間指導計画と個別の指導計画の様式を少し統一できると対比しやすい
- ・当様式を通信表とリンクさせると、手立て等細かな部分が伝えきれないのではないかと
- ・それぞれの項目について他の諸帳簿とどうリンクさせるか明確にできると良い。
- ・指導内容表の作成や指導計画にリンクしやすい年間指導計画の様式の必要性を感じた。
- ・自身が作成している年間指導計画と同じ個別の指導計画は作成しやすいが、他者が作った年間指導計画に合わせて個別の指導計画を作成することが難しかった。
- ・次の段階の部分を所見なり備考なりに変更してはどうか。
→研究推進部として「成果と課題等」という項目で提案。

< 4年生グループ>

事例：体育（実態：軽度）

令和6年度		体	育	指導計画及び評価		4	年	組	児生氏名	教科担当
【前期・後期】										
単元名		指導計画(目標及び内容)				観点	評価			
1【体づくり運動】 「音楽に合わせた体ほぐしの運動」		(1) 教師の支援を受けながら楽しく体操や運動に取り組む。(2) 基本的な運動に慣れ、楽しさや感じたことを表現できるようにする。(3) 簡単な決まりを守り、友達とともに安全に楽しく運動しようとする。内容・ゆうきたいそう・5分間走、5分間歩き・両足跳びの運動				【知・技】	手足の曲げ伸ばしやバランスの保持等、体の基本的な動かし方を分かろうとしている。	◎、○、△		
						【思・判・表】	音楽や声掛け、見本に合わせて体を動かしている。	○		
						【主体】	決まりを守り、教師や友達と一緒に楽しく運動している。	○		
2【走の運動】 (直線走)		(1) 直線やコーンを回る簡単なコースをゴールに向かって真っすぐ走る。(2) コーンを回ったあと、スタート位置に戻ってくるのが分かって取り組む。(3) 友達と競争することが分かり、なるべく早く走りきる。内容・バトンを持ち、直線やコーンを走って戻ってバトンを置く。				【知・技】	直線やコーンを回るコースをゴールに向かって走っている。	○		
						【思・判・表】	コーンを回った後、スタートの位置に戻ってくるのが分かり、活動に取り組んでいる。	◎		
						【主体】	友達と競争することが分かり、なるべく早く走り切ろうとしている。	◎		
3【ボールを使った運動】 「的当て、的入れ」		(1) 教師の支援を受けながら、ボールを目標物に向かって投げる。(2) ボールを使った基本的な運動に慣れ、楽しさや感じたことを表現する。(3) 簡単な決まりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動しようとする。内容・ボールを投げて枠に入れる、的に当てる。				【知・技】	目標物に当てたり、入れたりしようとしている。	○		
						【思・判・表】	投げたボールが目標物に当たったり、入ったりすると嬉しいことが分かり、狙いを定めて投げている。	○		
						【主体】	繰り返し学習を行う中で、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動をしようとしている。	○		
成果と課題 申し送り		運動への苦手意識が減ってきているので、成功体験を積みませながら、様々な運動にスモールステップで取り組んでいく。								

事例：体育（実態：重度）

令和6年度		体 育		指導計画及び評価		4	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1) 教師と一緒に、楽しく体を動かす。【知・技】 (2) 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現する。【思・判・表】 (3) 簡単な合図や指示に従って楽しく運動しようとする。【学・人】				小学校低学年	教科等における合理的配慮	・学習活動に見通しをもちやすいように、視覚的に教師の示範、友達の様子を見せる。 ・活動の始めは、笛などを使い、終わりは道具などを置いたり活動の終わりを分かりやすくする。 ・簡単な運動から、徐々に活動量を増やしたりして体育を楽しめるようにする。			
評 価										
【1学期】										
単元名	指導計画(目標及び内容)				観点	評価			次の段階に進むための指導等	
1【体づくり運動・遊び】 「」 (12時間)	(1) 教師の支援を受けながら、走ったり、ボールを投げたり、両足で腕を使って跳ぶ。 (2) 活動の始めは、笛の音を鳴らし、活動に見通しを持つ。 (3) 内容 ・ランニング ・ミニハードル（連続跳び）、両足跳び				【知・技】	音楽が鳴ると、走ることがわかり自分のペースで走ることができる。			○	・学習を積み重ねて、見通しをもてるようになることで、少しずつ活動に参加できるようになってきた。少しの変化の受け入れが時間がかかるが、繰り返し経験をして活動に慣れる必要がある。
					【思・判・表】	ミニハードルを、跳ぶために、教師の支援で腕を使って体を上に引き上げようすることができる。			○	
					【主体】	教師の掛け声で、教師と一緒に体を動かしている。			○	
2【ボール遊び】 「」 (6 時間)	(1) 両手でボールを持つ、教師の促しで的を狙う。 (2) 的には、ボールが通過したことがわかるようにネットを張る。的の真ん中には、印を付けることで、より狙いやすくなる。 (3) 教師の示範や友達の行動を見ることが見通しをもって学習に取り組む。 内容 ・ボールを投げ ・遠くにボールを投げる				【知・技】	ボールを両手を使って持ち、的を狙おうとしている。			○	・的を狙って投げることが、繰り返し行うことで、理解できてきた。的に目を向けることは、繰り返し行うことで狙うことを意識してきた。もう少し簡単な事から繰り返しステップアップも必要である。
					【思・判・表】	教師の声掛けで、自分の順番がわかり、活動をしようとしている。			○	
					【主体】	繰り返し学習をすることで、学習活動に見通しを持って取り組んでいる。			○	

【2、3学期】							体 育
単元名	指導計画(目標及び内容)				評価		次の段階に進むための指導等
1【器械・器具を使つての運動】 「マット運動」 (6時間)	(1) 体の保持に関わる体の動かし方がわかる。 (2) 教師の支援を受けながら楽しく機械・器具を使って基本的な運動をする。 (3) 簡単な決まりを守りながら、運動に取り組む。 内容 ・くまさん歩き（前歩き・後ろ歩き） ・丸太ころがり（両手を伸ばし、体全体を転がす。）				【知・技】	体の四肢を使い、前に進むことができる。	・
					【思・判・表】	体の四肢を使い、前に進むことができる。	
					【主体】	体全体を使って、動いたり、体を回し楽しみながら運動に取り組もうとしている。	
2【体づくり運動】 「縄跳び」 (6 時間)	(1) 手と腕を使って、縄を回して体を跳ねさせることができる。 (2) 支援を受けながら、縄を体に沿って回すことができる。 (3) 楽しく体を尾後貸すことができる。 内容 ・両手を使って、縄を体の後ろから前に回すことができる。 ・縄を回しながら、縄の上を跳ぶことができる。				【知・技】	左右の手、腕を使い縄を回すことができる。	・
					【思・判・表】	教師の支援を受けながら、縄を回して跳ぶことができる。	
					【主体】	縄を回したり、体と跳ねさせたりして、楽しく活動ができる。	

事例：特活（実態：重度）

令和6年度	特別活動	指導計画及び評価	4	年	組	児生氏名	教科担当
年間指導目標	(1)望ましい集団活動を通して、心身の調和をとれた発達と個性の伸長を図る。 (2)集団や社会の一員として、より良い生活や人間関係を築こうとする自主性、実践的な態度を育てる。 (3)人としての在り方、生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。		小学部 1段階	教科等における 合理的配慮	・活動の始まりや、終わりを本時に分かりやすいように提示する。 ・体験活動を多く取り入れ、児童が楽しみながら主体的に学習できるようにする。 ・事故や怪我のないように安全に留意する。		
評 価							
【1学期】							
单元名	指導計画(目標及び内容)		観点	評価		次の段階に進むための指導等	
【学級活動】 【学年・ブロック活動】 (時間)	(1)学級集団の中で、安定した人間関係を築き、自主性を育てる。 (2)集団活動を通じ、児童の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育てる。 (3) 内容 ・係決め 学期の振り返り たんぽぽ集会 ・		【知・技】	ゴミ捨て係を、毎日教師の言葉掛けでゴミを捨てに一人で所定の場所に捨て、戻ってくる際に新しいゴミ袋を設置する。		・毎日の係活動は、見通しを持って行うことができている。誕生会など、定期的な活動は積み重ねて経験することで、見通しをつけ、友達と協力したりしていくことができるようになる。と良い。	
			【思・判・表】	給食時に、給食を置く台を教師と一緒に、意欲的に移動させる。			
			【主体】	誕生会など学年を超えて、活動を理解し教師と一緒に関わろうとしている。			

まとめ

指導計画及び評価		小学部4年グループ	
①年間指導目標	・年間指導計画の中に年間指導目標が記載されているため、個別の指導計画にはこの欄がなくても良いのではない。	小学部1段階 単元によって段階が異なる場合もあるため、表記しなくてもいいのではない。	③配慮すべき特性等
②評価	・年間指導計画の中に年間を通して統括した評価が記載されているため、個別の指導計画にはこの欄がなくても良いのではない。		
【前期】			
④単元名	⑤指導計画（目標及び内容）	⑥評価（規準・基準）	⑦成果と課題等
・学年でここまで内容に差は生じないため、小学部としてのひな型があれば、授業を作りやすい。	・全ての単元と評価を書けるか、それと一部の単元・評価を書けばよいのか、どちらなのか。また単元を全て書くのは負担である。翌年の担任が児童の様子を知ることができるよう、全ての単元の記録している教員が多い。一部の単元・評価だけ書けばよい、などと悩む。	・学習指導要領に記載されている目標は担当している児童にとって、とても高い目標のように感じる。そのため、学習指導要領の目標をのみみて個々の児童の目標に落とし込んでいる。しかし自分が学習指導要領を適正にかみ砕いてかけているかどうか、自信がない。また特別支援学校の経験のない先生が担任してくる場合も多く、書くに戸惑ってしまう。	例えばボール投げの単元を行う。ボールを投げられない場合、次の段階としてどのような課題を設定したら良いのか、分からない。
・「学級活動」「児童会活動」などの領域だと書きにくい。	・また単元を数個書くのであれば、優先順位をつけようと思うが、どうやって優先順位をつけていけば良いのか分からない。	・記号で評価を付けていくことは、個別の指導計画という体裁として、少し不自然ではないかと感じた。	・左記に書かれた評価が児童にとっての成果となっているため、再度この欄を使って成果を書かなくてもよいのではない。
・「学級活動」「児童会活動」などの領域だと書きにくい。	・特別活動では、決まりが活動内容になっているが、係活動自体は日常生活の中で評価している。そのため、係活動をどちらに書けば良いのか分からない。	・担当が変わると、児童に対する見方や教育観も異なる。そのため、評価のひな型があれば、年度ごとに評価にぶれが生じないのではない。	・左記に書かれた評価が児童にとっての成果となっているため、再度この欄を使って成果を書かなくてもよいのではない。
・何時時間を記載するのは大変である。	・年間指導計画に記載されている目標を個別の指導計画に落とし込む際に、一人一人の実態に合わせて目標をかみ砕いて書くことが難しい。	・記号だと、具体性に欠けるため、個を大切にしている特対に対して、少し違和感を感じた。	・何をしても◎なのかわからない。
	・目標は個々の教員が書くのではなく、中学部のように3段階の実態ごとに記載したものを個別の指導計画の目標として、個々の児童に落とし込んでいけば良いのではない。		
	・またそのためには、年間指導計画を整える必要がある。		
	・児童の実態は様々ではあるが、学年ごとに大きな実態差はみられない。そのため、小学部全体で3段階の目標を作っても良いかもしれない。		
	・現在、3グループ（1グループは実態が高い、残り2グループは等質）に分けて、音楽に取り組んでいる。もし目標を3段階に分けて取り組むとしたら、グループ自体を実態別に分ける必要がある。		
	・小学校であれば、通信表にテンプレートがある。そのようにテンプレートがあれば、書きやすいのではない。		
	・肢体不自由の学校では、児童の実態を書く欄がある。わざわざ、すでに目標を書く欄があるため、他校から来た先生は少し疑問に感じる。		
	・この欄には、児童にとっての課題や、行った支援方法を具体的に記載できるとよい。		
成果と課題 申し送り			
⑧その他については裏面に記載 ※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載			

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

・年間指導計画から個別の指導計画に目標を落とし込んでいくので、今回は大本になっている年間指導計画の方から先に検討したかった。

・新しい書式を考えるのではなく、中学部など他の学部の手紙の書式を小学部にも取り入れたら良いのではないかな。

- ・個別の指導計画に落とし込みやすく、汎用性の高い年間指導計画が欲しい。

・書式は一年ではなく、数年単位で検討する話題であるため、もう少し検討する時間が欲しかった。

・学年での話し合いでは煮詰まってしまうため、他学年の話し合いや意見を聞ける機会があれば良かった。研究推進部からのフィードバックが欲しかった。また中間報告会などを開催してほしい。

- ・学年にまとめ方がゆだねられていたため、4年生としては書式の変更に対して、力を注いで行った。

・1教科に対して1枚の個別の指導計画となっているため、各教科で書くことは負担になると感じた。また今までより書かなければならない欄が増えていたため、大変であった。

事例：体育（実態：軽度）

事例：道德（実態：軽度）

まとめ

令和7年度		指導計画及び評価		小学部5年グループ	
①年間指導目標	※授業担当者（C T）が記載	小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	※担任が記載 ・担任の名前が記載されているとわかりやすい。 ・全ての教科同じ内容（コビベ）でもよいのか。 （視覚） （聴覚） （触覚） （その他）感覚以外での配慮すべき部分を支援計画から抜き出して記 載	
②評 価	・書く人は「教科担当」と言うよりも「評価担当」という名称のほうがわかりやすい。				

【1学期】

④単元名	⑤指導計画（目標及び内容）	観点	⑥評価（規順・基準）	⑦成果と課題等	
・単元名、指導目標、内容は年間指導計画をコビベする程度で済むように整える。また、計画は実態別グループごと作成するとよい。 ・単元名等の欄は誰が書くのか、担任か、C Tか。	・目標と内容（評価規順含む）は成績処理期間の時にグループごと、再度検討することが必要である。	【知・技】	・学習指導要領でも道徳は3観点ではないと言っている。記述もしくは、別の項目にしたほうがいい。3観点では要録ともリンクしにくい。 ・「評価」欄を「評価項目」または「評価規順」欄に名称を変えるとわかりやすい。 ・評価規順は、教科のC Tが初めに考えておき、評価担当の教員がそこから選べるようにするとよい。 ・「評価担当」が書くのは、⑥と⑦だけでいいの。	◎△	
		【思・判・表】			
		【主体】			
		【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
		【知・技】			
		【思・判・表】			
【主体】					

⑧その他については裏面に記載
※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

・個別の指導計画と通信表をリンクさせるのなら、通信表も評価項目にしないと難しい。

< 6年生グループ >

事例：図工（実態：重度）

令和6年度		図 画 工 作		指導計画及び評価		6 年 組 児童氏名		教科担当	
年間指導目標	(1) 形や色の違いに気付き、材料や用具の使い方を身に付けながら、作品をつくる。 (2) 表したいことや表し方を考えて作品をつくり、作品の様子を感じ取って言葉に表す。 (3) 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わったり、形や色などに関わろうとする態度を養う。	小学部 2段階	教科等における 合理的配慮	・手順や材料は必要な物のみ、順番に提示していくことで、混乱を防ぐ。 ・教師が手本を示してから活動を行うことで、見通しをもって自ら取り組める状態をつくる。 ・色や形などを教師が言葉で様々尋ねることで、作品の様子を見取る視点を提示できるようにする。 ・活動に集中できるように、座席は教室前方とする。					
評 価									

【2、3学期】

単元名	指導計画（目標及び内容）	観点	評価	図 画 工 作	次の段階に進むための指導等
1【A表現】 「紙で表現しよう」 (8時間)	内容 ・混色 ・サファリパークをつくろう（かく、ぬる） ・思い出のコラージュづくり（修学旅行、学習発表会）	【知・技】	見たことや感じたことを通して、形や色などの違いに気付き、様々な材料や用具を使ってかく。	・	
		【思・判・表】	見たことや感じたことから、表したいことを思いつき、作品に表す。		
		【主体】	進んで表現の活動に取り組み、形や色などに対する好奇心やつくりだす活動に向かう意欲をもつ。		
2【A表現】 「形で表現しよう」 (26時間)	内容 ・○○○○ぶどうをつくろう（紙粘土） ・オルゴールづくりorステンドグラスづくり ・サファリパークをつくろう（木工） ・人形をつくろう（人型模型） ・卒業制作（共同制作）	【知・技】	見たことや感じたことを通して、形や色などの違いに気付き、様々な材料や用具を使ってつくる。	・	
		【思・判・表】	見たことや感じたことから、表したいことを思いつき、形をつくる。		
		【主体】	進んで表現の活動に取り組み、形や色などに対する好奇心や材料や用具に対する関心をもつ。		
3【B鑑賞】 「展覧会をしよう」 (4時間)	内容 ・コラージュ鑑賞会 ・一年間のまとめ	【知・技】	自分たちの作品を見たり、感じたりすることを通して、形や色などの違いに気付く。	・	
		【思・判・表】	自分たちの作品を見て、形や色の面白さを感じたり、自分のイメージをもったりする。		
		【主体】	進んで鑑賞の活動に取り組み、形や色などに対する好奇心をもつ。		

事例：道徳（実態：重度）

令和6年度		特別の教科 道徳		指導計画及び評価		6	年	組	児童氏名	教科担当
年間指導目標	(1)気持ちのよい関わり方や自然や動物を大切にすることを身に付けて、人やものを大切にする。 (2)約束やきまりを守ることの理由や、自分のことは自分で行う大切さに気付く。 (3)自分の行動を振り返ったり、善悪を判断したりして、集団により良く関わったり、健康や安全に気を付けて生活する。				小学校 5・6年	教科等における 合理的配慮	(視覚) 注意散漫になりやすいため、前を向くように後方に座席を置く。 (聴覚) 周りの子どもたちの声に反応しやすいため、イヤーマフを着用する。 (触覚) 触られるのが苦手なため、手本等は見えてわかるように示す。 (その他) 特になし。			
評価										
【2、3学期】										
単元名	指導計画(目標及び内容)				観点	評価	【理解】道徳的価値の理解 【見方】多面的・多角的な見方 【自己】自分自身との関り			
1 B 主として人との関わりに関すること (2時間)	内容 ・目上のひとに対していい言葉を使う ・ふわふわ行動とちくちく行動				【理解】	「ばいばい」を「さようなら」と言い換える等、目上の人に対する正しい言葉を知ることができた。	・「ばいばい」「ありがとう」等の適切な言葉遣いは理解しており、言い換え方を答えることができていた。しかし、普段の生活の文脈では、自ら切り替えることは難しい。 ・年上、同級生、年下等の学習を繰り返して行っていく必要がある。			
					【見方】	年齢によって目上の人かどうか判断することは難しかった。しかし、友達と教師では立場が違うということは理解しており、教師に対する正しい言葉を考え、発言することができた。				
					【自己】	自ら目上の人に対して、言葉遣いを改めることは難しい。教師を模倣しながら「ありがとうございます」等の丁寧な言葉遣いに取り組んでいる。				
2 A 主として自分自身に関すること (実施せず)	内容 ・ものの貸し借り				【理解】	実施せず	実施せず			
					【見方】	実施せず				
					【自己】	実施せず				
3 C 主として集団や社会との関わりに関すること (3時間)	内容 ・性の指導 ・公共の場でのマナー				【理解】	指導中	指導中			
					【見方】	指導中				
					【自己】	指導中				

まとめ

令和7年度		指導計画及び評価		小学部6年グループ	
①年間指導目標	※授業担当者（ＣＴ）が記載	小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	・合理的配慮は誰が記載するのか、最初のページにまとめて書けばよい。 ・教育支援計画と違って、学校での合理的配慮を書くことは必要だ。 ※担任が記載 （視覚） （聴覚） （触覚） （その他）感覚以外での配慮すべき部分を支援計画から抜き出して記載	
②評 価	※授業担当者（ＳＴ）が記載				
【1学期】					
④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価（規順・基準）	⑦成果と課題等	
・図画工作は学習指導要領の領域ごとに分けて記載するのでは、何を学習したのかわかりにくい。題材ごとに単元を区切れるとよい。	・指導目標と評価規順は教科担当のＣＴが初めに立案しておくことよい。指導・評価担当の教員がそこから児童に合わせて選択できるとよい。	【知・技】	・図画工作では評価規順を見て、何を学習したのか保護者も想像ができるように具体的な評価規順を立てられるとよい。 ・道徳は3観点で書くことややり違や感が残る。指導要録とのつながりもよくない。	◎△	・児童生徒の課題もはっきりと記載できる欄があるとよい。
		【思・判・表】			
		【主体】			
		【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
		【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
⑧その他については裏面に記載 ※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載					

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

- ・個別の指導計画と年間指導計画の結びつきを強める必要がある。年間指導計画に記載した単元が、そのまま個別の指導計画に反映できるようするとよい。
- ・年間指導計画の立て方が学校・学部で統一されること、さかのぼって、指導内容表が整うことがなければ、様式を機能的に使っていくことは難しいのではないかな。
- ・道徳は今年度から授業での指導が始まったばかりである。道徳という教科について、職員が共通理解を図るためにも、研究で取り組んでいけるとよいのではないかな。

学部のとまとめ

研究手続き

- 1 参加者：小学部所属の教員48人が参加した。それぞれ学年に分かれて研究を行った。学部主事とフリーの教員は補講等であることの多い学年グループに参加できるよう振り分けた。
- 2 運営者：各学年1人が研究日の進行やまとめ、報告を担った。小学部1、3、4、6年は学年所属の研究推進部員が行った。小学部2、5年は部員が不在のため、学年主任に依頼した。
- 3 研究方法：校長から提案された、新たな個別の指導計画（新様式）について、研究日を通じて検証を行った。小学部では2024年6月から2025年1月にかけて計6回、研究日を開いた。学校行事との兼ね合い等で、学年ごと柔軟に日付を設定することもあった（表1）。

表1 各研究日の大まかな内容

①	6月20日	後期の事例研究に向けて、対象の児童と教科・領域を決定。
②	7月中	前期の学習評価を一部転記して、新様式の書き方を確認。
③	9月5日	事例検討①：新様式（各教科）について意見交換。
④	10月24日	事例検討②：新様式（日常生活の指導（日生）、特別活動（特活）、特別の教科道徳（道徳））について意見交換。
⑤	12月12日	事例検討①②の振り返り。学年のまとめの作成。
⑥	1月23日	学部研究会：小学部のまとめの報告。質疑応答。

①は後期の事例研究に向けた準備を行った。対象となる児童は各学年から障害が軽度の児童、重度の児童1名ずつ選出。ただし、小学部5、6年は学年規模が小さいため、各学年から1名とした。教科・領域は学年で相談して決めてもらった。ただし、日常生活の指導と特別活動、道徳については事前に振り分けた（表2）

表2 対象となった児童と教科・領域

1年生	実態 高	児童A	音楽	日生（朝の会・帰りの会）
	実態 低	児童B	音楽	日生（朝の会・帰りの会）
2年生	実態 高	児童C	体育	日生（給食指導）
	実態 低	児童D	音楽	日生（給食指導）
3年生	実態 高	児童E	体育	特別活動
	実態 低	児童F	図工	特別活動
4年生	実態 高	児童G	体育	特別活動
	実態 低	児童H	体育	特別活動
5年生	実態 高	児童I	体育	道徳
6年生	実態 低	児童J	体育	道徳

対象児童の評価担当の教員には夏季休業中に、対象教科の個別の指導計画のみ新様式で作成してもらった。③～⑤はその新様式を用いて、3つの討議の柱（表3）で意見交換を行った。

表3 討議の柱

柱1	他の諸帳簿と併用できる部分を増やし、全体としての事務作業量の軽減を図るには。
柱2	指導目標及び評価の観点の立て方について。
柱3	本校で行われる各教科を合わせた指導（日生）の必要性、在り方とは。（低学年のみ）

以下に、新様式の書き方について小学部の意見を報告するとともに、研究から示唆された成果と課題について、上記の3つの柱に沿って述べていく。

書き方と記載例（各教科：音楽科を例にして）

令和X年度	各教科の書き方と記入例（音楽）	指導計画及び評価	Y	年	Z	組	児生氏名	〇〇	〇〇	教科担当	△△	△△
①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画を参考に、個々に3観点で設定する。 ・音楽に親しみ、身体を動かす、楽器を鳴らす、声を出す等して簡単な音楽表現を行う。【知】 ・様々な音や音楽に興味をもち、感じたことを表現する。【思】 ・音楽活動を通して、教師や友達とのかわりを楽しみながら進んで表現する。【学】	小学部 1 段階	③配慮すべき特性等	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で箇条書きし、全シートに反映。 （視覚）・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 （聴覚）・特になし （触覚）・特になし （その他）・転倒防止のため、手を繋いで移動する。 （教科・領域ごとの配慮） 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・同じ活動に繰り返すことで、活動への見通しを促し、主体性を引き出せるようにする。 ・リズムや音階に気付きやすくなるよう、同じフレーズが繰り返される曲を選定する。								
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように箇条書きで記述する。 ・教師と一緒に音楽のリズムで楽器を鳴らせる場面が増えてきた。タイミングに合わせて声を出すことは難しいが、教師や友達と一緒にリズムに合わせて身体を動かすことができていた。【知】 ・音楽の鳴る方向を向いて聴いたり、教師と一緒に音楽に合わせて身体を動かすことで、笑顔がみられることが増えてきた。【思】 ・楽器に興味をもって自分から楽器を鳴らしたり、教師のかかわりを受け入れて一緒に身体を動かしたりすることができた。しかし、音楽や周りの様子に合わせて取り組むことは難しかった。【学】											
【1 学期】												
④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価の観点		評価	⑦成果と課題等						
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的になる場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画を参考に、3観点を箇条書きする。 （C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い）	【知・技】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・学習指導要領を参考に、指導目標をより具体的に客観的な文言に書き換えることで、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・評価時に◎もしくは○を囲むような評価の観点を設定する。		◎	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。						
		【思・判・表】			○							
		【主体】			△							
		【知・技】										
		【思・判・表】										
		【主体】										
! 【音楽遊び】 「音を鳴らそう!」 ・『ちいさな鳥の歌』（オーシャンドラム） ・『ドレミの歌』『かもつれっしや』（音階楽器：ベルハーモニー・キーボード、打楽器：シンバル）	・楽器の音の違いに気付いて注目したり、楽器を鳴らしたりする。【知】 ・音や音楽を感じて、楽器に注目したり、選んで鳴らしたりする。【思】 ・自ら楽器に触れて音を鳴らそうとしたり、友達の教師の音を聴いて一緒に演奏しようとしたりする。【学】	【知・技】	日課の音読を聞いて、日課表に視線を向けている。		○	・単音のベルハーモニーを音楽が流れる間、鳴らした。手を放して繰り返し鳴らすことは難しかった。 ・シンバルを選んで教師や友達と一緒に演奏した。音楽の始まりから終わりまで一緒に鳴らし続けることは難しかった。						
		【思・判・表】	友達と一緒に授業名や場所の名前を復唱して、日課を確認している。		△							
		【主体】	日課に見通しをもって生活しようとしたり、期待感をもって授業に臨もうとしている。		○							
※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域 個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）												

書き方と記載例（日生（身支度））

令和X年度	日生（身支度）の書き方と記入例	指導計画及び評価	Y	年	Z	組	児生氏名	〇〇	〇〇	教科担当	△△	△△
①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画を参考に、個々に3観点で設定する。 ・基本的な日常動作を身に付け、最低限の支援や一人でできることを増やす。【知】 ・教師とやり取りしたり、一緒に取り組んだりして、基本的な生活習慣に取り組む。【思】 ・毎日の活動を通して、見通しをもって、自ら身支度に取り組もうとする。【学】	小学部 生活科 1 段階	③配慮すべき特性等	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で箇条書きし、全シートに反映。 （視覚）・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 （聴覚）・特になし （触覚）・特になし （その他）・転倒防止のため、手を繋いで移動する。 （教科・領域ごとの配慮） 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・自分から取り組み始める時には、大きく励まして、自信をもって行動できるようにする。								
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように箇条書きで記述する。 ・毎日取り組むことで身支度の仕方理解することができている。教師の働きかけがなくても、着替えや降り支度等に取り組めるようになった。ただし、連絡帳の提出し忘れ等は引き続き見られている。【知】 ・手順表を見て身支度に取り組めるようになっていた。ただし、注意が離れた時は、教師の声掛けや共同作業を要する。【思】 ・身支度の時間になると、進んで着替えに取り組むことができるようになった。また、身支度後の休み時間を楽しみに素早く身支度に取り組もうとする姿もみられている。【主】											
【1 学期】												
④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価の観点		評価	⑦成果と課題等						
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的になる場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画を参考に、3観点を箇条書きする。 （C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い）	【知・技】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・学習指導要領を参考に、指導目標をより具体的に客観的な文言に書き換えることで、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・評価時に◎もしくは○を囲むような評価の観点を設定する。		◎	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。						
		【思・判・表】			○							
		【主体】			△							
		【知・技】										
		【思・判・表】										
		【主体】										
【基本的な生活習慣】 【健康の保持】 【身体の動き】 着替え・身支度 ・衣服の前後 ・ハンカチの携帯 ・登下校時の支度	・衣服を前後正しく着用したり、ハンカチをポケットに携帯したりする。【知】 ・手順表が1つずつ行程を確認しながら、全ての手順を欠かさずに行う。【思】 ・教師の働きかけなく、自ら身支度に進んで取り組もうとする。【学】	【知・技】	日課の音読を聞いて、日課表に視線を向けている。		◎	・身支度前に手順表を渡して、身支度に取り組むよう促した。 ・手順表を手掛かりに身支度に取り組もうとするが、注意が離れて、手順を飛ばしたり、支度が中断したりすることがある。						
		【思・判・表】	友達と一緒に授業名や場所の名前を復唱して、日課を確認している。		○							
		【主体】	日課に見通しをもって生活しようとしたり、期待感をもって授業に臨もうとしている。		○							
※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域 個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）												

書き方と記載例（日生（朝・帰りの会））

令和X年度

日生（朝・帰りの会）
の書き方と記入例

指導計画及び評価

Y年Z組

児生氏名

〇〇 〇〇

教科担当

△△ △△

①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。個別指導：児生担当が入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画を参考に、個々に3観点で設定する。 ・挨拶や日付調べ等を通じて、言葉でのやり取りや日課に触れる。【知】 ・友達とのかわりを広げて、集団に合わせて行動する。【思】 ・学校生活の流れに興味をもち、日課に見通しをもととする。【学】	小学部 生活科 2段階 自立活動 2心理的な安定 6コミュニケーション	③配慮すべき 特性等	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で簡素書きし、全シートに反映。 （視覚）・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 （聴覚）・特になし （触覚）・特になし （その他）・転倒防止のため、手を繋いで移動する。
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように簡素書きで記述する。 ・日付調べや予定確認に取り組むことで、季節への理解や日課への理解がみられるようになってきた。【知】 ・出席確認等を通じて友達とかわること、周りの真似をして行動したり、相手の反応を待ったりする場面が増えてきている。【思】 ・予定確認等を通じて、学校生活の流れに見通しをもてることが増えた。教室移動等では、教師の促しを受け入れてスムーズに取り組んでいる。【主】	計画時のもの を記す。		【教科・領域ごとの配慮】 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・名札をボードに貼る際は、白紙の高さを調整して、名札を貼りとやすくする。 ・呼名の際、進んで手立てるよう、カスネットを提示する。

【1学期】

④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価の観点	評価	⑦成果と課題等
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的な場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画を参考に、3観点で簡素書きする。 （C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い）	【知・技】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・学習指導要領を参考に、指導目標をより具体的に客観的な文言に書き換えることで、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。 通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・評価時に◎もしくは○を狙えるような評価の観点を設定する。	◎	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。
		【思・判・表】		○	
		【主体】		△	
		【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
【日課・予定】 【心理的な安定】 今日の予定	・授業やその場所に興味をもって、注目する。 ・授業名や場所の名前を復唱して、日課に見通しをもつ。 ・予定を聞いて、日課に見通しをもとうしたり、授業に期待感をもとうたりする。	【知・技】	日課の音読を聞いて、日課表に視線を向けている。 友達と一緒に授業名や場所の名前を復唱して、日課を確認している。 日課に見通しをもって生活しようとしたり、期待感をもって授業に臨もうとしている。	◎	・日課を音読して確認できることが増えたが、気持ちに向かないときは音読できないこともある。 ・概ね日課に沿って行動することができているが、頻繁に教師に次の授業は何か、場所はどこか尋ねる様子もみられる。
		【思・判・表】		○	
		【主体】		○	

※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域
個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）

書き方と記載例（日生（給食の指導））

令和X年度

日生（給食の指導）
の書き方と記入例

指導計画及び評価

Y年Z組

児生氏名

〇〇 〇〇

教科担当

△△ △△

①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。個別指導：児生担当が入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画を参考に、個々に3観点で設定する。 ・食事の仕方を身に付けて、最低限の支援や一人で安全に食事をする。【知】 ・教師とやり取りしたり、一緒に取り組んだりする中で、安全に決まりを守って食事する。【思】 ・毎日の活動を通して、食への興味をもったり、自ら食べ進めようとする意欲をもったりする。【学】	小学部 生活科 1段階 道徳1・2年 自立活動 1健康の保持 5身体の動き	③配慮すべき 特性等	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で簡素書きし、全シートに反映。 （視覚）・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 （聴覚）・特になし （触覚）・特になし （その他）・転倒防止のため、手を繋いで移動する。
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように簡素書きで記述する。 ・食具の使い方や食事時の姿勢は身に付けることができている。一方、詰め込み食べ等の危険な食べ方は引き続きみられている。【知】 ・教師と一緒に食べ進めたり、やり取りをしりすることで、お皿の持ち方やスプーン・フォークの使い方が上達してきており、食べこぼし等も少なくなってきた。ただし、一口量は依然として多く、詰まらせる危険がある。【思】 ・教師とやり取りすることで、自分から食べ進めようとする場面が増えてきた。また、苦手な食べ物についても、小さくしたり、量を少なくしたりすることで食べようとする姿みられている。【主】	計画時のもの を記す。		【教科・領域ごとの配慮】 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・やり取りや選択機会を通じて、本人の意思を伝えられる場面を設ける。 ・教師が近くで食事するようにして、食べ方のモデルを示す。

【1学期】

④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価の観点	評価	⑦成果と課題等
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的な場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画を参考に、3観点で簡素書きする。 （C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い）	【知・技】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・学習指導要領を参考に、指導目標をより具体的に客観的な文言に書き換えることで、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。 通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・評価時に◎もしくは○を狙えるような評価の観点を設定する。	◎	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。
		【思・判・表】		○	
		【主体】		△	
		【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
【基本的な生活習慣】 【節度、節制】 【健康の保持】 【身体の動き】 食事	・座って食事に向かったり、食具を使って食事をしたりする。 ・教師を真似して食具を使って食事をしたり、声掛けを聞いて一口量等を意識して安全に食事したりする。 ・食に興味をもって、自ら給食を食べ進めようとする。	【知・技】	着席して、食具を使いながら食事している。 教師の真似をして、食具を使って一口ずつよく噛んで食事している。 苦手な食べ物も、教師とやり取りしながら食べようとしている。	◎	・食具の使い方を理解して食事できるようになってきたが、詰め込み食べをする様子は引き続きみられている。 ・苦手な食べ物は僅かではあるが、教師とやり取りしながら食べられることが増えてきた。
		【思・判・表】		○	
		【主体】		○	

※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域
個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）

書き方と記載例（特活）

令和X年度		特別活動の 書き方と記入例		指導計画及び評価		Y	年	Z	組	児生氏名	〇〇	〇〇	教科担当	△△	△△
①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画を参考に、個々に3観点で設定する。 ・望ましい集団活動を通して、心身を定定的に保ち、集団での行動の仕方を身に付ける。【知】 ・集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を身に付けるために、話し合いをしたり、考えたりする思いをもつ。【思】 ・集団の中で教師や友達と一緒に活動する楽しさを感じ、自分の力を知ったり、友達の良さについて認めたりしながら活動する。【学】	小学校 3・4年生	③配慮すべき 特性等	計画時の ものを 記す。	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で箇条書きし、全シートに反映。 (視覚)・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 (聴覚)・特になし (触覚)・特になし (その他)・転倒防止のため、手を繋いで移動する。										
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように箇条書きで記述する。 ・学校行事等の集団場面を通じて、集団でのふさわしい振舞い方を知ったり、正しく判断したりすることができていた。【知】 ・自分の気持ちと折り合いをつけることが難しいこともあったが、教師と一緒に友達とかかわろうとしたり、規則を守って集団に参加しようとする姿が見られるようになってきた。【思】 ・集団参加を通じて、自信をもって、学級活動や行事等に臨むことが増えている。また、教師と一緒に友達と関わる場面もみられるようになってきた。【主】				【教科・領域ごとの配慮】 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・活動を先走ってしまうことがあるため、活動カードを順番に提示するなど、場面に応じた工夫をする。										
【1学期】															
④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価		⑦成果と課題等										
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的になる場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画、特別活動全体計画等を参考に、3観点で箇条書きする。 (C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い)	【知・技】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・学習指導要領を参考に、指導目標をより具体的に客観的な文言に書き換えることで、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・特活は、指導目標に対応した児生の学びの姿を観点別で簡潔に記述する。		【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。										
		【思・判・表】													
		【主体】													
		【知・技】													
		【思・判・表】													
1【学校行事】 ・儀式的行事 ・避難訓練 ・学習発表会	集団の中で、その場にふさわしい参加の仕方を理解して、身に付ける。	【知・技】	「静かに参加する」「前の人を見て、話を聞く」等のふさわしい参加の仕方を理解して、行事に参加している 周りの様子に注意散漫になることもあるが、全体指示を聞いて、集団に合わせて行動している。 周りに合わせて静かに参加しようとしたり、話に意識を向けながら聞いたり、集団の一員として行事に臨んでいる		・行事に参加する際の決まりは徐々に理解しており、自らふさわしい行動をとろうとするところもあるが、周囲の様子に気が散ってしまうことも多い。										
	集団の場における規則正しい行動をとりながら、行事に参加する。	【思・判・表】													
	厳肅な気分を味わい、学校の一員として生活しようとする意欲をもつ。	【主体】													
※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域 個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）															

書き方と記載例（道徳）

令和X年度		道徳の 書き方と記入例		指導計画及び評価		Y	年	Z	組	児生氏名	〇〇	〇〇	教科担当	△△	△△
①年間指導目標	【記載者】集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】学習指導要領と年間指導計画等を参考に、個々に3観点で設定する。 ・気持ちのよいかわり方や自然や動物を大切にすることを身に付けて、人やものを大切ににする。【理解】 ・約束やきまりを守ることの理由や、自分のことは自分で行う大切さに気付く。【見方】 ・自分の行動を振り返ったり、善悪を判断したりして、集団により良く関わったり、健康や安全に気を付けて生活する。【自己】	小学校 1・2年生	③配慮すべき 特性等	計画時の ものを 記す。	【指導全般での配慮】 【記載者】児生担当が入力。 【書き方】個別の教育支援計画を基に4観点で箇条書きし、全シートに反映。 (視覚)・実物や写真、絵カード等の視覚教材を使用して、見通しを促す。 (聴覚)・特になし (触覚)・特になし (その他)・転倒防止のため、手を繋いで移動する。										
②評 価	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】年間指導目標に対応するように箇条書きで記述する。 ・相手の気持ちを考えでかわり方を考えることは難しかったが、ふさわしいかわり方等は正しく判断ができていた。【知】 ・約束やきまりの大切さの理解は難しかったが、それらを破ることで何が起るのか等、自分事として考える機会を設けることで、より良い人とかかわりかたを考える姿がみられている。【思】 ・突発的な行動が多くみられているが、その都度、教師と振り返りしたり、約束を確認したりすることで、より良く生活しようとする姿がみられつつある。【主】				【教科・領域ごとの配慮】 【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】特記事項があれば入力。 ・特になし										
【1学期】															
④単元名・題材名	⑤指導目標	観点	⑥評価の観点		評価	⑦成果と課題等									
【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・従来と同様、評価する単元を選択して入力。 ・音楽科や特別活動のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的になる場合は、題材名や行事名を併記する。	【記載者】 集団授業：C Tが入力。 個別指導：児生担当が入力。 【書き方】 ・学習指導要領や年間指導計画、道徳の全体計画等を参考に、3観点で箇条書きする。 (C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を3段階立てておくとう良い) ・道徳は【理解（道徳的諸価値について理解する）】【見方（物事を多面的・多角的に考える）】【自己（自己を見つめる、自己の生き方についての考えを深める）】の3観点で児生の目標とする姿を箇条書きで記す。	【理解】	【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・道徳は、指導要領との接続を考慮して、【理解】【見方】【自己】の3観点の内容を押さえながら、児生の学習の様子や道徳性の成長の様子を記述する。通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。		【記載者】評価担当の教員が入力。 【書き方】 ・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。										
		【見方】													
		【自己】													
		【理解】													
		【見方】													
		【自己】													
1【B 主として人との関わりに関すること】 ・礼儀 「目上の人に対して丁寧な言葉を使う」 「ふわふわ行動とちくちく行動」	丁寧な言葉や態度、相手が嬉しくなる言葉や行動をとる。	【理解】	「バイバイ」を「さようなら」と言い換える等、丁寧な言葉遣いは知っていたが、大人に対しても友達のように話しかけていた。教師の手本を繰り返し真似たりすることで、教員に丁寧な言葉遣いでやり取りすることが増えている。友達と教師では立場が違うということは理解しているが、年齢を基に目上の人か判断するには至っていない。		・教師に対しての言葉遣いは丁寧になったが、その他の大人に対しても、そうしたやり取りができるよう、目上の概念については引き続き、具体例も交えながら説明していくと良い。										
	友達や教師への思いやりある言葉や態度を場面に応じて考える。	【見方】													
	自己を振り返り、友達や教師に礼儀を守って関わろうとする。	【自己】													
※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域 個別指導：児生担当が個別に計画を立てて指導する教科・領域（国算・日生）															

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

○個別の指導計画の運用について

- ・引継ぎ資料として活用できる様式になるとよい。学年ごとの記入例があるとありがたい。
- ・年度初めは児生の実態が分からず、年度始めから指導目標や評価の観点を立てるのは困難。指導目標と評価の観点は、単元計画や指導案作成の段階で細かに示す等、作成時期を柔軟に対応してほしい。
- ・新様式は従来よりも記入欄が増えているので、作業量が増えるかもしれない。1シート作るのにもかなりの労力を要した。計画等で適宜見直しをしていくことを考えると辛い。
- ・学習指導要領の構成上、学習内容がはっきりしている教科（例：体育科）は計画が立てやすかった。しかし、しかし、「日常生活の指導」では、1シートに書く内容が複雑で書きづらかった。
- ・まずは中学部、高等部で既に行われている観点別評価を小学部に導入する。それから、新様式について検討を行っても良かったのではないかな。

○年間指導計画に絡めて

- ・学習指導要領に則って作成する。指導目標は学習指導要領に記載された目標を転記する。個別の指導計画の「評価の観点」は、それを基に、個々の実態に合わせて記載する。
- ・個別の指導計画（新様式）と同じような様式になれば活用しやすい。

○指導内容表（シラバス）について

- ・教科横断的な指導内容（例：特活・道徳のどちらでも扱えるような内容）は、どのシートに計画を立てればよいかわからない。指導内容表で棲み分けを明確にすることが必要。
- ・シラバスを作成して、校内で情報共有を図ると、年間指導計画及び個別の指導計画が作成しやすい。また、学部を横断した、系統的な指導のためにもシラバスは必要。

○諸様式について

- ・個別の指導計画（新様式）と年間指導計画、通信表が似た書式になれば活用しやすく、多忙化改善にも繋がる。特に個別の指導計画と年間指導計画は連動するような書式になると良い。大本となる年間指導計画から先に検討できると良かった。
- ・個別の指導計画（新様式）と通信表がリンクすると、手立て等の細かな部分が伝えきれないのではないかな。
- ・自分が年間指導計画の作成に携わった教科・領域で個別の指導計画（新様式）を作成することはできたが、そうではない教科・領域では年間指導計画の書き方が異なるため、難しさがあった。様式や書き方が統一されると良い。
- ・個別の指導計画だけでなく、他の様式も含めて、複数年で検討していけると良い。
- ・単元計画や指導案を評価の仕方も含めて作ったり、共有したりすることで、多忙化が改善したり、より良い授業づくりに繋がったりすると思う。

○評価の観点の立て方について

- ・【思】【主】の立て方に悩んだ。「楽しむ」等抽象的な表現にならないよう注意した。
- ・3観点になることで、児生の自主性の気付き等、内面に関して評価することが難しかった。簡潔かつ具体的に表すための文言を探すのに悩んだ。

- ・学習指導要領の目標・内容を実態に合わせて、噛み砕き、設定しているが自信がない。

○各教科等を合わせた指導、特別活動、特別な教科道徳、自立活動について

【日常生活の指導】

- ・児童によっては、「朝・帰りの会」の指導で「自立活動」の目標・内容を含まない児童もいる。（「生活科」のみの目標立て・評価のみでよい。）
- ・例えば、時計を用いて生活の指導を行う場合、含まれる教科・領域は「生活科」と「自立活動」だけではない。各教科等を合わせた指導である「日常生活の指導」として、計画・評価をすると違和感がない。
- 児生の成長・発達の基盤をつくるのが「日常生活の指導」である。今後も実施すべき。

【特別活動】

- ・異なる単元でも似たような評価の観点になってしまった。また、同じ単元でも【知】【思】の評価に差をつけにくかった。
- ・例えば、係決めの場合、「日常生活の指導」と「特別活動」のどちらで扱えば良いのか。

【特別な教科道徳】

- ・小学部では授業での指導が始まったばかりで手探りの状況である。道徳も含めた、全ての教科・領域で学年・学部の系統的に指導できるように、指導内容表作りを通して、理解を深められると良い。

【自立活動】

- ・過去の学校研究を経て、各教科等と自立活動の個別の指導計画の書式は別々になった。新様式に移行しても、別々に作成していけると良い。

○その他、研究について

- ・年度初めと終わりに学部研究会を実施して、その年度のゴールを明確に示してほしい。
- ・学年ごとのグループ研究では内容が煮詰まってしまった。縦割りで取り組んだり、中間報告会を開く等して、研究推進部からフィードバックをもらったりできると良かった。

まとめ

1 新様式の書き方について：各学年の意見をまとめ、小学部としての書き方を示した（表4）。

表4 新様式の書き方（小学部案）

	作成時期		・前期：指導計画作成期間は①～⑤を入力する。その後、継続して実態把握を行い、単元計画や指導案等で指導目標や評価の観点が示されてから、補足や修正を行う。 ・後期：指導計画作成期間に①～⑥評価の観点まで入力する。 ・通年：あくまでも計画であるため、指導内容の変更や実態の変化に合わせて適宜修正していくものとする。
①	年間指導目標 指導する段階	記載者	集団授業：C Tが入力する。 個別指導：児生担当が入力する。
		書き方	・学習指導要領と年間指導計画等を参考に、個々に設定する。

			・3観点【知・技】【思・判・表】【学】で簡条書きする。道徳は【理解】【見方】【自己】の3つの観点で簡条書きする。 ・目標と内容の段階は、計画時のものを記す。
②	評価	記載者	評価担当の教員が入力する。
		書き方	・年間指導目標に対応するように簡条書きで記述する。
③	配慮すべき 特性等 【指導全般】 【教科・領域 ごと】	記載者	集団授業：【指導全般での配慮】は児生担当が入力する。 【教科・領域ごとの配慮】は評価担当の教員が入力する。 個別指導：いずれも児生担当が入力する。
		書き方	・【指導全般での配慮】は個別の教育支援計画を基に（視覚）（聴覚）（触覚）（その他）の観点で簡条書きし、全シートに反映させる。 ・【教科・領域ごとの配慮】は特記事項があれば入力する。
④	単元名	記載者	集団授業：C Tが入力する。 個別指導：児生担当が入力する。
		書き方	・従来と同様に、評価する単元を選択して入力する。 ・音楽科や特活のように領域・内容の幅が広く、目標や評価が抽象的になってしまう場合は、題材名や行事名を併記する。 ・日生は「日生（身支度）」「日生（朝・帰りの会）」「日生（給食）」の3シートに分割し、個々に必要なものを使う。
⑤	指導目標	記載者	集団授業：C Tが入力する。 個別指導：児生担当が入力する。
		書き方	・学習指導要領や年間指導計画、特活・道徳の全体計画等を参考に、3観点【知・技】【思・判・表】【学】で簡条書きする。（C Tは年間指導計画の立案時に、指導目標を複数段階立てておく和良好的） ・道徳は【理解（道徳的諸価値について理解する）】【見方（物事を多面的・多角的に考える）】【自己（自己を見つめる、自己の生き方についての考えを深める）】の3観点で児生の目標とする姿を簡条書きで記す。
⑥	評価の観点 評価	記載者	評価担当の教員が入力する。
		書き方	・学習指導要領等を参考に、指導目標をより具体的で客観的な文言に書き換え、3観点【知・技】【思・判・表】【主】で評価の観点を立てる。通信表との接続を図るために、保護者が児生の様子を想像できるような文言を目指す。 ・文末は「～している」とし、児生の状態が分かるように記す。 ・評価時に◎もしくは○を狙えるような評価の観点を設定する。 ・特活は、指導目標に対応した児生の学びの姿を観点別で簡潔に記述する。 ・道徳は、指導要録との接続を考慮して、【理解】【見方】【自己】の3観点の内容を押さえながら、児生の学習の様子や道徳性の成長の様子を記述する。
⑦	成果と課題等	記載者	評価担当の教員が入力する。
		書き方	・実施した指導の手立て、今後の課題を簡潔に記す。

※集団授業：C Tが年間指導計画を立てて指導する教科・領域

2 成果と課題

（１）事務作業量の削減に向けて

まず示されたのは新様式の作成者とその分担を明確にすることの必要性である。例えば、①年間指導目標や④単元名・題材名、⑤指導目標、は当該の教科・領域の年間指導計画を立てるＣＴもしくは児生担当の教員が記載する。そして、②評価や⑥評価の観点、評価⑦成果と課題等の実際の評価に関わる箇所は評価担当の教員が記載する。ＣＴは年間指導計画や単元計画を立案する際、学習指導要領をもとに、児童の実態に合わせて複数の段階の指導目標を立案する必要は生じるが、評価に要する作業は削減できる可能性がある。本校高等部・中学部では既に取り組みされており、小学部への導入も期待される。次に示されたのは他の諸帳簿との連動の必要性である。例えば、個別的教育支援計画に記載される合理的配慮の記載が③配慮すべき特性等の一部に反映される。年間指導計画とリンクさせ、④単元名・題材名等を選択できるようにする等の工夫が考えられた。しかし、事例検討を通じて新様式に触れた教員の多くは、記入欄の増加に伴う作業量の増加を実感している。特に日生は内容の幅広さから、より作成が煩雑になる可能性が高い。新様式の活用によって事務作業量の削減を図るには、諸帳簿の接続をシステム面から高めたり、運用方法について明確化したりすることが必要であると示唆された。

（２）より良い指導目標と評価の観点を立てるために

研究で明らかになったのは、指導目標や評価の観pointsの立案に悩む教員の存在である。例えば、【知識・技能】と【思考・判断・表現】が混同したり、抽象的な表現になったりしないように注意した、児童の【主体的に学びに向かう力】に関する評価が難しかった等の意見が寄せられた。また、３段階評価について、判断に悩むといった意見もあった。こうした課題に対応して学部内では、通信表との接続も念頭に置き、保護者が児童の様子を想像できるような具体的な観点を立てる必要があるといった意見もみられた。また、単元の始まりと終わりに評価の観点や結果をＣＴとＳＴが集まって確認、指導内容を網羅できるよう、例えば【知識・技能】の観点を増やしたり、音楽科等の教科によっては分けたりするといった提案もあった。これらに共通するのは、複数の目で具体的かつ客観的な指導目標や評価の観点を考えていくということである。そのためには、観点別評価や３段階評価の取り組み方について学校で統一の見解が示される必要があることが示唆された。

（３）日生、特活、道徳について

日生について、事例検討を行った小学部２年生からは各教科等の合わせ方について意見が挙がった。時計を用いて日課の指導を行う場合は「生活科」「算数科」「自立活動」の３つの教科・領域を合わせた指導が必要になるといった例も示された。また、学校生活そのものが児童の成長と発達の基盤になるという考えからも、日生は引き続き、弾力的に実施すべきであるという意見も挙がった。一方、児童の実態や指導する場面によって、指導に含まれる教科・領域が変わるという意見もあった。日生の実施の仕方については、児童に効果的な指導が行えるよう、引き続き検討を行っていく必要があることが示唆された。

特活と道徳については、今年度から年間指導計画を作成することになり、特に道徳は指導内容等、各学年で手探りの状態が続いている。特活と道徳に限らないが、児童の実態に合わせた指導、系統的な指導を行っていくために、本校独自の指導内容表作り等を通じて、小学部だけでなく全学部の指導を可視化、体系化していくことを求める意見が挙がった。

（４）まとめ

今年度は教員の多忙化改善を大きなテーマとしつつ、新様式の検証に取り組んだ。新様式の書き方や使い方については一定の示唆がみられたものの、実際に新様式に触れた教員からは、更なる多忙化を危惧する声が多数挙げられた。県統一の書式がR 8年度から施行されることについて不安感をもつ教員も多い。児童への指導、教員の多忙化改善の両面に良い効果を与えられるよう、個別の指導計画だけでなく、他の諸帳簿も絡めながら、引き続き検討が行われる必要がある。

(2) 中学部

①事例とまとめ (学年ごと)

1 年生グループ

事例 1 (教科：職業・家庭)

令和 6 年度	職業・家庭	指導計画及び評価	1	年	1	組	児生氏名	O・H	教科担当	H	
年間指導目標	(1)生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付ける。 (2)将来の職業生活や家庭生活に係る事柄から問題を見出し、学んだことを生かしたり調べたりして解決策を考える力を養う。 (3)よりよい職業生活や家庭生活の実現に向けて学んだことを生かし生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。					中 学部	教科等における合理的配慮	(視覚) 過敏なし (聴覚) 過敏なし (触覚) 過敏なし (その他) 特になし			
評 価						2 段階					
【 2、3 学期】										職業・家庭	樋川 海斗
単元名	指導計画(目標及び内容)					観点	評価			成果・課題	
1 クラフト作品の製作 (職業)	【知・技】 ・しおり作りの手順やラミネート機器の使い方を知り、身に付ける。 ・和紙作りの手順を知り、基本的な道具の使い方を身に付ける。 【思・判・表】 ・製品作りを行う中で、効率的な方法を考えたり、教師から提示された方法から選んだりして工夫する。 ・自分の課題点に気づき、解決方法や改善策を教師と一緒に考え、実践する。 【主体】 ・自分の役割に責任をもち、次回以降に繋げられるよう、友達や教師と相談しながら改善を重ねようとする。 【内容】 ・しおり作り・和紙作り・ポップ作り					【知・技】	和紙作りの手順を知り、基本的な道具の使い方を身に付けている。		◎	[和紙作り] ・切る、煮る、はがす、ちぎる等紙漉きの工程を理解して、完成させることができた。 ・ペーパーカッターを使用した際、正しい方を理解しているが丁寧に真つぐ切ることが難しかったため、教師の補助が必要だった。線に沿って切る等分かりやすい視覚補助が必要だと思う。 ・紙漉きの先に水を大量に使用するため、掃除を含めて片づけが大変だった。時短になる方法や片づけに時間を使わない方法を考えられるとよい。 [しおり作り] ・色塗りやラミネート加工など一つ一つの作業をから説明することで細かい部分のやり方が分かり、丁寧に作業することができた。 ・作業を進めるにあたって、生徒によって出来上がりの時間が異なり、待つ時間をつくってしまった。いくつかの工程を用意し、実態に応じて変更できるようにするとよい。 [ポップ作り] ・ ・	
						【思・判・表】	製品作りを行う中で、効率的な方法を考えたり、教師から提示された方法から選んだりして工夫している。		◎		
						【主体】	自分の役割に責任をもち、次回以降に繋げられるよう、友達や教師と相談しながら改善を重ねようとしている。		◎		
2 農作業 (職業)	【知・技】 ・サツマイモやラベンダーの育て方を知り、基本的な道具の使い方や採取の仕方を知り、身に付ける。 【思・判・表】 ・雑草の除草や実の採取について、効率的な方法を考えたり、教師から提示された方法から選んだりして工夫する。 【主体】 ・農業と日常生活の繋がりについて進んで知ろうとし、丁寧に作業へ取り組む。 【内容】 サツマイモ堀り、ラベンダーの花摘み、学級園の整備					【知・技】	サツマイモやラベンダーの育て方を知り、基本的な道具の使い方や採取の仕方を身に付けている。		◎	[サツマイモ植え・堀り] ・教師が手本を見せることで、サツマイモの苗の植え方が分かり、丁寧に植えることができた。 ・ [ラベンダー植え・花摘み] ・ポットからの出し方や植えるまでの工程を教師が見本となり最初に見せることで、見通しをもってラベンダーを植えることができた。 ・ [学級園の整備] ・自分達が管理している畑であることを意識しながら整備することができた。 ・決まった作業時間がタイマーなどで分かるとそれまで集中しようとする姿が見られた。 ・学級園に生える雑草を定期的に取り除いていたが、他の単元を学習中に学級園の整備時間を設けることが難しく、生徒の手で綺麗な学級園を維持することが難しかった。	
						【思・判・表】	雑草の除草や実の採取について、効率的な方法を考えたり、教師から提示された方法から選んだりして工夫している。		◎		
						【主体】	農業と日常生活の繋がりについて進んで知ろうとし、丁寧に作業へ取り組もうとしている。		◎		
3 校内清掃 (快適で安全な住まい方)	(1)汚れの特徴や道具の用途について知り、基本的な道具の使い方を身に付ける。 (2)清掃に係る問題点を見つけ、汚れの特徴、道具の扱い方、適切な道具の選択など、学習において学んだ見方考え方を働かせて課題解決をする。 (3)示範や手順表などを参考に自ら技術を身に付けようと粘り強く取り組もうとする。 学んだ清掃方法を日常生活において実践しようとする。 内容：窓ふき、下駄箱掃除、草取り、モップ掛け、特別教室の掃除					【知・技】					
						【思・判・表】					
						【主体】					
4 洗濯、掃除をしよう (衣服の着用と手入れ)	(1)日常生活で着用している体操着や制服の洗濯方法や干し方、畳み方を知り、衣服の手入れ方法を身に付ける。 (2)日常生活で着ている衣服を綺麗に保つための工夫や着脱の方法を考え、発表したり実践したりする。 (3)衣服の着脱や手入れに関心をもち、学校生活や家庭においても進んで取り組もうとする。 洗濯の方法や干し方、畳み方の注意点や考慮店を踏まえ、丁寧に取り組もうとする。 内容：衣服の着法、手洗いの洗濯機、掃除の仕方					【知・技】					
						【思・判・表】					
						【主体】					
5 買い物をしよう (身近な消費生活)	(1)買い物に必要な物の選択や用途について知り、基本的な使い方や方法を身に付ける。 (2)買いたいものをリストに整理し、必要な理由や使い道について考え発表する。 (3)実際に買い物を実践し、適切な買い物の方法について関心をもち、日常生活に役立てようとする。 内容：買い物リスト、買い物の手順、買い物の体験					【知・技】					
						【思・判・表】					
						【主体】					
6 作業日誌で振り返ろう (働くことの意義)	(1)めあてや目標を確認し、作業することの目的を理解し、自分の役割を知る。 (2)毎時間の目標や流れを作業日誌に書いて意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者の役割について考えたり、生活へ生かす方法を探ったりする。 (3)作業の方法を進んで知ろうとし、教師と学習を振り返ることにより良い生活に向けて改善を重ねようとする。 出来上がった製品を見て達成感を得て、進んで作業に取り組もうとする。 内容：作業日記の作成 (めあて、本時の流れ、自己評価、教師と一緒に反省)					【知・技】					
						【思・判・表】					
						【主体】					

事例 1 領域（特別活動）

令和 7 年度			特別活動		指導計画及び評価		1	年	2	組	児生氏名			教科担当	
年間指導目標			【知・技】様々な行事や狙いの内容を知り、見通しをもって自分なりに取り組む。 【思・判・表】集団行動を通して集団の一員としての自覚を深め、自分にできることを考え行動しようとする。 【学・人】目標をもって学校生活を送ろうする気持ちを育てる。					中学校		教科等における 合理的配慮		(視覚) 過敏なし (聴覚) 過敏なし (触覚) 過敏なし (その他) 特になし			
評 価															
【 2 ・ 3 学期】															
単元名			指導計画(目標及び内容)					観点		評価				次の段階に進むための指導等	
学級活動			【知・技】 ・学級、学年の一員としての自覚をもち、活動を通して自分の役割を意識したり、友達と協力したりする。 【思・判・表】 ・人間関係を築くために、自分の意思を伝えたり、友達と話しあったりする中で、自らの意思決定をする。					【知・技】		予定係に取り組み、予定を書き込んだり、朝や帰りの会に発表したりすることができた。				・大きな学校行事の他、毎週の予定を都度確認することで、学校生活の流れが分かり、見通しをもって参加することができた。また、分からないことや知りたいことを自分から教師へ聞くことができた。	
			【主体】 ・近い将来に見通しをもち、自分の目標を立てたり、振り返りをしたりして、日常生活の向上を図る。					【思・判・表】		防災学習を通して、地震や台風の災害の画像を見たり、身を守る方法を考えたりしながら、災害の状況や対策をプリントにまとめることができた。					
			【内容】 ・2、3学期の行事予定確認・週予定の確認・係活動・学級園					【主体】		行事予定を確認して2、3学期の目標を立て、達成できたか振り返ることができた。					
児童生徒会活動			【知・技】 ・他学部、他学年の友達との交流や関わりを深め、友達の気持ちを理解したり、思いやりをもったりする。 【思・判・表】 ・活動に参加する中で、自らの意思をもって決めたり、表現したりする。					【知・技】		児童生徒会や選挙について知り、他学部や他学年の友達を交流を深める。					
			【主体】 ・友だちとかかわり合いながら、活動に参加したり自ら考えをもって主体的に取り組んだりする。					【思・判・表】		友だちと協力をして、選挙活動に取り組んだり立候補者を応援したりすることができた。					
			【内容】 ・中学部なかよし会選挙					【主体】		選挙に向けてクラスで意見を話し合ったり、他の友達の意見を聴いたりして協力することができた。					
学校行事			【知・技】 ・式典や学校行事に見通しをもち、目的を理解して参加する。 【思・判・表】 ・場面や状況に応じた行動を考え、自主的に取り組む。					【知・技】		式典を行う意味を知り、静かに教師や友達の話の聞くことができた。				・事前学習を丁寧に行うことで、活動に見通しをもつことができ、活動当日も落ち着いて楽しく参加することができた。	
			【主体】 ・主体的に式典や学校学校行事に参加し生活経験を広げ、学校生活や学習活動の中で活用する。					【思・判・表】		「訓練」の放送を聞いて、机に隠れたり、防災頭巾をかぶり避難場所へ避難したりすることができた。					
			【内容】 始業式・終業式・修了式・避難訓練・愛校作業・学習発表会・学部集会・卒業生を送る会・体験学習（紙漉き、ほうとう）					【主体】		体験学習や学習発表会の事前学習を思い出し、見通しをもって意欲的に活動に参加することができた。					

まとめ

令和6年度		指導計画及び評価		中学部Ⅰ学年グループ					
①年間指導目標		・（１）（２）（３）→【知・技】【思・判・表】【主体】 ・実態が違う生徒が多いが、一つのグループで学習を行っていく場合は、二つ程の段階が必要。 ・		小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	・個別の支援計画参照等の文言を記載すればよい。 ・よっぽどな特記事項は別途が記載が必要である。			
②評 価		・必要、要録にそのまま記載できる分量で記述式で入れていく方法がよい。（そのまま飛んでいくか、コピーしていくか）							
【1学期】									
④単元名		⑤指導計画（目標及び内容）		観点		⑥評価		⑦成果と課題等	
・職業家庭については、学習指導要領から該当単元を引用。しかし、教科によっては書き方が難しい場合も？（音楽・美術等は幅広く難しい、体育等を行うことがある程度限られていて書きやすい？） ・年間指導計画から引っ張る場合は、年間指導計画も同様な変更が必要。（学習指導要領にあった単元名の設定）。		【書式について】 ―変更点― ・観点にそって罫線を引く ・（１）（２）（３）→【知・技】【思・判・表】【主体】 ・目標と同様に内容も罫線で分別 【目標の内容について】 ・作成当初は、年間指導計画から凡その内容を引用。実際に単元を進めていく中で、評価したい部分が変わってくることが予想されるため、変更していく方法がよい。（授業を進めていき、単元が終わる頃、学習指導案に目標（評価規準）を記載しておくところから引っ張れる。）		【知・技】		【内容について】 ・学習を進める中で詳細を入力していく。 ・評価基準が定められていないと◎○△の理由が分からないため、指導計画の欄外（印刷範囲外）や学習指導案等に記載していくと記載していくといい。 ・通信表に引っ張ると思うが、評価規準を通信表につなげるとすると、内容が大きく細かい内容が分からない可能性がある。		◎ ○ △	・枠を広げて多くのことを書くより、必要なことのみを端的に記載するのがよい。
				【思・判・表】					
				【主体】					
				【知・技】					
				【思・判・表】					
				【主体】					
				【知・技】					
				【思・判・表】					
				【主体】					
				【知・技】					

⑧その他（全体への意見感想等もここに記載）

【合わせた指導の必要性】

- ・研究としての目標の一つである“本校で行われている合わせた指導（日生）の必要性を含めた検証”であるが、日常生活の指導を各教科に振り分けていくには、学校全体として共通できる一覧のようなもの

が必要ではないか。（例：●●は自立、○○は生活科、△△は国語科、等）年度や教員によって形が変わっていくのは好ましくないと思う。

・どの教科が合わさっているのか明確になっていくことが望ましいため、合わせた指導ではなく、自立活動や生活科に落とし込んでいくのはよいが、国語科や数学科も含んでいくと計画を立てることが大変になっていく。

【業務作業量】

・業務改善を目指していく上で、その他の書式（通信表や要録等）とのスムーズな連動が必要になってくる。

【その他】

・人数に関わらず、評価規準や評価基準については、個々に作成する必要はないが、実態によって二つほどの基準を設ける必要がある。その基準にも入らない生徒の場合は、教科によっては自立へ落とすことも必要になってくるのでは。

2年生グループ

事例1（教科：保健体育）

令和7年度		保健体育	指導計画及び評価	3	年	組	児生氏名		教科担当
年間指導目標		・各種の運動の楽しさや喜びを味わい、楽しく基本的な運動をする。基本的な運動の行い方を知り、教師と一緒に楽しく体を動かしながら、日常生活や健康に必要な動きを身に付ける。（知識及び技能） ・簡単な振動や身体への動きかしの経験を積み、身体の動きの幅を広げる。教師の見本を見て体の動きかしの方法を自分で考えたり、体を動かすことの楽しさや喜びを自分なりに表現して教師に伝えたりする。（思考力、判断力、表現力） ・集団を意識し、教師や友達と一緒に身体を動かすことの楽しさを感じる。活動に進んで取り組み、基本的な運動に親しむことや体力の向上を目指し、楽しく生活を営む態度を養う。（学びに向かう力、人間性等） (保健) ・体の成長や、病気やケガの予防、身だしなみについての基本的な知識や技能を身に付ける。 【知識・技能】 ・健康・安全、社会のマナーについて、気づいたことを友達や教師に伝える。 【思考力・判断力・表現力等】 ・自分のからだを大切にしようとしたり、中学生として健全な生活を送ろうとしたりする。 【学びに向かう力・人間性等】					小学部 1 段階	教科等における 合理的配慮	・本時の流れに見通しが持てるように顔写真やイラストを使って、視覚的に示す。 ・動きを模倣できるように、動きを大きくする。 ・各活動に見通しが持てるように、種目を提示し、見本を示す。 ・体を動かす時間帯は音楽を流して、活動のリズムを感じられるようにする。 ・友達と協力をして用具の準備や片付けができるように声をかける。 ・近くの人や物に攻撃をする、物を投げることもあるため、他の生徒との距離感や本生徒の行動に注意する。
評 価									
【2、3 学期】									
単元名		指導計画（目標及び内容）	観点	評価			保健体育	#REF!	
1 体づくり運動 ・ラジオ体操 (32時間)		(1) 「ラジオ体操」を教員と一緒にリズムに合わせて体を動かしたり、楽しく基本的な運動をする。 (2) 「ラジオ体操」で教師の見本を見ながら体を動かしたり、体を動かすことの楽しさを表現する。 (3) 活動に進んで取り組み、きまりを守って、取り組む。 【内容】 ラジオ体操	【知・技】	音楽に合わせて、教師と一緒に楽しむ体を動かす。		◎	成果：ラジオ体操を繰り返し実施しているため、音楽に合わせて教師や友達の動きを見ながら表現することができた。 課題：手や足の可動範囲が狭く、大きく動かすことができないため、教師と一緒に体を動かすなど、可動範囲を広げようとする。		
			【思・判・表】	教師の見本をよく見て、体を動かす。		◎			
			【主体】	活動に進んで取り組み、音楽の指示に従って体を動かす。		○			
1 体づくり運動 ・サーキット (32時間)		(1) 「サーキット」で、「跳ぶ」「走る」「平均台」などの運動で、手足を動かしたり、体のバランスをとったりしながら、楽しく基本的な運動をする。 (2) 「サーキット」で、「跳ぶ」「走る」「平均台」などの運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現する。 (3) 活動に進んで取り組み、きまりを守って、取り組む。 【内容】 ミニハードル、平均台、走る、台の登り降りなど	【知・技】	体のバランスをとって、台に上ったり、下りたりする。		◎	成果：「跳ぶ」では、両足で連続して跳ぶことができた。「走る」では、教師と一緒に目標のコーンまで走ることができた。「平均台」では、手でバランスをとりながら片足ずつ動かして渡ることができた。 課題：片足跳びや開脚跳びなど、表現できることを増やしていく。腕を振るなど、上半身を使い、走れるようにしていく。		
			【思・判・表】	「跳ぶ」「走る」「平均台」などの運動の楽しさを、言葉や表情で教員に表現する。		◎			
			【主体】	活動に進んで取り組み、簡単な合図や指示に従って体を動かす。		◎			
2 球技 ・テニスボール (20時間)		(1) 「テニスボール」の運動の楽しさを味わい、教師と一緒に用具を使ったり、「捕る」「打つ」「走る」などの簡単な運動を楽しむ。 (2) 「テニスボール」で、「捕る」「打つ」「走る」などの運動に慣れ、ボールやバットを使って体を動かす楽しさや心地よさを表現する。 (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守って、安全に取り組む。 【内容】 バットの持ち方、ベースを走る順番、ボールの捕り方など	【知・技】	テニスボールで打撃後、教師と一緒に正しい順番で、ベース（コーン）を触りながら、走る。		◎	成果：ベースランニングでは、教師と一緒に数字の順番通りに走ることができた。テニスボールは、ボールをよく見て打つことができた。 課題：ボールをバットで当てるだけになっているので、体全体を使ってバットを振れるようにする。ボールを遠くへ投げてしまったりと決まりを守って安全に取り組めるようにする。		
			【思・判・表】	バットを持ち、ティーに乗せたボールを狙って打つ（当てる）。		○			
			【主体】	道具を正しく使い、きまりを守って、安全に取り組む。		○			
3 走・跳の運動 ・持久走 ・リレー ・障害物走 (12時間)		(1) 教師と一緒に走ったり、跳んだりして楽しく体を動かす。 (2) 走・跳の基本的な運動に慣れ、楽しさや感じたことを表現する。 (3) 活動に進んで取り組み、きまりを守って、安全に活動する。 【内容】 障害物をまたぐ・飛び越える、いろいろな方向に走る・歩く、一定の時間走る、速さを考えて走るなど	【知・技】	教師と一緒に、いろいろな方向に走ったり、障害物を走り越えたりする。		◎			
			【思・判・表】	持久走で、教師の聲がけに合わせて、ゆっくり走ったり、速く走ったりする。		◎			
			【主体】	活動に進んで取り組み、きまりを守って、安全に取り組む。		◎			
保健 ・生活習慣と健康 (6時間)		○生活習慣と健康 (1) 正しい体の洗い方や入浴のマナーを知る。 (2) 体の洗い方や拭き方、入浴の仕方について考える。 (3) 健康な生活や病気について関心をもち、主体的に学習に取り組む。 【内容】 ・正しいからの洗い方・入浴の仕方・手洗い、うがい・歯磨き・身だしなみ（衣服の調整、マナー）	【知・技】	体の洗い方、入浴のマナーをイラストや動画を見て知る。		◎	成果：体の洗い方や拭き方では、洗顔を顔につけて水に流すことができ、タオルを使って顔や背中など、体全身をイラストや教師の動きを見ながら拭くことができた。 課題：汚れが取れるように隅々まで洗い流せるようにする。		
			【思・判・表】	体の拭き方でイラストや友達、教師の動きを見ながら表現する。		◎			
			【主体】	健康・安全に気を付け、健全な生活を送る。		○			
保健 ・心身の機能の発達と心の健康 (6時間)		○心身の機能の発達と心の健康 (1) 自分の体の成長や男女の体の違いを知る。 (2) 体がよりよく発育・発達するための方法を考える。 (3) 心身の機能の発達や心の健康について関心をもち、主体的に学習に取り組む。 【内容】 ・男女の体のつきについての比較、違い・プライベートゾーン	【知・技】	自分の体の成長を写真やイラストを見て知る。		◎	成果：自分の成長を写真やイラストで見て、身長が伸びたことを知ることができた。男と女のイラストを見て正しく当てられる場面があった。 課題：男女の体の違いにも触れられるようにする。		
			【思・判・表】	男女の体の違いについてイラストを見ながら選択して答える。		○			
			【主体】	自分の成長に関心をもち、活動に進んで取り組む。		○			

事例 1（領域：日常生活の指導）

令和7年度	日常生活の指導	指導計画及び評価	3	年	1	組	児生氏名		教科担当	
年間指導目標	(1) 集団の中で、よりよく人と関わるための姿勢や考え方を身につける。 (2) 日常生活に必要な動作や行動について、行動の意味や意義を理解しながら正しく丁寧に行動。 (3) クラスや集団の中での自分の役割を理解し、自ら果たそうとする態度を養う。		○国語 (中1段階) ○音楽・美術 (中2段階) ○特別活動 (中学校) ○自立活動		教科等における 合理的配慮		・気持ちが不安定な時に他害や物を投げる等をするため他の生徒や物との距離感や本生徒の行動に注意する。 ・てんかんを持っているため、本生徒の様子に注意する。 ・こだわり行動には過度に反応しないようにし、固執する対象のものを見えなくする等の環境調整を行う。掲示するものはラミネート加工しなるべく高いところに掲示する。 ・自分の行動と大人の反応のパターンを楽しんでしまうときには、繰り返さないようにし、簡潔にかかわったり、教員を変えて対応したりする。			
評価										
【1学期】全154h										
単元名	指導計画(目標及び内容)		観点		評価			次の段階に進むための指導等		
意思表示 オ 人との関わり (生活科) 小3段階 (ア)	(1) 自分の気持ちや状況などを言葉やジェスチャーで表現できる。		【知・技】		単語やジェスチャーを用いて自分の意思を友達や教師に伝えることができる。			○		
	(2) 言葉や発音・発声を明瞭にする。		【思・判・表】		自分の気持ちや要求を考え、相手に伝える			○		
			【主体】		自分の気持ちを言葉やジェスチャーを用いて、相手に伝えようとする。			◎		
係活動 カ 役割 (生活科) 小2段階 (ア)	(1) 集団における自分の役割を理解する。		【知・技】		日直や自分の担当している係を理解し。教師と一緒に取り組むことができる			○		
	(2) 係活動や清掃活動に見通しを持ち、自分で工夫して取り組む。		【思・判・表】		任された係や仕事を教師と一緒に意欲的に行う。			◎		
	(3) 学級の一員として協力して取り組もうとする気持ちを自分から取り組む。		【主体】		仕事や係活動を依頼されると積極的に取り組み。クラスのために取り組むことができる。			◎		
自立活動 2 心理的安定 (1) 情緒の安定	(1) 心理的安定 ・自分の意思で登校する ・学校が楽しいことであるとわかる ・不安定な時の気持ちの切り替え方法を身に付ける		【知・技】		自分の意思で学校に登校することができる			◎		
			【思・判・表】		自分なりに気持ちを整える方法を考え、気持ちを整えるための行動をすることができる。			○		
			【主体】		積極的に活動や授業に取り組み学校生活を楽しむことができる			○		

【2、3学期】2学期 176h						日常生活の習慣	
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題			
心身の安定 健康の促進 (自立活動)	(1)自分を客観的に客観する方法を知る。 (2)身体側面やジェスチャーなどの気持ちを相手に伝える方法を増やす。 (3)友達との適切な関わり方を身に付ける。 (1)不快な音や大きな音、不快な感覚を感じたときの対応方法を知る。 (2)不快感を感じたことを相手に伝える方法を増やす。 内容 ・教師との関わり ・休み時間		苦手としている小さい子の泣き声や大きな音に対して耳をふさぐことや、教師に「しー、しー」と言いながら静かにしてほしいことを意思表示することができる。	・泣いている子やうるさくしている友達に対して、教師に静かにしてほしいことを伝えることができるようになっていく。			
人との関わり (生活科)	(1)担任の先生やクラスの友達の名前を覚え教師と一緒に名前を呼ぶ (2)身体側面やジェスチャー、発声を用いて自分の気持ちを伝えたり。 (3)手を握る、ハイタッチなどの表現を用いて挨拶に反応したり、教師と一緒に挨拶をしたりする。 内容 ・朝の会・帰りの会 ・給食 ・休み時間	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	朝の会や帰りの会で担任の先生やクラスの友達の名前を教師と一緒に呼ぶことができる。 自分の要求や気持ちをジェスチャーや発声を用いて相手に伝えている。 友達や教員にハイタッチや手を握るなどして挨拶をしようとしている。	○ ◎ ○	・教師が先導して生徒や教師の名前をいうことで、復唱することができた。 ・相手側からの挨拶に対しては反応してあいさつを返すことができた。		
役割 (生活科)	(1)学年や他学年の友達を知る。 (2)友達について知り集団の中で活動を行う。 (3)自分の係り活動に協んで取り組もうとしている。 内容 ・集団学習 ・係り活動	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	学年集会や学級集会などを通して学年や他の学年の友達について知ることができる。 集団の中の係り活動の役割を考え、教師と一緒に取り組むことができる。 係り活動・係り活動に協んで取り組もうとしている。	○ ○ ○	・学年の友達は朝活や学年集会などを通して知ることができた。		

事例2（教科：音楽）

令和6年度		音	楽	指導計画及び評価		2	年	5	組	児生氏名		教科担当
年間指導目標	・強弱や速度、リズムなどの音楽の構造との関わりについて知るとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、楽器の操作、音楽づくり、身体表現の基礎的な技能を身に付けるようにする（知識及び技能） ・思いや意図をもって音楽表現を考えたり、曲や演奏のよさを見出しながら聞いたりできるようにする（思考力、判断力、表現力） ・進んで音楽や音に関わり、仲間と協同して音楽活動をする楽しさを感じたりしながら、様々な音楽に親しんでいく態度を養う（学びに向かう力・人間性等）											
	評価											
【2、3学期】												
単元名		指導計画（目標及び内容）				観点		評価			音 楽	
情景を思い浮かべながら歌おう （4h）	内容 歌唱『もみじ』	(1)歌詞の意味を知り、写真や絵を見ながら情景をイメージして歌う。 (2)歌詞や、曲の雰囲気が表す情景を想像し、歌声や曲の盛り上がり気に気を付けて表現を工夫しようとする。 (3)曲の雰囲気や歌詞の意味を知って感じたことを積極的に伝えたり、友達感想や意見を聞いたりする。				【知・技】	「もみじ」の歌詞の意味を知る。			◎	成果：「もみじ」の歌詞をよく覚えて、歌うことができた。情景やイラストを教師と一緒に見ながら、葉っぱの色や川の色を自分で選んで塗ることができた。 課題：歌詞の意味を理解することは難しかった。友達感想や意見を聞くことも理解することは難しかった。	
		【思・判・表】	「もみじ」の歌詞の意味から情景や色をイメージして、イラストに色を塗る。									
		【主体】	自分の考えを伝えたり、友達感想や意見を聞いたりする。									
季節の歌（全授業を通して取り組む）	内容 『いろんな木の実』『星に願いを』『ふじ山』『ありがとうの花』	(1)正しい姿勢や声の出し方を意識して歌う。 (2)歌詞の意味や曲調に合わせて体を動かしたり、声の強弱に気を付けたりしながら歌う。 (3)間違いを恐れずに、積極的に楽しみながら歌う。				【知・技】	正しい姿勢を意識して歌う。					
		【思・判・表】	曲に合わせて体を動かして表現する。									
		【主体】	楽しみながら声を出して歌う。									
音楽を作ろう （5h）	内容 『いろんな木の実』 使用する楽器：打楽器 ・音符や休符の決まり ・合奏しよう	(1)様々な楽器が音楽を構成する面白さに気づく。 (2)拍子やリズム、曲の雰囲気に合わせて楽器を演奏する。 (3)自分でリズムを考え、積極的に合奏に参加する。				【知・技】	音符や休符の決まりについて知る。					
		【思・判・表】	身近な食べ物やものから、リズムを考える。									
		【主体】	友達と一緒に、音に合わせて演奏する。									
いろいろな楽器の音色に注目して聴こう （5h）	内容 ・フーガ短調（パイプオルガン）、四季より「春」（弦楽器）、星に願いを（フルート） ・アメijingグレイス（トーンチャイム、ゴスペル） ⇒トーンチャイムやベルハーモニーの演奏を取り入れる。	(1)音色の響きを感じながら、トーンチャイムやベルハーモニーの演奏をする。 (2)曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴について気づいたことを自分の言葉で表現する。 (3)様々な音色の良さに気づく。				【知・技】	音色の響きに注目しながらトーンチャイムやベルハーモニーの演奏をする。			○	成果：様々な音色良さに気づくことは難しかったが、自分なりに曲に合わせて楽しく演奏することができた。トーンチャイムの鳴らし方や止め方を知り、演奏することができた。 課題：音色の響きに注目することや曲を聴いて感じたことを自分の言葉で表現することは難しかった。	
		【思・判・表】	様々な曲を聴いて感じたことを自分の言葉で表現する。									
		【主体】	様々な音色の良さに気づく。									
みんなで1つの曲を完成させよう （4h）	内容 『茶色の小瓶』の演奏 使用する楽器：キーボード、木琴、鉄琴 ・音符や休符の決まり ・合奏しよう	(1)拍子やリズム、曲の雰囲気に合わせて楽器を演奏する。 (2)音遊びを通してどのように音楽をつくるのかに発想を得る。 (3)様々な楽器が音楽を構成する面白さに気づく。				【知・技】	音符や休符の決まりに注意しながら、自分の担当するパートを演奏する。					
		【思・判・表】	様々な楽器が曲を構成することに気づき、自分の表現したい楽器を見つける。									
		【主体】	様々な楽器の音色を聞いて面白さに気づき、体を動かして表現する。									
鑑賞（全授業を通して取り組む）	内容 ○『世界の音楽』 ・アメijingグレイス ・ゴスペル（身体表現を含む） ○いろいろな音楽を聴こう ・アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク（弦楽器） ・A列車で行こう（ジャズ）	(1)鑑賞についての知識を得ながら、曲や演奏の良さを見出し聴く。 (2)曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴について気づいたことを自分の言葉で表現する。 (3)曲や音色を聴いたり、演奏体験をしたりして様々な楽器やその音色に興味関心をもつ。				【知・技】	それぞれの曲の注目する点に気を付けて聴く。			○	成果：楽器の演奏を真似するなど、体を動かして表現することができた。好きな楽器を見つけることができた。 課題：映像を見ながら曲の注目して聴くことは難しかった。曲調や速度に合わせることで曲のポイントを意識することも難しかった。	
		【思・判・表】	曲調や速度に合わせて体を動かして表現する。									
		【主体】	好きな曲や楽器を見つける。									

事例2（領域：日常生活の指導）

令和7年度		日常生活の指導		指導計画及び評価		2	年	5	組	児生氏名			教科担当		
年間指導目標		(健康) 身だしなみへの意識を高め、自分の心と身体の変化について知る。 (学習) 体験的な学習や日常生活での言葉や経験を言葉で表現したり、概念を知ったりする。 (社会性) 約束やルールを守り、自分で意識して生活をする。 (主体性) 学校生活や日常生活を通して、自分で考えたり判断したりする経験を重ねる。				○国語 (中1段階) ○数学・算数 (中2段階) ○特別活動 (中学校) ○自立活動		教科等における合理的配慮		・具体物の操作や体験的な活動を取り入れる。 ・興味をもてる題材を設定し、わかりやすい教材・教具を用いる。 ・人との距離感が近いときは、手で距離を取るなど、視覚的に距離を示すようにする。 ・日常生活の中で、言葉に身振りを添えながらやりとりすることで、声での表出を広げられるようにする。					
評 価															
【1学期】全154h															
単元名		指導計画(目標及び内容)				観点		評価				次の段階に進むための指導等			
集団活動の決まり (生活科) けきまり 小学部第1段階		・学校生活での約束やマナーに気づき、それらを守って行動する。				【知・技】		集団での約束やマナーを理解し、それらを守って行動している。				○			
						【思・判・表】		自分が約束やマナーを守らないことで、周囲の人たちにも影響があることを知り、自身が心がける約束やマナーを考えている。				△			
						【主体】		約束やマナーを守ることの大切さを知り、自分や周囲の人たちに迷惑がからないよう約束やマナーを守ろうとしている。				△			
構音 (自立活動) 6 コミュニケーション (2)言葉の表出に関する こと		・より明瞭で正しい発音で言語の表出をする。				【知・技】		教師の支援を受けて、正しい発音や口形を理解し、意識して明瞭な言語の表出をしようとしている。				○			
						【思・判・表】		正しい発音を理解し、正しい発音になるよう考え、言葉を表出している。				△			
						【主体】		進んで正しい発音になるように言語の表出を行おうとしている。				○			
身だしなみ (職業・家庭) B 衣食住の生活 ウ 衣服の着用と手入れ		・身だしなみへの意識を高め、服の扱いやそを整える。 衣服をハンガーにかけたり、畳んでしまう。				【知・技】		着替えの際に身だしなみに気を使い、揃やすそを整えている。				○			
						【思・判・表】		脱衣の際にはハンガーに衣服をかけたり、着衣の際には服の揃やすそを整えることを考え、順序だてて行う。				◎			
						【主体】		身だしなみに気を使い、揃やすそを整えたり、脱いだ衣服をハンガーにかけたり、畳んでしまうことに意欲的に取り組む。				○			

【2、3学期】2学期 176h					日常生活の指導	〇	〇	〇
単元名	指導計画(目標及び内容)		観点	評価		成果と課題		
身だしなみ (衣服の着用 と手入れ)― 生活科 集団活動の決 まり 生活科	(1)着替える際に身だしなみに気を使い、襟やすそを整えている。 (2)脱衣の際に衣服を畳んでしまったり、着衣の際に服の襟やすそを整えることを考え、順序だてて行う。 (3)身だしなみに気を使い、襟やすそを整えたり、脱いだ衣服を畳んでしまうことに意図的に取り組む。 内容 着替え		【知・技】	自身の身だしなみに気を使い、衣服の襟やすそを整えている。 友達や教師の言葉がけを受けて、始業、終業の時間を守る。	○	・友達から、朝の会や帰りの会の始まりの際に、声掛けを受けて席に座ることができた。しかし、予定を書いたりなど、係の仕事をし始めると、始業の時間を守れないことが多い。そのため、昼休みや翌日の朝に書く時間を取ってあげるなどして、途中で切り上げるように指導していく。		
	(1)朝の会、帰りの会が始まることを告げられて、教室に戻ったり、席に座ったりする (2)話をしている人に体を向け、静かに話を聞く。 (3)教師の言葉がけを受けて、廊下を歩く。 内容 朝の会、帰りの会、学校の決まり		【思・判・表】	衣服を畳んでしまったり、衣服の襟やすそを整えることを考え、順序だてて行う。 教師の言葉がけを受けて、廊下を歩く。	◎			
			【主体】	身だしなみに気を使い、衣服を整えたり、脱衣の際に衣服を畳んでしまうことに意図的に取り組む。 話をしている人に体を向け、静かに話を聞く。	○			
気持ちを伝える 応対(人とかかわり) 生活科	(1)場面に応じて、感謝の言葉や謝罪の言葉を相手に伝える。 (2)自分の気持ちを言葉や身振りで表現する。 (3)挨拶を自ら積極的に行う。 内容 友達や教師とのかかわり		【知・技】	教師の言葉がけを受けて、適切な場面でお礼や謝罪をすることができる。	◎	・連絡帳を教師に書いてもらう際に、「お願いします。」と伝えることはできたが、書いてもらった後など、お礼を言う場面では教師の介入が必要なものもあった。		
			【思・判・表】	気持ちを表す言葉を知り、身振りや言葉で表現する。	○			
			【主体】	自ら進んで挨拶を行う。	○			
健康の保持 (清潔・衛生) 自立活動	(1)給食前、外から戻ってきたときに石鹸で手を洗う習慣を身に着ける。 (2)教師の言葉がけを受けて、手を動かし歯磨きを行う。 内容 手洗い 歯磨き		教師や友達からの声掛けを受けて手を洗うが、石鹸をつけずに洗う場面が多くみられた。					

まとめ

令和6年度		指導計画及び評価		中学部2年グループ					
①年間指導目標		・今出している年間指導計画と同じ内容を記載する。 ○保健体育について ・年間指導目標、評価、配慮すべき特性等は、点線で区切って入れるとわかりやすい。		小学部 1段階	③配慮すべき特性等	・合理的配慮は、個別のことを書くのが（仕事量的に）難しいので、授業全体の合理的配慮として記入し、特に配慮が必要な人（音楽だけと聴覚過敏で音を聞けない）などを書き足せると良いのではないかな。 ・すべての合理的配慮の欄を担任が記入することになると、授業に入っていない教科も出てくるため、具体的な配慮を記入することは難しいのではないかな。 内容に関して ・「～させる」ではなく、「～する」の語尾にする。			
②評 価									
【1学期】									
④単元名		⑥指導計画（目標及び内容）		観点		⑧評価		⑦成果と課題等	
○合わせた指導「日常生活の指導」について ・日生について、単元で取り組むことは少ないので、「項目」とするのはどうか。 ・単元名の部分で日常生活の指導の幅が広く、ここで書く範囲や項目が増えたり、個人差が出たりするため、項目数の制限も必要ではないかな。教科の制限よりも項目数の制限の方がやりやすい。 ・見本にある、日生の単元「清潔」などは、どこからとってきたのか。どのよう単元名を考えていくとよいか指標のようなものが欲しい。		○合わせた指導「日常生活の指導」について ・ねらいが自立活動としてなのか、生活科としてなのか、迷うところがあった。合わせた指導の考えがいまいきところがあった。 ・自立活動や道徳などは日生とは別のシートがあるので、内容（単元）が重なる生徒が多くなるのではないかな。重なってよいと思うが、これは日生に書く、これは自立活動に書くなど、整理できるとよい。また、日生で取り組む場合、目的や場面を具体的に設定できるとよい。例えば、「正しい発音になるように考えて発音する」だと、「考える」ことは自立活動の中では時間をとってじっくりできるが、日常生活の中だと難しい。「考える」ではなく「真似して」にするなど、場面に合わせた設定できるとよい。また「朝の会で」など場面を書き加えるなど、具体的に書けるとよい。 ○各教科について 現在も年間指導計画を立て、1学期と2、3学期に分かれて計画を立てている。その内容をここに記入できればよいのでわかりやすい。		【知・技】 ○合わせた指導「日常生活の指導」について ・日生のところは、自立活動がどうしても入ってくるが、日生で扱う理由や目的を明記する必要がある。 ・4月当初に書くことは難しい。 ○各教科 ・個々合わせた目標にすることで、評価が高くなりすぎてしまう可能性があるので、評価の妥当性という点からも、グループ内で評価の基準を明確にすることが大切。評価基準においても、グループ内で段階を考えて作り、評価担当がそれぞれの生徒に合うものを引っ張ってきた方がやりやすいのではないかな。 ・評価項目は、最初から個人向けに書くよりも、これまでするようにいくつか段階に分けたものを設定し、個々に合うものを選択できる方がより個人に合ったものを選ぶ。 ・授業を進める中で計画も変更されていくので、早い段階で立てていくのは難しい。今と同じくらいスケジュールできると良い。 ・4月当初は実施感がわからないため、入力が難しい。 ○内容に関して ・「楽しく」という表現は、何を楽しくでいたのか評価が難しいので避ける。 ・指導計画に対して、評価が具体的に書かれていると、もう少し評価がしやすくなる。今後の課題の設定もしやすくなる。 ・評価が△のところは、○になるように目標やアプローチなどを変えて継続していく。 ・取り組むことが明確になような、評価しやすい文言にする。		◎○△ ○合わせた指導「日常生活の指導」について ○各教科について ・個々のことを記入し、それを参考に次からの指導を考えていけばよいが、グループ全員のものがバラバラにあるので全部を確認することが大変。グループ全員のものが1つにまとめられるようにリンクが作れるとよい。			

○その他

- ・1学期、2・3学期を1枚としてみると、評価の過程がわかり△があったから引き続き指導しているなど見やすい。新しい先生と引き継ぐときにも生徒の課題が見やすくなる。
- ・評価として△だと、明確な課題がわかり、通年を通して△⇒○にできるように具体的な手立てを目標や評価として取り組んでいく必要がある。
- ・「個別」という部分を突き詰めすぎず、「全体」「グループ」も大事にできるような考え方も共有できるといい。個に合わせた目標にすることで、評価が高くなりすぎてしまう可能性があるのも、評価の妥当性という点からも、グループ内で評価の基準を明確にすることが大切。

- ・4月当初にすべて入力するのであれば、実態もわからないため計画を立てたとしても二度手間になってしまう。時期を見て記入していく必要がある。

○合わせた指導の必要性について

- ・教科として指導できるわけではないので、様々な視点で指導する必要性がある。何を指導しているかを教員自身が意識するためにも、合わせた指導の計画はしっかり立てられるとよい。
- ・日常的に指導することが必要な実態にある生徒たちなので、何の教科を合わせるかを意識しつつ、継続して取り組んだ方がよい。
- ・この様式でも合わせた指導として記載するのであれば、内容を具体的に書かないと目的がわかりづらくなる。自立、道徳、日生の記載が難しい。どのシートにも同じようなことが書かれることにならないようにしないとイケない。
- ・1枚に評価（◎○△）がつけられていることで、次学期、次年度への引継ぎがわかりやすくて次担任が作成もしやすくてよい。△の項目は、より次の段階に進むための～をしっかりと書けるとよい。1学期の△を見て、2・3学期どうするかを考えられる。（クラスや学年でも話し合いやすい）

○仕事量削減の観点から

- ・今の年間指導計画がそのまま書式に入れこめる。評価項目は、通信表を作成していたように作り、選択すればよい。それをリンクさせていくと仕事量は減る。「評価」と「成果と課題」だけが個に対応することになる。
 - ・授業のCTが、年間目標（単元ごとの目標）を考える⇒今でいう通信表の時期に評価項目を考える（CT）⇒評価担当（ST）が個々に合うものを選択⇒入力　　の流れだとできる。
- 記入時期や記入する教員を明確にする必要性がある。

3年生グループ

事例1（教科：美術）

【2、3学期】										美 術	0
単元名	指導計画(目標及び内容)			観点	評価					成果と課題等	
秋冬の桜の木を描こう (2時間)	(1)色や形の特徴に気付きながら、用具や手法を工夫して描く。 (2)いろいろな表現方法を知り、色の組み合わせや表現方法を工夫する。 (3)好きな色や材料を選択し、表現する楽しさや面白さを味わう。 内容 「色と形を意識しながら、春夏秋冬をあらわそう」というテーマで、四季の桜の木の様子を様々な技法で表す。秋冬の今回は、絵の具とローラーやスクイージーを使用して、紅葉や雪景色を表現する。			【知・技】	色や形の特徴に気付き、用具や手法を工夫している。						
				【思・判・表】	いろいろな表現方法を知り、色の組み合わせや表現方法を工夫している。						
				【主体】	好きな色や材料を選択し、表現する楽しさや面白さを味わっている。						
コリントゲームを作ろう (3時間)	(1)ゲームの仕組みや作り方の手順を知り、用具を正しく使って制作する。 (2)完成をイメージしながら、安全に気をつけて用具を使用し、自分の作りたいものを表現する。 (3)友達や教師と一緒に表現する楽しさを感じながら制作する。 内容 木材に絵の具で色を塗り、木工用ボンドで形を組み立てる。最後に金槌を使って釘を打ち込み、玉転がしゲームを制作する。			【知・技】	ゲームの仕組みや作り方の手順を知り、板に好きな動物の絵をステンシルで染色して描いている。	◎					
				【思・判・表】	完成をイメージしながら、安全に気をつけて金づちを教師と一緒に使用し釘を板に打ち付け、自分の作りたいものを表現している。	○					
				【主体】	課題に興味をもち完成したもので遊んだり、作る楽しさを感じたりして意欲的に活動する。	◎					
版画であらわそう (4時間)	(1)スチレンやヘラ、ローラーなどの材料や用具の扱い方に親しみ、使おうとする。 (2)形や陰影、材料の特徴に気付き、表したいことや表し方を考える。 (3)版を彫ったり刷ったりして表現する楽しさを味わい、進んで活動に取り組む。 内容 美術館での活動に向けた事前学習として、スチレン版画に取り組む。			【知・技】	スチレンやヘラ、ローラー等の材料や用具の扱い方に親しみ、使おうとしている。						
				【思・判・表】	形や陰影、材料の特徴に気付き、表したいことや表し方を考えている。						
				【主体】	版を彫ったり刷ったりして表現する楽しさを味わい、進んで活動に取り組んでいる。						
美術館へ行こう (2時間)	(1)名画やいろいろな表現方法の作品を鑑賞して、面白さや美しさに気付き、見方や感じ方を広げる。 (2)表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を深める。 (3)ものづくりの楽しさを味わい、美術作品への興味、関心を高める。 内容 美術館の展示作品の鑑賞と、「スクラッチ版画」の創作活動ワークショップに参加する。			【知・技】	名画やいろいろな表現方法の作品を鑑賞して、面白さや美しさに気付き、見方や感じ方を広げている。						
				【思・判・表】	表し方や材料による印象の違いなどに気付き、自分の見方や感じ方を深めている。						
				【主体】	ものづくりの楽しさを味わい、美術作品への興味、関心を高めている。						
オルゴールを作ろう (卒業制作) (3時間)	(1)完成をイメージしながら、デザインや模様を考え彩色したり組み立てたりする。 (2)卒業制作の木材に適した模様や彩色方法を選択し、自分のイメージしたものを表現する。 (3)自分や友達の仕事に関心を持ち、よさや感じたこと等を伝え合う。 内容 箱の天板に彩色し、オルゴールの木箱を組み立てる。			【知・技】	完成をイメージしながら、デザインや模様を考え彩色したり組み立てたりしている。						
				【思・判・表】	卒業制作の木材に適した模様や彩色方法を選択し、自分のイメージしたものを表現している。						
				【主体】	自分や友達の仕事に関心を持ち、よさや感じたこと等を伝え合っている。						

【2、3学期】						国	語	0
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	成果と課題等				
自分自身に関すること	(1) 一日の生活を振り返り気持ちや感情が動いた際の原因や行動、活動を書き留める。 (2) 自分自身がどのようなことで、それぞれの気持ちや感情を抱くのか(うれしき、楽しき、悔しき、悲しきなど)を知る。	【理解】	一日を振り返り、楽しき気持ちや不安な気持ちに気づき書くことができた。	教師と一緒に活動を振り返り、印象に残った感想を伝えることができた。自分の要求を素直に伝えることができた。振り返りの内容としては、実態のありあうものになることが多かった。振り返りをしやすいように視覚支援があってもよい。				
	内容 苦手な課題への取り組み、連絡帳に振り返り欄の記入	【見方】	自ら気持ちを周囲の人に伝えることができた。					
	【自己】	教師と一緒に一日を思い出し、正しい行動や気持ちを整理できた。						
人との関わりに関すること	(1) 友達や周りの人達から感謝されることで嬉しきを感じたり、有感動を得たりする。 (2) 自分自身が友達にや周りに人からどのようなことをされると嬉しき感じるのかを知り、自分の嬉しき気持ちを表現する。	【理解】	活動の中で友達と協力し感謝の気持ちを伝え合い感謝したりされたりすることを実感することができた。	友達との活動の中で感謝を伝え合うことはできた。友達に言われることで嬉しきそうな様子も見られた。特定の人には、自ら挨拶をできた。特定の人と挨拶を交わすことで、嬉しきような様子で次の行動に移ることができた。特定の人数を増やしていくように関わりを増やしていく。				
	・あいさつやお礼の大切き ・「ありがとう」と言われたことを日記に記す ・仲間やまわりの人にされて嬉しきかったことを日記に記す	【見方】	自ら挨拶を教師や友だちにできた。					
	【自己】	挨拶を交わすことで嬉しきを実感することができた。						
集団や社会との関わりに関すること	(1) ルールや決まりがあることで、みんなが気持ちよく過ごせることを知る。 (2) 自分を守ることができるルールを認識し、ルールの中で生活できている認識をもつ	【理解】	みんなと一緒にルールを守り、楽しき活動できた。	視覚支援や個別対応を行うことで、ルールを理解して活動に参加することができた。正しい行動を養っていくことができるように声掛けを継続していく。また、適切な行動ではない時には、その場で声掛けを行い確認や反省を行う。				
	内容 ・ルールやきまりの大切き ・よりよい行動とは ・自分の行動とチェックリスト	【見方】	ルールを守る自身の姿を肯定し、正しい行動を身に付けつめる。					
	【自己】	教師と一緒にルールやマナーについて振り返り、反省や課題を知ることができた。						
生命や自然なものとの関すること	(1) 自分の生活が、季節や気候の移り変わりと同じように、季節や気候によって変化していくことに気づく。 ・季節の行事 ・自然とのふれあい ・季節や気候にあった生活	【理解】	季節によって気候の変化や植物等変化に気づき、観察することで四季による変化を理解できた。	肌寒さを感じ衣服を調整したり、外の活動で自然を観察し変化を教師と一緒に確かめることができた。衣服の調整を近くの教師に伝えて調整したり自ら調整することができた。				
		【見方】	気候によって自ら衣服の調整をしたり、寒いことや暑いことを伝えることができた。					
	【自己】	教師に、気候に合った服装や景色の変化などを理解して伝えることができた。						

令和6年度	音	楽	指導計画及び評価	3	年	2	組	児生氏名	0		教科担当	
年間指導目標	・曲の雰囲気と強弱や速度、リズムなどの音楽の構造などとの関わりについて知る、理解するとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、楽器の操作、音楽づくり、身体表現の基礎的な技能を身につけるようにする（知識及び技能） ・思いや意図をもって音楽表現を考えたり、曲や演奏のよさを見いだしたりしながら、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ・主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく調いのあるものにしようとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）							中学部 1段階	配慮すべき特性等	（視覚） （聴覚） （触覚） （その他） ・身体表現の指揮やダンスでは、音楽に合わせて体を動かすことが左右や順番がわからなくなったり、リズムに合わせたりすることが難しいことがあるので、CTやSTが近くで模範をみせる。 ・楽器の操作や音階の理解が難しい部分もあるので、一緒に確認したり、近くで丁寧に説明したり、見本を見せたりする。		
評 価												

【2、3学期】						音 楽		0	
单元名		指導計画(目標及び内容)		観点		評価		成果と課題等	
1 季節の歌に親 しもうⅡ (4時間)	(1) 楽器の操作や曲にあった歌い方を知り、心地よい響きで演奏する技能を身につける。 (2) 曲想や歌詞のあらわす情景やイメージをもって、リズムに合わせて自分が担当する音を鳴らしたり、歌唱したりする。 (3) 友達と協働して1つの曲をつくりあげるとともに楽しみながら演奏する。		【知・技】		楽譜・ハンドベルの操作や曲「赤とんぼ」や「浜辺の歌」に合った歌い方を知り、心地よい響きで演奏したり、やさしい歌声で歌ったりする技能を身につける。		○		「浜辺の歌」「赤とんぼ」では、歌詞の意味を知り、どんな時間帯、作者の思いを歌っているか、曲の背景を知り、それに合う歌い方を考えた。ゆったりした曲想を歌うのは難しいようだったが、本人なりにイメージをもって歌おうとする姿がみられた。ハンドベルの演奏では、下の音を友だちと一緒に担当した。はじめは曲の流れを捉えられず、リズムに合わせて音を鳴らした。長く伸ばすところでシェイクの奏法をできるようにした。
	○歌い・聴こう日本の心「浜辺の歌」(夏)「もも子」(赤とんぼ)(秋) ○器楽(ハンドベル)「ジングルベル」(クリスマスソング)		【思・判・表】		「赤とんぼ」や「浜辺の歌」の曲想や歌詞の表す情景を思い浮かべながら、イメージをもってそれに合う表現を工夫する。		○		
			【主体】		友達と一緒に1つの曲をつくりあげたり、歌ったりする楽しさよさをからで感じながら表現する。		◎		
2 リズムに合わせて表現しよう (3時間)	(1) リズムや旋律に合わせて体を動かす。 (2) 歌詞や旋律に合う動きを考えて工夫して表現する。 (3) 振付を伴うダンスなど、身体表現に興味をもち、意欲的に取り組む。		【知・技】		振りを覚えて、リズムや旋律の流れに合わせて、体を動かす。→自分や友達と考えた振りを覚えて、リズムに合わせて体を動かす。		○		「せいかい中のこどもたちが」の歌詞に合う簡単な振りを考えた。教師の助言を聴きながら「空」は頭の上に大きく広がるイメージ。「海」は胸の前で波打つイメージをもって振りを考えた。大きく表現することができた。リズムや速度に合わせて一つ一つの動きをスムーズに行うことに難しさはあるが、友達と考えた振りも覚えて、自分なりに表現しようとして取り組んでいた。
	○「せいかい中のこどもたちが」 歌詞に合った振りを考える、リズムに合わせて身体表現		【思・判・表】		歌詞や旋律の流れに合う動きや振りを考え、思いや意図をもって工夫して表現する。→「海」や「空」の歌詞に合う振りを思いをもって考え、大きく手を動かして表現する。		◎		
			【主体】		振付を伴う身体表現に興味をもち、自分からすすんで振りを考えたり、体を動かしたりする。		◎		
3 サウンドロゴをつくらう	(1) 四分の四拍子の意味や拍、音、休符の種類を知り、音楽づくりに必要な知識を身につける。 (2) 明るい音楽をつくるためにどんなリズムや音にしたらいか、試行錯誤しながら、思いや意図をもって創作する。 (3) 自分や友達がつくった作品の良さに気づき、関心をもって学習に取り組む。		【知・技】		四分の四拍子の意味や拍、音、休符の種類を知り、音楽づくりに必要な知識を身につける。				明るい音楽をつくるためにどんなリズムや音とおとにしたらよいか、試行錯誤しながら思いや意図をもって創作する。
	○わかばのサウンドロゴ 有名なサウンドロゴの聴取、アプリの操作、拍子、拍、音、休符		【思・判・表】		自分や友達がつくった作品の良さに気づき、工夫した点や感想を言うなど、関心をもって取り組む。				
			【主体】						
4 鍵盤楽器や打楽器で合奏を 楽しもう	(1) ドレミの音階を理解し、簡単な楽譜を見ながら、打楽器や鍵盤楽器を使って演奏する技能を身につける。 (2) 曲の雰囲気や合奏表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。 (3) 友達と協働して1つの曲をつくりあげるとともに楽しさや達成感を味わいながら演奏する。		【知・技】		ドレミの音階を理解し、簡単な楽譜を見ながら、鍵盤楽器や打楽器を使って演奏する技能を身につける。				曲想に合う表現を工夫し、リズムに合わせて友達の演奏と合わせて奏でる。
	○「聖者の行進」 木琴などの鍵盤楽器と打楽器、ドレミファソの音階、休符の捉え方		【思・判・表】						
			【主体】		友達と1つの音楽を作り上げる喜びを感じながら、器楽演奏に興味をもっても取り組む。				
5 卒業式で心を 込めて歌唱し よう	(1) 歌詞の意味や旋律の特徴を理解し、友達の歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。 (2) 歌詞の内容や旋律の流れを感じながら、思いや意図をもって表現を工夫する。 (3) 感謝の気持ちをもって、心を込めて歌う。		【知・技】		歌詞の意味や旋律の特徴を理解し、友達の歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。				感謝の気持ちをもって、自分なりに声を出し、心を込めて歌おうとする。
	○校歌、国歌の歌唱 歌の意味、伴奏と歌 ○「Best Friend」 歌詞の意味、旋律の特徴、伴奏と歌		【思・判・表】		歌詞の内容や旋律の流れを感じながら、思いや意図をもって表現を工夫する。				
			【主体】						

事例 2 (領域：道徳)

令和 6 年度		特別の教科 道徳		指導計画及び評価		3	年	2	組	児生氏名	0		教科担当
年間指導目標	(1) 周りの人との関わりから、自己肯定感や自己有用感を高める。 (2) 自分から友達とかかわっていかこうとする姿勢を育てる。 (3) 自然の変化を意識し、大切にしようとする意識を高める。					小学校 1・2 学年		教科等における 合理的配慮		・教師とのやり取りから自己肯定感や自己有用感を持っているようにかわっていく。 ・日々の取り組みを大切にして、集団生活を豊かにしていけるように態度や言葉使いなどを合わせて育てていく。 ・自分だけではなく、集団の一員としての行動につなげていけるように促していく。			
評 価													

【2、3学期】								国 語		0	
单元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等							
自分自身に関すること	(1)行事をきっかけとして、目標に向かって努力することを通して、粘り強く取り組み目標を達成しようとする気持ちを育てる。 (2)毎日の取り組みは教師や友達との協力や応援があったことに気づく。 (3)目標達成で得た力を生かして生活していく。	【理解】	目標に向かって努力したことを教師と共有し、達成感を感じることができた。	教師と共に考えて課題を設定すること で、自分から課題に取り組んでいく姿 勢を見ることができた。教師からの応 援や励ましを受けて、取り組み方が変 わっていき姿を見ることができた。取 り組み後は、表情や発言から達成感 や満足感が感じられた。目標を設定し 努力していく経験を重ねていきたい。							
	内容 ・特別支援スポーツ大会への取り組み ・漢字検定への取り組み	【見方】	自分の行動に自信をもち、日常生活で、自主的に行動する 場面が増えた。								
		【自己】	教師と一緒に過去の自分と比較することで、自己肯定感に つながることができた。								
人との関わりに関すること	(1)周りの人から感謝されることでうれしさを感じたり、有用感を得たりする。 (2)日常生活(係活動や掃除等)の場面において、自分から友達に声をかけたりして活動に取り組む。	【理解】	様々な場面で教師が感謝を伝えることで、自分が感謝され ていることを実感できた。	毎日取り組んでいることに、その都度 感謝を伝えていくことで、先回りして 自分から行動する姿が見られるようにな った。感謝されていることを実感して 、行動が変わったと考える。清掃の 場面では、自分から友達に声をかける 姿も見られる。小さなことの積み重ね で、自分から行動できるように促してい きたい。							
	内容 ・係活動への取り組み ・決まった行動に対して、時間を見ながらの行動を始めたり、 友達へ声をかけたりする ・感謝されたことを付箋に記す	【見方】	友達からの感謝の言葉をきき、友達からも感謝されている ことを実感できた。								
		【自己】	日常生活の流れや、その時の周りの状況を見ながら、自分 から行動したり、友達に声をかけたりする姿が見られるよ うになる。								
集団や社会との関わりに関すること	(1)ルールや決まりを守ることがみんなの生活を生活をよくすることを意識して行動する。 (2)友達や周りの人もルールやきまりを守るように促したり声をかけたりする。	【理解】	ルールやきまりはみんなの生活をよくしていくためにある ことを知り、行動に表す。	ルールやきまりを破るような姿は見られず、 友達に声をかける姿が見られるよ うになっている。最初から強い調 になることが多く、友達同士や仲間を 意識していくことの難しさを感じられ た。人との関わりに関する内容とも合 わせて考えながら、ルールやきまりと 生活について考えていく。							
	内容 ・ルールやきまりを守って行動する ・周りの人への声かけ	【見方】	ルールやきまりはみんなですることが高快適な環境を作ること ができることを意識して、集団の中で行動する。								
		【自己】	自分から行動して、周りの人に伝えようとする。								
生命や自然なものとの関わりに関すること	(1)季節の行事や時期ごとに大切にしている文化を知り、意味を考える。 (2)季節の変化とともに、身の回りの自然が変化していることに気づく。	【理解】	季節の行事を経験したり、その意味を考えたりすること で、季節や気候の変化を確認できた。	時期に合わせて季節の行事やその意味 などを伝えていく。繰り返し伝えてい くことが必要だと考える。家庭での 様子も聞きながら、行事を通して文化 の継承につながっていきたい。野菜の成 長に気が付き、教師に伝えてくること もあった。共感することを通して、さ らなる広がりにつなげていきたい。							
	内容 ・季節の行事 ・自然とのふれあいと観察	【見方】	畑の野菜の成長を記録することを通して、時間の経過と自然 の変化を合わせて考えることができた。								
		【自己】	季節や自然の変化を意識して目を向けたり、大事にしよう とする気持ちをもつ。								

まとめ

令和7年度		指導計画及び評価		中学部3年グループ	
①年間指導目標	○現在年間指導計画に記載している目標を個人に落とし込んで記載する形か。	小学部 1段階	③配慮すべき 特性等	▲考える全教科共通なものも別紙にするとよい ▲すべての教科の特性を記載したほうがわかりやすいが、手間も多い。 ▲担任が記載となったが、担任が入らない授業もあるため、それぞれの教科での細かい実態が書けない場合もある。さらに新入生の場合、実態把握が追いつかない。（授業担当の方が理解している部分もある） →前年度の教科担当（ST）が入れるのはどうか？	
②評 価	▲各単元の評価や今後の指導で年間指導目標を踏まえて目標を考え、丁寧に書くため、この評価は必要ないか。さらに授業担当者（ST）が書くのがよいか、CTが書くのがよいか。				

【1 学期】							
④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価	◎ ○ △	⑦成果と課題等		
▲授業カウントの仕方がよくわからないものがある。 →教科におけるカウントはできるものが多いが、できない(難しい)ものもあるので、カウントの仕方を統一してほしい。	【教科】 ▲評価の観点と(1)(2)(3)が一致しないので、目標も3観点を枠をつくって立てた方がわかりやすい。(⑤指導計画と⑥評価の一致)	【知・技】 ▲「理解、見方、自己」に分けてすべての単元で評価をすることは難しい。 【思・判・表】 ▲通信表などとのリンクを考えると、再度3つの観点をまとめて記述する作業が必要となる。 →3つの観点を踏まえた上で観点を分けずに評価を記述する方法がよい。 【主体】 【教科】 ○3観点で目標を立て、3観点を評価することで、目標に対してどのように評価したのか、わかりやすく、整理されていく。 ○評価項目のテンプレートを作っておくことで、作成する側にも添削する側も評価がわかりやすくなるのではないかと。 ○指導計画の評価項目をそのまま通信表にリンクできるような様式になってよい。 【主体】 ○それぞれの単元を丁寧に評価できる点が良い。 ▲評価項目(この欄)を立てる時期は個票交換の時ではないのか。 【知・技】 →授業を行っていく中で細かい言い回しや評価する部分を変更する必要がある場合があるため。 →通信表とのリンクを考えると、保護者向けの表現(分かりやすい記述)に変更する必要があるため、何度も書き直す作業が必要になり、煩雑になるため。 →特に1年生は実態把握が難しいため、5月に立てることは難しい。 【思・判・表】 【主体】	◎○△ ○成果と課題を自由に記述できる欄が必要。自由記述だから表現できる内容があるので、この欄が大事である。				

⑧その他

【業務削減の観点】

○校内で書式を統一することにより、どの学部においても戸惑いが少なく、取り組める。

○この書式で継続して積み重ねていけば、業務削減につながるかもしれない。

▲評価が煩雑で時間内に終わられるか不安である。

【領域（道徳）について】

▲授業時間における評価を扱うのであれば、年間指導計画をたてていく必要がある。

【通信表などとのリンクについて】

▲通信表に評価項目のすべてを載せるのは難しいが、ピックアップする必要があると考えるが、どこを選ぶのか、何を基準に選ぶのか。

【新様式について】

○新様式が整理され、定着したら教科や単元内容が整理できる。

○授業担当 ST になった際、生徒の実態をとらえやすい。

○個人のこれまでの評価や経過を追って見やすい。

▲納得した形で始まられるように書式を整えるには、意見や質問を解消する時間が必要である。（来年度からの実施は難しいのではないかな）

▲教科ごとに分かれていると子どもの全体像がとらえにくい。

▲1つのファイル内ですべてを把握できる一方、情報量が多い。

▲個の評価はしっかりできるが、評価項目を各評価担当に任されるとまちまちになってしまうのではないかな。→現在は管理職に評価項目をチェックしてもらっているが、すべての評価項目をチェックしてもらうということか。）

生徒一人ひとりの実態を細かく把握し、教科ごとの計画や評価が一体となった新様式は、わかりやすく、通信表などとのリンクも考慮できる点は良いと考える。しかし、わかりやすい反面、配慮すべき特性の教科ごとの入力、年間指導計画に対する個人の評価、グループではなく、個人の評価項目の入力および修正など作業量が多く、業務削減の観点では、業務量が多くなる。作業の仕方、目標の立案・評価の時期、どの担当が何を入力するのか、管理職の点検の仕方など、教員間の認識の統一を図ることや研修をすることが重要であると考えます。

②様式案

令和7年度 日常生活の指導 指導計画及び評価		3	年	1	組	児生氏名
年間指導計画	(1) 集団の中で、よりよく人と関わるための態度や考え方を身につける。 (2) 日常生活に必要な動作や行動について、行動の意図や意図を察知しながら正しく丁寧に行う。 (3) クラスや集団の中での自分の役割を理解し、自ら果たそうとする態度を養う。					
評価	現在の年間指導計画と同じ内容を記載する。					
・授業全体の合理的配慮を記入し、特に配慮が必要な人などを書き足せるとよいのではないかと ・すべての合理的配慮の欄を担当が記入するのは難しい。 →担任が授業に入っていない場合があるので授業担当 ST が入れるほうがいい						
【1学期】全154h						
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価			
意思表示 オノオノの 人との 関わり (生活科) 小の段階 (ア)	(1) 自分の気持ちや欲求などを言葉やジェスチャーで表現できる。 (2) 言葉や顔、身振りを明確にする。	【知・技】	言葉やジェスチャーを用いて自分の意思や欲求や感情を表現することができる。			
		【思・判・表】	自分の気持ちや欲求を考え、相手に伝える。			
		【主体】	自分の気持ちを言葉やジェスチャーを用いて、相手に伝えることができる。			
		【知・技】	目線や自分の担当している係を察知し、教師と一緒に取り組むことができる。			
生活科 (生活科) 小の段階 (イ)	(1) 集団における自分の役割を理解する。 (2) 係活動や係活動に見通しを持ち、自分で工夫して取り組む。 (3) 係活動や係活動に見通しを持ち、自分で工夫して取り組む。	【知・技】	係活動や係活動を見通しを持ち、自分で工夫して取り組むことができる。			
		【思・判・表】	係活動や係活動を見通しを持ち、自分で工夫して取り組むことができる。			
		【主体】	係活動や係活動を見通しを持ち、自分で工夫して取り組むことができる。			
		【知・技】	係活動や係活動を見通しを持ち、自分で工夫して取り組むことができる。			
生活科 (生活科) 小の段階 (イ)	(1) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。 (2) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。	【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【思・判・表】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【主体】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
・教科の制限より項目数の制限を設けたほうがよい →指導の幅が広く、個人差が出る ・内容(単元名)を考える際の指標となるものがあるという 観点にそって羅線を引く。(1)(2)(3)の表記を【知・技】【思・判・表】【主体】にし、目標と同様に内容も羅線で分別した方が評価と一体となってわかりやすい						
【2学期】全176h						
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価			
心理的安定 不安の軽減 (自立活動)	(1) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。 (2) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。	【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【思・判・表】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【主体】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
人との関わり (生活科)	(1) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。 (2) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。	【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【思・判・表】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【主体】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
生活科 (生活科) 小の段階 (イ)	(1) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。 (2) 自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。	【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【思・判・表】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【主体】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
		【知・技】	自分や周りの気持ちを察知し、自分の気持ちを相手に伝えることができる。			
・自立活動や道徳など、内容が重なる生徒が多くなる。 →日生で扱う理由や目的を明確にする、整理する 目的や場面を具体的に設定できるとよい。 ・「朝の会で」などの場面設定 ・「考えて発音する」→「教師をまねて」など日生としての方法、目的						

③まとめ(成果と課題)

業務課削減について、評価項目は、はじめにたてる方法で行ったが、生徒の実態に合わせて内容や教材を変えていくことや通信表とのリンクを考えると文言を細かく変える必要があるため、授業を終えた段階で評価項目を入れる従来のやり方のほうが効率がいい。そこで、評価があいまいにならないように、学習指導案や指導計画の欄外などに具体的な経過や評価をメモして蓄積していくなどの工夫をしたい。計画立案や評価の時期は、生徒の実態把握をする時間や学習状況を踏まえて検討する必要がある。

教科に関しては、1つのシートで教科や単元の内容が整理されているので、生徒一人一人のこれまで

の評価や過程を追って見える。実態が捉えやすく、教員間の引継ぎもしやすい。教科や単元の内容が整理できてよい。また、3 観点の目標を立て、3 観点で評価することで目標に対してどのように評価したか、何ができたか、わかりやすく、整理されていてよい。さらに、△の評価の項目は、明確な課題が把握しやすく、△から○◎にできるように具体的な手立てを考え、アプローチへとつなげていくことができる。一方で、また、「個別」という部分を突き詰めすぎず、「全体」「グループ」も大事にできるような考え方も共有できるという。個に合わせた目標にすることで、評価が高くなりすぎるということも出てくるので、評価の妥当性という点からも、グループ内での評価の基準を明確にすることが大切である。

領域に関しては、道徳の内容項目ごとに評価をしていくこと、「理解・見方・自己」の観点に分けてすべての単元で評価をすることは極めて難しい。(文科省の道徳科における評価のあり方にも明記) 1 学期間、1 年間のような大きなくくりで評価することが望ましい。また、授業時間の評価をするためには、年間指導計画を立てる必要がある。日常生活の指導においては、自立活動や道徳など、内容が重なる生徒が多くなることが懸念される。日常生活の指導で扱う理由や目的を明確にし、整理することが必要である。また、評価の中に、「朝の会で」などの場面や「考えて発音する」から「教師の真似をして」という日常生活の指導の場面で適切な目的を具体的に設定できるとよい。

日常的に指導することが必要な実態にある生徒なので、継続して取り組むことが必要であるという意見もある一方、どのような目的で、何の指導をしているのかを教師自身が意識するためにも、計画をしっかり立てることが必要である。また、どの教科を合わせているのか明確になることが望ましいという意見があった。仮に、この様式で合わせた指導として記載するのであれば、自立活動、道徳、日常生活の指導の記載が難しい。各教科に振り分けていくにしても、学校全体として共通できる一覧のようなものが必要である。(例：●●は自立、○○は生活科、△△は国語科等) 年度や教員によって形が変わっていくのは好ましくないため、それに向けた準備や学校全体で統一した認識をもてるように協議することが必要である。

全体を通して、新様式が整理されて定着したら、教科や単元内容が整理できる。授業担当になった際もこれまでの評価や経過を追って見やすいため、生徒の実態が捉えやすい。校内で書式を統一することにより、どの学部においても戸惑いが少なく、取り組める。また、この書式で継続して積み重ねていけば、業務削減につながると考えられる。しかし、評価の仕方、評価項目や文言の点検の仕方に見通しがないため、業務量が膨大になる不安がある。さらに、その他の諸帳簿等(通信表や年間指導計画等)とスムーズに連動することが業務量を削減できる大きなポイントになると考える。

(3) 高等部

現況把握として、個別の指導計画新様式に関する意見交換を行った。様々な意見が挙げられたが、特に年度初めに具体的な計画を作成することへの不安を感じている教師が多いことが分かった。そこで、現様式の個別の指導計画と新様式の個別の指導計画を比較しながら課題を整理し、研究主題に迫ることとした。

個別の指導計画 (令和6年度 前期・後期)

学部・学年	高等部 年	生徒氏名		記載者		作成年月日	
個別の指導目標		(健康) (学習) (社会性) (主体性)					
指導形態	指導目標 (評価項目や評価基準)		学習内容 (単元や指導項目・指導の手立て等)		評価 (指導の成果と課題)		
国語							
数学							
音楽							
美							

図1 現様式の個別の指導計画

令和6年度 国語 指導計画及び評価 0 年 0 組 生徒氏名 ○○ ○○ 教科担当 △△ △△

年間指導目標	(1) (2) (3)	部 段階	教科等における 合理的配慮	・
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		
2 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		
3 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容	【知・技】		
		【思・判・表】		

図2 新様式の個別の指導計画

新様式の個別の指導計画には、個別の指導目標を記載する欄がないため確認が必要である。しかし、現様式の個別の指導計画も、計画の時点で3観点から評価基準を設定したり、単元ごとに指導の計画を立て、その手立てを記したりするため、新様式の個別の指導計画と記載する内容自体は変わらない。そのため、「段階」や「次の段階に進むための指導等」といった新しく使用されている言葉を確認し、記載例を作成することで新様式の個別の指導計画を記載する際の負担を軽減したいと考えた。

先行研究では、評価をする段階で、あらかじめ立てていた目標や評価基準を変更・訂正する事例がいくつも見られたことを課題として挙げている。また、その原因を実態把握が十分でなく、生徒にとって適切な目標が考えられていなかったことや、具体的な学習活動と、それに合った評価基準を考えることが難しかったためであったとしている。したがって、個別の指導計画を作成する際には、教師の各教科の指導の経験や教科の専門性が活かされると効率化につながるのではないかと考えた。

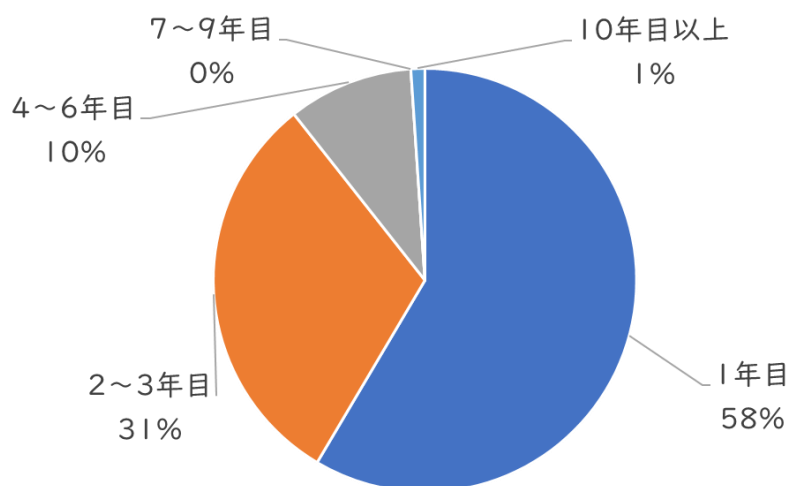


図3 高等部での各教科のグループCTの経験年数

図3に高等部での各教科のグループCTの経験年数を示す。その結果、今年CTとして指導している教科を本校高等部で初めて教えていると答えた教師の割合は58%で、初めて指導する中で生徒の実態把握や指導計画などを手探りでやっている教師も少なくない。実際には、他の学校や他学部での指導の経験、教師の専門性などもあるため、この調査結果の通りとはならないが、学部として各教科の専門性を高めていくための工夫が必要であると考ええる。

① 事例とまとめ（学年ごと）

1 学年グループの事例

令和6年度 音 楽 指導計画及び評価 0 年 0 組 児生氏名 ○○ ○○ 教科担当 △△ △△

年間指導目標	①音楽を形作る様々な要素を理解し、音楽表現にするために必要な技能を身に付ける。 ②様々な音や音楽と出会い、音楽のよさや美しさに触れたり、それを表現しようとしたりすることができる。 ③音楽活動の楽しさを体験することを通して、意欲的に音楽に親しもうとする態度を養う。	中学部 2段階	教科等における合理的配慮	・情報が多くならないようにシンプルな言葉で伝える。 ・恥ずかしいと感じている時には、無理に活動させずに友達や教師と一緒に活動させる。 ・指示が伝わったかどうかを確認する。
評 価				

【1 学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 自然で響きのある声を出そう「表現」 (時間数)	(1)姿勢や口形、口の大きさを意識して発声できる。 (2)歌詞の意味を考え声の大きさを意識しながら歌うことができる。 (3)友達の歌声を意識しながら、意欲的に音楽活動に取り組もうとする。 内容 歌唱「校歌」 発声練習「あくび」	【知・技】	姿勢や口形、口の開け方を意識して歌唱している。 ○	
		【思・判・表】	歌詞の意味を考え歌い方を変えている。 ○	
		【主体】	友達の歌声を意識しながら、意欲的に音楽活動に取り組もうとしている。 ○	
2 気持ちを合わせて演奏しよう「表現」 (時間数)	(1)簡単な楽譜を見て自分の担当する音を鳴らすことができる。 (2)曲の流れや友達の音を意識しながら演奏することができる。 (3)友達と気持ちを合わせて演奏しようとする。 内容 器楽「聖者の行進」ハンドベル	【知・技】	指揮や楽譜を見て自分の担当している音を鳴らしている。 ◎	
		【思・判・表】	曲の流れや友達の音を意識しながら演奏している。 ◎	
		【主体】	友達と気持ちを合わせて演奏しようとしている。 ◎	
3 ボディーパーカッション「表現」 (時間数)	(1)簡単な楽譜を見て、手拍子したり体を叩いたりすることができる。 (2)他のパートの音を意識しながら手拍子したり体を叩いたりすることができる。 (3)他のパートとタイミングを合わせようとする。 内容 身体表現「手びょうしの花束」	【知・技】	簡単な楽譜を見て、手拍子したり体を叩いたりしている。 ◎	
		【思・判・表】	他のパートの音を意識しながら手拍子したり体を叩いたりしている。 ◎	
		【主体】	他のパートとタイミングを合わせようとしている。 ◎	
4 いろいろな音楽を聴こう「鑑賞」 (時間数)	(1)いろいろな歌や曲などを聴き、曲の特徴を知る。 (2)自分の好きな歌や曲を紹介し、その曲の良さやイメージを伝えることができる。 (3)音楽に関する興味の幅を広げ、余暇活動に活かそうとする。 内容 自分の好きな音楽を紹介したり、友達の好きな音楽を聴いたりする。「惑星」	【知・技】	いろいろな歌や曲などを聴き、曲の特徴を理解している。 ○	
		【思・判・表】	自分の好きな歌や曲を紹介し、その曲の良さやイメージを伝えている。 ◎	
		【主体】	音楽に関する興味の幅を広げ、余暇活動に活かそうとしている。 ○	

【2、3 学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	音 楽	△△ △△	次の段階に進むための指導等
1 自然で響きのある声を出そう「表現」 (時間数)	(1)姿勢や口形、口の開け方を意識して発声できる。 (2)歌詞の意味を考え声の大きさを意識しながら歌うことができる。 (3)友達の歌声を意識しながら、意欲的に音楽活動に取り組もうとする。 内容 歌唱「 」 発声練習「あくび」	【知・技】	姿勢や口形、口の開け方を意識して歌唱している。			
		【思・判・表】	歌詞の意味を考え歌い方を変えている。			
		【主体】	友達の歌声を意識しながら、意欲的に音楽活動に取り組もうとしている。			
2 気持ちを合わせて演奏しよう「表現」 (時間数)	(1)簡単な楽譜を見て自分の担当する楽器を演奏することができる。 (2)楽器の特徴を生かして演奏をすることができる。 (3)音の重なりを意識して演奏しようとする。 内容 器楽「聖者の行進」ハンドベル 器楽「 」キーボード 鉄琴 木琴	【知・技】	楽譜を見て自分の担当する楽器を演奏している。			
		【思・判・表】	楽器の特徴を生かして演奏している。			
		【主体】	音の重なりを意識して演奏しようとしている。			
3 音楽に合わせてカップを動かそう「表現」 (時間数)	(1)カップの基本の動かし方を知る。 (2)曲のイメージを意識してカップを動かしたり音を出したりする。 (3)友達と気持ちを合わせてカップを動かそうとする。 内容 身体表現「カップス」	【知・技】	基本の動かし方を知りカップを動かしている。			
		【思・判・表】	曲をイメージしながらカップの動かし方を工夫している。			
		【主体】	友だちと気持ちを合わせてカップを動かしている。			
4 いろいろな音楽を聴こう「鑑賞」 (時間数)	(1)世界や日本の曲の特徴を知る。 (2)世界や日本の曲の似ている所や違うところに気づき発表することができる。 (3)民族音楽や民族楽器に親しみ、そのよさや美しさを味わいながら聴く。 内容 世界の音楽 日本の音楽	【知・技】	世界や日本の曲の特徴を理解している。			
		【思・判・表】	世界や日本の曲の似ている所や違う所をまとめる。			
		【主体】	民族音楽や民族楽器の良さや美しさを感じながら聴こうとしている。			
5 (時間数)	(1) (2) (3) 内容	【知・技】				
		【思・判・表】				
		【主体】				

年間指導目標	(1)音楽の多様性について知り、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 (2)創意工夫を生かした音楽表現をしたり、音楽のよさや美しさを見出しながら聴いたりする。 (3)主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽活動をする楽しさを体験することを通して、様々な音楽に親しむ態度や情操を養う。	小学部 2段階	教科等における 合理的配慮	・学習活動に進んで取り組むためには心理的な安定を図ることが必要である。 「できる」ことを実感できる表現活動の用意、技能の向上により自己肯定感を高める。 ・聞こえにくさのある生徒であるため、音量や音声器具の位置に気を付ける。
評 価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等

【2、3学期】

					音 楽	△△ △△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等	
1 音の強弱を意識しよう (8時間) 「表現」	(1)音の強弱に気づく。 (2)音の強弱を意識するために鳴らし方を考えて演奏する。 (3)音を鳴らしたい気持ちを持ち、進んで音を鳴らす。 内容 器楽『おおきなこ』 他	【知・技】	音の強弱に気付いている。			
		【思・判・表】	音の強弱に気付き、鳴らし方を変えようとしている。			
		【主体】	曲を聴いて楽器を鳴らしている。			
2 旋律に触れよう (10時間) 「表現」	(1)楽器の鳴らし方が分かり、演奏する。 (2)簡単な色楽譜を見て演奏する。 (3)音を鳴らしたい気持ちを持ち、進んで音を鳴らす。 内容 器楽『あまだれ』『まほうのど』『どれみであいさつ』	【知・技】	キーボードなどの楽器の鳴らし方が分かり、演奏する。			
		【思・判・表】	色楽譜を見ながら演奏している。			
		【主体】	楽器に興味を持ち、自分から音を鳴らしている。			
3 カップを使って音楽を奏でよう (6時間) 「表現」	(1)カップの動かし方を知り、音楽やフレーズに合わせてカップを操作する。 (2)自分なりにカップを動かしたり音を出したりする。 (3)自分からカップを動かそうとしたり音を出したりする。 内容 カップス『ドラえもん』	【知・技】	カップの動かし方を知り、音楽やフレーズに合わせてカップを操作したりしている。			
		【思・判・表】	自分なりにカップを動かしたり音を出したりしている。			
		【主体】	自分からカップを動かしたり、音を出したりしている			
4 身体を使って表現しよう (時間数) 「表現」	(1)曲の雰囲気を感じ取り、教師の示範を見て模倣したりリズムを感じて身体を動かしたりする。 (2)音や音楽を聴いて自分なりに身体を動かす。 (3)自分から身体を動かして表現しようとする。 内容 ボディーパーカッション他	【知・技】	曲の雰囲気を感じ取り、模倣したりリズムを感じて身体を動かしたりしている。			
		【思・判・表】	音や音楽を聴いて、自分なりに身体を動かしている。			
		【主体】	自分から身体を動かして表現しようとしている。			
5 (時間数) 「鑑賞」	(1)日本や世界の伝統的な音楽を鑑賞し、様々なジャンルの音楽があることを知る。 (2)曲想や音色に気づき、身体で表現する。 (3)進んで音楽活動に取り組み、友だちや教師と協働して表現しようとする。 内容 季節の歌 『星に願いを』、「日本の音楽」、「世界の音楽」	【知・技】	日本や世界の伝統的な音楽を鑑賞し、様々なジャンルの音楽があることを理解している。			
		【思・判・表】				
		【主体】	音楽活動を楽しみながら、進んで音楽活動に取り組んでいる。			
6 パネルシアター (時間数) 「鑑賞」	(1)音楽を聴き、パネルを貼る。 (2)音楽を聴き、タイミングを合わせてパネルを貼る。 (3)パネルに注目しながら、歌に親しむ。 内容 『5つのメロパン』	【知・技】	パネルに注目し、パネルに貼っている。			
		【思・判・表】	音楽を聴き、タイミングを合わせてパネルを貼っている。			
		【主体】	パネルに注目し、歌を聴いて身体を揺らしたりしている			

年間指導目標	(1)外国語を「聞く」「話す」「見る」「読む」活動を通じて、日本語とは異なった言語があることに気が付き、外国語に慣れ親しむ。 (2)自分のことや身近な事情について、自分で相手に伝えようとする力を養う。 (3)授業を通じて、言語や文化についての関心を深めるとともに、主体的に活動に取り組む態度を養う。	小学部 (外国語活動)※段階はなし	教科等における 合理的配慮	・補聴器を着用し、音の違いを聞き取れるように促す。 ・席を端に設定し、黒板に注目できるようにする。 ・順番を表すときには、写真を使用し、わかりやすく提示する。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		
2 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		
3 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1「WAKABA market」 (0.9×5 4.5時間)	(1)英語を使って数を数える。【知】 (2)食べものが、外国語では日本語とは異なる表現になることを知る。【思】 (3)自分からコミュニケーションを図ろうとする。【学】 内容 ・How many～? ・ものの名前(食べ物等)	【知・技】	・英語を聞いて、具体物を選ぶ。	
		【思・判・表】	・食べものの表現を、言葉やカード、身振りなどを使って相手に伝えようとしている。	
		【主体】	・教師と一緒にコミュニケーションを図ろうとしている。	
2「季節の行事」 (0.9×2 1.8時間)	(1)ハロウィンやクリスマスの意味や特徴的な事情について知る。【知】 (2)ハロウィンやクリスマスに関する活動を実際に体験し、文化に触れる。【思】 (3)自分からコミュニケーションを図ろうとする。【学】 内容 ・ハロウィンについて ・クリスマスについて	【知・技】	・日本と外国の文化(行事)の違いについて知り、日本と外国の文化を仲間分けする。	
		【思・判・表】	・日本と外国の文化を経験し、自分の気持ちを表現する。	
		【主体】	・日本と外国の文化の違いに興味関心をもつ。	
3「Do you～?」 「まとめ」(0.9×6 5.4時間)	(1)やりたいことややりたくないことについて、「Yes、No」を使つての受け答えの表現を知る。【知】 (2)英語を用いながら、相手とやりとりし表現する。【思】 (3)自分からコミュニケーションを図ろうとする。【学】 内容 ・動きの言葉 ・Yes、Noを使おう ・やりたいこと、やりたくないこと	【知・技】	・「Yes」「No」と身振りを一致させる。	
		【思・判・表】	・自分のやりたいことややりたくないことについて「Yes」「No」を用いて表現する。	
		【主体】	・覚えた表現方法を使って、意欲的に相手に伝えようとする。	
4学校生活の思い出を伝え合おう(コミュニケーションを広げよう③) (時間) 「 」	(1)自分の経験を、英語を使って記す。(知) (2)学校生活の出来事を思い出し、自分の考えや気持ちを過去形にして表現する。(思) (3)関き手が聞き取りやすいように発表しようとする。(主) 内容 ・高等部の思い出について、My best memory is～を用いて表現する。 ・“went”“saw”“enjoyed”などを用いて、自分の経験を表現する。	【知・技】	自分の経験を、My best memory is～を用いてプリントやタブレットで表記する。	
		【思・判・表】	学校生活の出来事を思い出し、自分の考えや気持ちを過去形を使って相手に伝える。	
		【主体】	関き手が聞き取りやすいように、発表しようとしている。	
5 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		

年間指導目標	(1) 日本語と外国語の違いに気づくとともに、「読む」「書く」「聞く」「話す」ことを中心としたコミュニケーションの基礎的な力を身に付ける。(知識及び技能) (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ち等を伝え合うことができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力等) (3) 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	高等部 1段階	教科等における 合理的配慮	・生徒同士が英語でコミュニケーションを図る場面を設定する。 ・生徒が学習の定着を図ることができるよう、毎回復習の時間を設ける。 ・生徒が学習内容にイメージをもつことができるよう、イラストや動画を用いて、視覚的にわかりやすく学習内容を提示する。 ・生徒が意欲的に学習に取り組むことができるよう、興味関心のある題材や教材を取り扱う。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 挨拶、日付・曜日、天気 (2時間+毎回の授業の始め)	(1) 「挨拶、日付、曜日、天気」についての単語や、日付等について聞いたり、答えたりする時の表現を知る。 (2) 「挨拶、日付、曜日、天気」についての質問に答えたり、それらの質問を自ら考えて発したりする。 (3) 相手の反応をよく見て、積極的に受け答えをする。 内容 ① 「挨拶、日付、曜日、天気」に関する単語や表現の聞き取り、書き取り ② 毎回の授業におけるやりとり	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	「挨拶、日付、曜日、天気」についての単語や、日付等について聞いたり、答えたりする時の表現を知っている。 「挨拶、日付、曜日、天気」についての質問に答えたり、それらの質問を自ら考えて発したりしている。 相手の反応をよく見て、積極的に受け答えをしている。	○ ○ ○
2 身近にある英語を見つけて調べよう (3時間)	(1) 生活の中において、英語が身近なものであることに気付く。 (2) 自分の好きなJ-popの中に使われている英語を探し、意味を調べて発表する。 (3) 翻訳アプリの活用法を知り、意欲的に意味を調べたり、英語の発音を確認したりする。 内容 ① J-popに使われている英語探し、翻訳アプリを使用した意味調べ ② 意味調べの発表	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	生活の中において、英語が身近なものであることに気付いている。 自分の好きなJ-popの中に使われている英語を探し、意味を調べて発表している。 翻訳アプリの活用法を知り、意欲的に意味を調べたり、英語の発音を確認したりしている。	◎ ◎ ◎
3 アメリカのダンス【方向や動作を表す表現】 (3時間)	(1) アメリカのダンスから、方向や動作を表す単語を知り、英語らしく発音する。 (2) 方向や動作を表す単語を聞きとり、適切に表現する。 (3) 日本の踊り(やまびこ音頭)とアメリカのダンスとの違いに気づき、やまびこ音頭を紹介したり、アメリカのダンスを楽しみながら踊ったりする。 内容 ① 方向や動作を表す単語(意味や発音) ② Cha Cha Slideダンス	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	アメリカのダンスから、方向や動作を表す単語を知り、英語らしく発音している。 方向や動作を表す単語を聞きとり、適切に表現している。 日本の伝統的な踊り(盆踊り)とアメリカのダンスとの違いに気づき、楽しみなが意欲的に活動している。	○ ◎ ◎

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	外国語	△△ △△	次の段階に進むための指導等
1 道案内 (4.5時間)	(1) 道案内について基本的な表現を知り、文章を見たり聞いたりして、地図の中のどこを表しているかわかる。 (2) 簡単な語句や基本的な表現を用いて相手に目的地までの道案内をしたり、相手の案内を聞いて正しい道順や目的地を理解したりする。 (3) 覚えた表現方法を用いて、意欲的に相手に伝えようとする。 内容 ① 道案内について基本的な表現方法 (go straight, turn left [right] 等) ② 地図を用いた学習、校内探検	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	道案内の表現の仕方がわかり、文章を読んだり書いたりしている。 基本的な表現を用いて相手に正しく伝えたり、相手の案内を聞いて道順や目的地を理解したりしている。 覚えた表現方法を用いて、意欲的に相手に伝えようとしている。			
2 季節の行事(ハロウィン・クリスマス・お正月) (5.4時間)	(1) 季節の行事を行う意味や特徴的な事柄について知る。 (2) 日本と外国の文化や行事の違いについて調べ、まとめた発表したりする。 (3) 日本と外国の文化や行事の違いについて興味をもち、すすんで調べたり発表したりする。 内容 ① 行事(ハロウィン、クリスマス、お正月)の意味、特徴的な事柄について ② タブレットを用いた調べ学習、まとめ、発表	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	行事を通して日本と外国の文化の違いについて知る。 日本と外国の行事の違いについて調べ、まとめた発表したりしている。 日本と外国の文化や行事の違いについて興味をもち、すすんで調べたり発表したりしている。			
3 得意なこと、苦手なこと (5.4時間)	(1) 自分の得意なことや苦手なことについて、表現の仕方を知る。 (2) 自分の得意なことや苦手なことについて相手に伝えたり、相手の発表を聞き、内容を理解したりする。 (3) 友達の話に興味をもち、発表を聞いた質問したりする。 内容 ① canを用いた構文、否定文、疑問文 ② 友達や教師とのコミュニケーション	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	自分の得意なことや苦手なことについて表し方を知り、文章を読んだり書いたりしている。 自分の得意なことや苦手なことについて相手に伝えたり、相手の発表を聞き、内容を理解したりしている。 友達の話に興味をもち、発表を聞いた質問したりしている。			

年間指導目標	(1) 集団生活を通して、主体性や経験を広げ、自信をもって行動できるようにする。 (2) 学年委員会の活動に見通しをもち、与えられた役割をしっかりと果たす。	学校	教科等における合理的配慮	・まだ経験のしたことのないことについては、すぐに答えを出すことよりも、様々な場合を考える過程を大切にすること。 ・先輩や教師のTP0に合わせたふるまいや言葉遣いを見たり聞いたりする機会と自分も見習えるようにすること。 ・司会などで会を進行するときには、進行表（カンペ）を活用し、自信をもって行動できるようにすること。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 学級活動・ホームルーム活動 (時間)	(1) 学級集団の中で、安定した人間関係を築き、自主性を育てる。 (2) 集団活動を通し、児童生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育てる。 内容 ・学級（ホームルーム）活動、学年活動（学年レク）、各学期の振り返り活動、愛好作業、学部集会、給食	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		
2 児童生徒会活動 (時間)	(1) 望ましい集団活動を通して、お互いを認め合い、仲間を尊重する気持ちを育てる。 (2) 自分のよいところに気づき、自分の力を学校や社会のために生かす能力養う。 (3) 仲間と協力し、主体的に問題を解決しようとする気持ちを育てる。 内容 ・高等部生徒総会、あいさつ運動、全校お楽しみ会、高等部委員会活動（学年委員として学年レクの企画・運営、時間を守ろう週間呼びかけ）新入生歓迎会	【知・技】	ダンスや呼びかけなどに意欲的に取り組み、自分の役割を果たそうとする。（新入生歓迎会）	前期の通知表
		【思・判・表】	話し合いの場で友だちの意見を聞いたりクラスの意見をまとめたりする。（学級活動）	
		【主体】	学年のリーダーとしての自覚をもち、ふさわしい態度や行動をとる。	
3 学校行事 (時間)	(1) 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属意識や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 内容 ・儀式的行事（入学式、始業式）、健康診断、避難訓練、農林高校との交流及び合同学習	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		

【2、3学期】

					総合的な学習の時間	△△	△△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等			
1 学級活動・ホームルーム活動 (時間)	(1) 学級集団の中で、安定した人間関係を築き、自主性を育てる。 (2) 集団活動を通し、児童生徒の経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育てる。 内容 ・学級（ホームルーム）活動、学年活動（学年レク、メリハリ週間）、各学期の振り返り活動、愛好作業、学部集会（学部体育祭、卒業生を送る会）、給食	【知・技】	クラスや学年、学部等様々な集団での活動を通して、先輩や友だちと自分からかかわる方法を増やす。				
		【思・判・表】	クラスの話し合いの際、意欲的に自分の意見を発表する。				
		【主体】	クラスの一員としての意識をもち、積極的に行動しようとする。				
2 児童生徒会活動 (時間)	(1) 望ましい集団活動を通して、お互いを認め合い、仲間を尊重する気持ちを育てる。 (2) 自分のよいところに気づき、自分の力を学校や社会のために生かす能力養う。 (3) 仲間と協力し、主体的に問題を解決しようとする気持ちを育てる。 内容 ・高等部生徒総会、あいさつ運動、全校お楽しみ会、高等部委員会活動（学年委員として学年レクの企画・運営）	【知・技】	自分の行動を振り返り、自分にできる役割について考え行動する。				
		【思・判・表】	クラスの代表として、周囲の様子にも意識を向けながら、活動に取り組む。				
		【主体】	学年のリーダーとしての自覚をもち、ふさわしい態度や行動をとる。				
3 学校行事 (時間)	(1) 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属意識や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してより良い学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 内容 ・儀式的行事（始業式、終業式、修了式、卒業証書授与式、離任式）、交通安全教室、学習発表会、避難訓練、農林高校との交流及び合同学習	【知・技】	TP0にふさわしいふるまい、言動をする。				
		【思・判・表】	会の趣旨を意識しながら、落ち着いた気持ちで儀式に参加する。				
		【主体】	適度な緊張感をもちながら、練習したことを観客の前で自信をもって発表することができる。				

年間指導目標	(1)学級や学年、年度の生徒と協働する活動を通して、様々な集団活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。 (2)話し合い活動を通して、相手の意見を受け入れたり、自分の意思を伝えたりすることができるようにする。 (3)多様な生徒と共に活動することを通して、集団生活や人間関係をよりよく形成するための態度を養う。	学校	教科等における合理的配慮	・両側混合性難聴(中等度)のため、補聴器を装着している。学習活動を開始する前に、教師が正しく装着する。 ・聞こえにくさによる情報量の少なさを補うため、教師による見本や、身振りによるサインや文字、イラスト等の視覚的支援をあわせて活用すること で、本人が活動の見通しをもったり、状況を理解したり、意思表示をすることができるようにする。 ・言語指示をする場合は短く、端的に行う。 ・前転など、首に負担のかかる運動は行わない。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等
ホームルーム活動 (時間)	(1)学級内の自分の役割を自覚し、友だちと協力して実践する。 (2)教師や友だちとコミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくる。 (3)学校図書館を積極的に活用しようとする態度を養う。 内容 ・学級委員選出、クラスや個人目標の決定、係活動決め、高等部の決まりについて、仲間づくり活動と話し合い、校内探検、HR活動内容の話し合い活動、図書館の利用、1学期の振り返りと夏休みの過ごし方	【知・技】	自分の役割(机拭き係)を自覚し、毎日取り組んでいる。	◎	
		【思・判・表】	HR活動内容の話し合い活動で、イラストと文字の選択肢から選び、自分の意思を伝えている。	◎	
		【主体】	図書館に行き、すすんで好きな本を選んだり、ページをめくったりしようとしている。	○	
生徒会活動 (応援委員会) (時間)	(1)委員会活動を通して、他学年の生徒や教師と協力する力を身に付ける。 (2)よりよい応援にするために、周囲の人の見本を見たり、話を聴いたりする。 (3)集団活動を通して、自ら進んで活動に取り組もうとする態度を養う。 内容 ・委員会活動(応援委員会)：委員長・副委員長の選出、目標と活動内容の確認、1学期の反省と今後の取り組み	【知・技】	応援委員会の活動に見通しをもち、友だちや教師と一緒に応援練習をしている。	◎	
		【思・判・表】	迫力ある応援にするために、教師の見本を見たり、話を聞いたりしている。	◎	
		【主体】	応援練習に自ら進んで取り組もうとしている。	○	
学校行事 (時間)	(1)さまざまな学校行事の活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方を身に付ける。 (2)周囲を見たり、教師の指示を聞いたりしながら、自ら判断して場面に応じた適切な行動をとる。 (3)学校行事を通して身に付けたことを生かして、互いに助け合い、協力しようとする態度を養う。 内容 ・入学式、新入生歓迎会、避難訓練、起震車体験、愛校作業、学部集会、終業式	【知・技】	入学式で、呼名されて起立したり、礼をしったりしている。	◎	
		【思・判・表】	避難訓練で、教師の指示を聞いてしゃがんだり、避難場所へ移動したりしている。	◎	
		【主体】	愛校作業で、友達と一緒に同じ場所をぞうきんで拭き、協力して清掃しようとしている。	◎	

【2、3学期】

					総合的な学習の時間	△△	△△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等		
ホームルーム活動 (時間)	(1)学級内の自分の役割を自覚し、友だちと協力して実践する。 (2)教師や友だちとコミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくる。 (3)学校図書館を積極的に活用しようとする態度を養う。 内容 ・2学期、3学期の個人目標決め、HR活動内容の話し合い活動、図書館の利用、卒業式・卒業生を送る会に向けて、2学期・3学期の目標の反省	【知・技】	自分の役割(机拭き・牛乳配膳係)を自覚し、毎日取り組んでいる。				
		【思・判・表】	HR活動内容の話し合い活動で、イラストと文字の選択肢から選び、自分の意思を伝えている。				
		【主体】	話し合い活動で発言する友達に注目したり、HR活動で友達と進んでコミュニケーションをとったりしようとしている。				
生徒会活動 (応援委員会) (時間)	(1)委員会活動を通して、他学年の生徒や教師と協力する力を身に付ける。 (2)よりよい応援にするために、周囲の人の見本を見たり、話を聴いたりする。 (3)集団活動を通して、自ら進んで活動に取り組もうとする態度を養う。 内容 ・委員会活動(応援委員会)：応援練習、壮行会、2学期の活動の反省と今後に向けて、1年間の反省と来年度に向けて	【知・技】	応援委員会の活動に見通しをもち、友だちや教師と一緒に応援練習をしている。				
		【思・判・表】	迫力ある応援にするために、教師の見本を見たり、話を聞いたりしている。				
		【主体】	応援練習に自ら進んで取り組もうとしている。				
生徒会活動 (時間)	(1)他学年の児童生徒と一緒に行う活動の内容を理解し、必要な行動の仕方を身に付ける。 (2)学校行事について、話し合いで決めたことに協力して実践する。 (3)多様な他者と協力して、活動に取り組もうとする態度を養う。 内容 ・高等部縦割り対抗運動会、美化活動(花いっぱい運動)、高等部生徒会役員選挙、高等部生徒総会、全校お楽しみ会、なかよし会総会、高等部学部集会	【知・技】	なかよし会役員選挙で、投票の方法を知り、教師と一緒に行う。				
		【思・判・表】	花いっぱい運動で、学校をきれいにするために花の苗と球根を選び、植える。				
		【主体】	運動会で、友達や先輩と一緒に協力して玉入れやリレーの活動に参加しようとしている。				
学校行事 (時間)	(1)さまざまな学校行事の活動のために必要なことを理解し、規律ある行動の仕方を身に付ける。 (2)交通安全教室や引き渡し訓練を通して、事故や災害から身を守る安全な行動について理解して取り組む。 (3)日頃の学習の成果を発表することで、やりとげた達成感を味わい、意欲的に活動に取り組もうとする態度を養う。 内容 ・始業式、交通安全教室、引き渡し訓練、避難訓練、50周年式典、学習発表会、終業式、卒業生を送る会、修了式、離退任式	【知・技】	学習発表会で、脱穀をする工程について実演し、発表する。				
		【思・判・表】	交通安全教室で、左右を確認したり、手を挙げたりして安全に横断歩道を渡る。				
		【主体】	50周年式典で、影絵劇を鑑賞する活動に進んで参加しようとする。				

2 学年グループの事例

令和6年度 職業（進路） 指導計画及び評価 0 年 0 組 生徒氏名 ○○ ○○ 教科担当 △△ △△

年間指導目標	(1) 就労の意義を理解し、職業生活に関する知識を深めたり、技能を高めたりすることができるようにする。 (2) 将来の職業生活を見据え、自身の適性や、自分の成長及び課題について考え、表現することができるようにする。 (3) 将来の職業生活や地域社会への参画に向けて、計画性をもって主体的に行動しようとする態度を養う。	高等部	教科等における合理的配慮	・実際に練習をしながら、実習先での対応について学べるようにする。 ・担任との相談を通して、適切な目標を設定できるようにする。 ・普段の生活や日々の授業で実感を伴って学べるようにする。 ・なりたい自分に近づくために普段できそうなことを決め、一定期間取り組む。 ・自己評価だけではなく、他者評価を交えて自分を客観視できるような機会を設ける。
評価		1 段階		

【1 学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 自分自身について (時間) 「自己紹介」 ※通年	(1) (教師の促しを受けて) 自己紹介をする。 (2) 住んでいる市町を選んだり好きなものを考えたりして紹介する。 (3) 教師と一緒に自己紹介をしたり教師の質問に答えたりする。 内容 ・学校名、氏名、住所 (市町)、好きなことを発表する	【知・技】	自分の住んでいる市町を覚えている。	
		【思・判・表】	自分の好きなことを考えて紹介している。	
		【主体】	自己紹介の目的 (自分のことを友達や教師に知ってもらうこと) がわかっている。	
2 (時間) 「アタック 9」 ※通年	(1) アタック 9 を覚える。 (2) アタック 9 のチェックシートを (教師と一緒に) 確認しながら記入する。 (3) アタック 9 を意識する。 内容 ・アタック 9 について覚え、意識して行動する。	【知・技】	アタック 9 の項目を意識した行動をしている。	
		【思・判・表】	アタック 9 のチェックシートを (教師と一緒に) 確認しながら記入している。	
		【主体】	学校全般でアタック 9 を意識して生活しようとしている。	
3 現場実習について (時間) 「第1期現場実習について (事前学習)」	(1) 実習先、実習に行く日を見る。 (2) あいさつや謝罪の言葉などを覚えて、ロールプレイをする。 (3) 実習に期待感をもつ。 内容 ・現場実習先、実習に行く日などPPを用いて確認し、ワークシートにまとめる。 ・ロールプレイを通して、あいさつや言葉覚え、適した使い方を覚える。	【知・技】	実習の日や実習先を覚えている。	
		【思・判・表】	場面に応じたあいさつや言葉を考えたりヒントを見たりして言うことができる。	
		【主体】	実習に行くことと行くことがわかっている。	
4 現場実習について (時間) 「第1期現場実習について (事後学習)」	(1) 実習先で行った作業を思い出して、発表したり選んだりする。 (2) 教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりする。 (3) 反省や課題を日常生活に生かそうとする。 内容 ・PPや写真、実物を用いて確認する。 ・教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりする。	【知・技】	実習先や作業内容を思い出して伝えている。	
		【思・判・表】	教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりしている。	
		【主体】	反省や課題を今後の生活に生かそうとしている。	

【2、3 学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	職業 (進路)	△△ △△	次の段階に進むための指導等
1 現場実習について (時間) 「第2期現場実習について (事前事後学習)」	(1) 将来の職業生活に必要なことや、働く力を身に付けることの意味を理解する。 (2) 職場での適切な言動や態度について考え、自分で判断する。 (3) 実習での心構えや、実習をする意義を意識して取り組む。 内容 ・事前学習 (実習の概要、心構えや対応、実習日誌の作成、二者面談、個別目標設定)、実習がんばろう会、実習報告会、事後学習 (まとめ・振り返り、お礼状作り)	【知・技】	職業生活に必要な事柄を理解し、実習での経験と結び付けて捉えている。			
		【思・判・表】	職場での適切な言動や態度について、ロールプレイや実習の中で実践している。			
		【主体】	実習を終えての成果や課題を的確に捉え、文章で表現している。			
2 働くために (時間) 「働くための力を身に付けよう」	(1) 職業生活に必要な基本的で実践的な知識を深め、技能を身に付ける。 (2) 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考える。 (3) 自分のやるべきことがわかり、課題に対して最後まで取り組もうとする態度を養う。 内容 ・電話の仕方、金銭の管理、健康管理と身だしなみ、人との付き合い方、余暇の過ごし方、継続する力、グループホーム見学	【知・技】	身に付けた技能を、作業や実習で効果的に活用している。			
		【思・判・表】	自分の考えを記述したり口述したりする。			
		【主体】	提示された学習課題に根気強く取り組んだり、積極的に取り組んだりしている。			
3 進路を考える (時間) 「職業ガイダンスと市町村別進路相談会について」	(1) 様々な就労形態や卒業後に使える福祉サービス等についての概要を知る。 (2) 次年度の現場実習について考えたり、卒業後の生活を具体的にイメージしたりする。 (3) 自己実現に向けて、計画性をもって主体的に学習活動に取り組もうとする態度を養う。 内容 ・職業ガイダンス (事前事後学習含む)、市町村別進路相談会	【知・技】	各就労形態の違いや福祉サービスの概要を理解する。			
		【思・判・表】	職業ガイダンスや市町村別進路相談会を経て、考えたことを述べる。			
		【主体】	わからないことは自分から質問したり、要点をまとめる積極的な姿がみられる。			
4 進路を考える (時間) 「卒業後の生活について考えてみよう」	(1) 様々な就労形態や卒業後に使える福祉サービス等についての知識を深める。 (2) 職業ガイダンスや市町村別進路相談会での学びをもとに、次年度の実習や卒業後の生活について考える。 (3) 次年度の実習や卒業後の生活について自分で考えるときにも、他者の意見も聞くこととする態度を養う。 内容 ・来年度の現場実習に向けて、卒業後の希望、卒業後の生活の場、働くことの意義、20歳頃の生活をイメージ	【知・技】	卒業後に利用できる福祉サービス生活の場について理解している。			
		【思・判・表】	次年度の実習について目標を立てる。			
		【主体】	卒業後の生活について自分自身の考えをもつと共に、他者の意見も受け入れようとする姿勢が見られる。			

年間指導目標	(1) 卒業後に必要な力を身につける。 (2) 自分の得意なことがわかり、できることを増やす。 (3) 作業などを通して、興味・関心の幅を広げる。	高等部 1段階	教科等における 合理的配慮	・視覚的な教材を用いてイメージしやすいようにする。 ・ロールプレイ等を通して実際に行いながら、社会人として必要な力について考えられるようにする。 ・クラス担任と連携することで、個人の実習先の目標や課題、反省等を進路の学習の中でも効果的に扱えるようにする。 ・授業内容を普段の生活でも意識できるように学校生活の様々な場面で繰り返し伝えられるようにする。 ・年間を通してアタック9というテーマで社会人として必要な力について考える。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 自分自身について (時間) 「自己紹介」 ※通年	(1) (教師の促しを受けて) 自己紹介をする。 (2) 住んでいる市町を選んだり好きなものを考えたりして紹介する。 (3) 教師と一緒に自己紹介をしたり教師の質問に答えたりする。 内容 ・学校名、氏名、住所(市町)、好きなことを発表する	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	自分の住んでいる市町を覚えている。 自分の好きなことを考えて自己紹介している。 自己紹介の目的(自分のことを友達や教師に知ってもらうこと)がわかっている。	
2 (時間) 「アタック9」 ※通年	(1) アタック9を覚える。 (2) アタック9のチェックシートを(教師と一緒に)確認しながら記入する。 (3) アタック9を意識する。 内容 ・アタック9について覚え、意識して行動する。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	アタック9の項目を意識した行動をしている。 アタック9のチェックシートを教師と一緒に確認しながら記入している。 学校生活全般でアタック9を意識して生活している。	
3 現場実習について (時間) 「第1期現場実習について(事前学習)」	(1) 実習先、実習に行く日を見る。 (2) あいさつや謝罪の言葉などを覚えて、ロールプレイをする。 (3) 実習に期待感をもち。 内容 ・現場実習先、実習に行く日などPPを用いて確認し、ワークシートにまとめる。 ・ロールプレイを通して、あいさつや言葉を覚え、適した使い方をする。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	実習の日や実習先を覚えている。 場面に応じたあいさつや言葉を考えたりヒントを見たりして言うことができる。 実習に行くことと行くことがわかっている。	
4 現場実習について (時間) 「第1期現場実習について(事後学習)」	(1) 実習先や行った作業を思い出し、発表したり選んだりする。 (2) 教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりする。 (3) 反省や課題を日常生活に生かそうとする。 内容 ・PPや写真、実物を用いて確認する。 ・教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりする。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	実習先や作業内容を思い出して伝えている。 教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりしている。 反省や課題を今後の生活に生かそうとしている。	

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	職業(進路)	△△ △△	次の段階に進むための指導等
1 第2期現場実習 (時間)「第2期現場実習について」 内容 ・事前学習(実習の概要、実習日誌の作成、二者面談、個別目標設定)、実習がんばろう会、実習報告会、事後学習(まとめ・振り返り、お礼状作り)	(1) 現場実習先や実習に行く日程、内容等を実習日誌にまとめる。 (2) ロールプレイを通して、あいさつの仕方や言葉を覚え、場面に適した使い方をする。 (3) 実習日誌や写真、動画等を見て振り返り、教師と一緒に反省や課題を考えたり確認したりする。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	実習の日や実習先を覚える。 場面に適した挨拶や言葉を考えたりヒントを見たりして言う。 実習の反省や課題を今後の生活に生かす。			
2 働くために (時間) 「働くための力を身に付けよう」 内容 ・電話の仕方、金銭の管理、健康管理と身だしなみ、人との付き合い方、余暇の過ごし方、継続する力、グループホーム見学	(1) 職業生活に必要な基本的で実践的な知識を深め、技能を身につける。 (2) 職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方の工夫について考える。 (3) 自分のやるべきことがわかり、課題に対して最後まで取り組もうとする態度を養う。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	社会生活に必要な基礎的・基本的な知識、態度及び習慣を身につける。 いろいろな職場や働き方に関心をもち、働くことについて考える。 卒業後の生活に向けて、見通しをもったり意欲を高めたりする。			
3 進路を考える (時間) 「職業ガイダンスと市町村別進路相談会について」 内容 ・職業ガイダンス(事前事後学習含む)、市町村別進路相談会	(1) 様々な就労形態や卒業後に使える福祉サービス等についての概要を知る。 (2) 次年度の現場実習について考えたり、卒業後の生活を具体的にイメージしたりする。 (3) 自己実現に向けて、計画性をもって主体的に学習活動に取り組もうとする態度を養う。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	自分の住んでいる市町について覚える。 自分の利用したい福祉サービスについて知る。 職業ガイダンスや市町村別進路相談会で知ったことをまとめる。 自分の進路選択について前向きにとらえ、自分の考えをもって進路の学習に取り組む。			
4 進路を考える (時間) 「卒業後の生活について考えてみよう」 内容 ・来年度の現場実習に向けて、卒業後について、卒業後の生活の場、働くことの意義	(1) 就労形態や卒業後に使える福祉サービスについて知る。 (2) 職業ガイダンスや市町村別進路相談会を通して、次年度の実習先や卒業後の生活について考える。 (3) 次年度の実習や卒業後の生活についてイメージをもつ。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	卒業後に利用できる福祉サービスや生活の場について知る。 3年生の実習について今までの課題をもとに目標を考える。 卒業後の生活についてイメージをもつ。 働くことの意義について考える。			

年間指導目標	(1) 道徳的な事柄への価値を理解し、道徳的な判断力や態度などを身につける。 (2) ルールやマナー、人とのかわり、命の大切さなどの道徳的な事柄について考えを深める。 (3) 道徳性を養い、普段の生活の中で学んだことを実践しようとする。	学校	教科等における 合理的配慮	・状況や問題を理解するために、視覚的にわかりやすく動画や画像を使って提示したり、ロールプレイングを取り入れたりする。 ・気持ちと行動を分けて考える。 ・自分の気持ちを文字にして表現することで、ほかの生徒にも本人にも振り返りやすくする。
評価				

【1学期】					【理解】道徳的価値の理解	【見方】多面的・多角的な見方	【自己】自分自身との関り
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等		
1 集団や社会に関すること (0.9時間) 「交通安全」	(1) 交通ルールについて覚える。 (2) 交通ルールに関するクイズに考えて、答える。 (3) 交通安全教室や普段の生活に生かす。 内容 交通安全ルール(交通安全教室前学習)	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					
2 人との関わりに関すること 自分自身に関する こと (時間) 「現場実習に向けて (挑戦・感謝)」	(1) 社会人としてのあいさつやマナーやルール、振る舞いがわかる。 (2) 実習先への感謝の気持ちをもつ。 (3) 現場実習に前向きに挑戦しようとする気持ちをもつ。 内容 実習事前学習、頑張ろう会・報告会の話、事前事後学習、お礼状、マナーやルール	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					

3 集団や社会に関する こと (時間) 「公共のマナーや ルール」	(1) 社会人としてのあいさつやマナーや振る舞いがわかる。 (2) マナーやルールの振る舞いをロールプレイの中で、自ら行う。 (3) 宿泊学習や普段の生活で学んだことを生かそうとする。 内容 宿泊学習事前学習	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					
4 自分自身に関する こと 人とのかわりに 関すること (時間) 「宿泊学習に向けて (協力・責任)」	(1) 郷土の自然や文化に興味をもち、大切にす気持ちをもつ。 (2) 仲間や協力、責任といった言葉の意味を考える。 (3) 宿泊学習を成功させるために、仲間と協力したり、自分の係に責任をもって取り組んだりする。 内容 仲間との協力、責任、宿泊学習事前学習	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					
5 人とのかわりに 関すること (時間) 「いじめを防ぐ (友情・信頼・相互理解・寛容)」	(1) いじめについて考え、人をいじめるという行動は絶対にしてはいけないことを理解する。 (2) いじめ(やっではないことを)を考える。 (3) いじめをすることなく生活しようとする。 内容 いじめを防ぐ	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					
6 自分自身に関する こと 集団や社会との かわりに関すること (時間) 「夏休みに向けて (態度・節制、家庭生活、遵守精神)」	(1) わかば支援学校の生徒としての適切な夏休みの過ごし方がわかる。 (2) なりたい自分になるために、どのように夏休みを過ごすべいか考える。 (3) 夏休みの目標を実践しようとする。 内容 1学期の振り返り、夏休みの過ごし方、学年集会	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					

【2、3学期】					特別の教科 道徳	△△ △△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等	
1 自分自身に関する こと 人との関わりに関する こと 集団や社会との関 わりに関する こと (時間) 「現場実習に向けて」	(1) 社会人としてのあいさつやマナー、ルールがわかり、時と場に応じた適切な行動や言動をとる。 (2) 自分の良さや課題に気づいたり、友達の良いところに気づいて伝えたりする。 (3) 目標に向けて努力しようとして、将来の生活についての考えを深めたりする。 内容 ・実習事前事後学習、頑張ろう会報告会、お礼状の作成など	【理解】	社会人としてふさわしい振る舞いがわかり、適切な行動や言動を理解している。			
		【見方】	自分の良さや課題に気づいたり、友達の良いところに気づいたりして自分なりの方法で伝えている。			
		【自己】	目標に向けて努力したり、将来の生活について具体的に考えたりしている。			
2 人との関わり に関する こと (時間) 「友達との関わり」	(1) 自分がされて嫌なことや、友達にしてはいけないことを知ったり考えたりする。 (2) 友達からの関わりを受け入れたり、友達と適切に関わったりする。 (3) 友達を大切にしながら生活する。 内容 ・適切な関わり方を知ろう、異性との関わり方など	【理解】	自分がされて嫌なことや友達にしてはいけないことを考え、理解している。			
		【見方】	友達からの関わりを受け入れたり、友達と適切に関わったりしている。			
		【自己】	友達や自分を大切にしながら生活している。			
3 人との関わり に関する こと 集団や社会との関 わりに関する こと 生命や自然、崇高な ものとの関わり に関する こと (時間) 「様々な国について」	(1) 世界には様々な国があり、情勢や文化について知る。 (2) 様々な人がいる世界や社会で、平和に暮らすために必要なことを考える。 (3) 世界の情勢に関心をもち、自分の意見をもつ。 内容 ・英和高校との交流、世界の情勢について知ろうなど	【理解】	世界の様々な国や情勢、文化について調べて理解している。			
		【見方】	様々な人がいる世界や社会で、平和に暮らすために必要なことを考えている。			
		【自己】	世界の情勢に関心をもち、自分の意見をもっている。			
4 集団や社会との 関わりに関する こと (時間) 「冬休みに向けて」	(1) 2学期を振り返ったり、冬休みの過ごし方について知ったりする。 (2) 将来の生活にむけた冬休みの過ごし方を考える。 (3) 2学期の目標を振り返ったり、冬休みの目標を考えたりする。 内容 ・2学期の振り返り、冬休みの過ごし方、学年集会など	【理解】	2学期の学習を振り返ったり、適切な冬休みの過ごし方を理解したりしている。			
		【見方】	将来の生活にむけた高校生らしい冬休みの過ごし方を考えている。			
		【自己】	2学期の学習を振り返ったり、適切な冬休みの過ごし方を理解したりしている。学期の目標を振り返ったり、冬休みの目標を考えたりしている。			
5 自分自身に関する こと 人との関わりに関する こと (時間) 「3年生に向けて」	(1) 3年生への感謝の気持ちやお祝いの気持ちをもつ。 (2) 感謝やお祝いの気持ちを自分の言葉で表現しようとする。 (3) 進級して最高学年になることがわかり、3年生としての意識をもつ。 内容 ・3年生を送る会、卒業式送辞、1年間の振り返りなど	【理解】	3年生の感謝の気持ちやお祝いの気持ちをもっている。			
		【見方】	感謝やお祝いの気持ちを、自分の言葉で表現している。			
		【自己】	進級して最高学年になることがわかり、3年生として意識をもとうとしている。			

年間指導目標	(1) 道徳的な事柄への価値を理解し、道徳的な判断力や態度などを身につける。 (2) ルールやマナー、人とのかわり、命の大切さなどの道徳的な事柄について考えを深める。 (3) 道徳性を養い、普段の生活の中で学んだことを実践しようとする。	学校	教科等における 合理的配慮	・視覚的にわかりやすく提示したり、ロールプレイングを取り入れたりして、理解しやすいように取り組む。 ・気持ちと行動を分けて考えさせる。 ・思いは見えないけれど、行動は見えることを伝える。
評 価				

【1学期】					【理解】道徳的価値の理解	【見方】多面的・多角的な見方	【自己】自分自身との関り
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等			
1 集団や社会に関すること (0.9時間) 「交通安全」	(1) 交通ルールについて覚える。 (2) 交通ルールに関するクイズに考えて、答える。 (3) 交通安全教室や普段の生活に生かす。 内容 交通ルール(交通安全教室事前学習)	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					
2 人との関わりに関すること 自分自身に関すること (時間) 「現場実習に向けて(挑戦・感謝)」	(1) 社会人としてのあいさつやマナーやルール、振る舞いがわかる。 (2) 実習先への感謝の気持ちをもち。 (3) 現場実習に前向きに挑戦しようとする気持ちをもつ。 内容 実習事前学習、頑張ろう会・報告会の話、事前事後学習、お礼状、マナーやルール	【理解】					
		【見方】					
		【自己】					

3 集団や社会に関すること (時間) 「公共のマナーやルール」	(1) 社会人としてのあいさつやマナールールや振る舞いがわかる。 (2) マナーやルールの振る舞いをロールプレイの中で、自ら行う。 (3) 宿泊学習や普段の生活で学んだことを生かそうとする。 内容 宿泊学習事前学習	【理解】			
		【見方】			
		【自己】			
4 自分自身に関すること 人とのかわりに関すること (時間) 「宿泊学習に向けて(協力・責任)」	(1) 郷土の自然や文化に興味をもち、大切にする気持ちをもつ。 (2) 仲間や協力、責任といった言葉の意味を考える。 (3) 宿泊学習を成功させるために、仲間と協力したり、自分の係に責任をもって取り組んだりする。 内容 仲間との協力、責任、宿泊学習事前学習	【理解】			
		【見方】			
		【自己】			
5 人とのかわりに関すること (時間) 「いじめを防ぐ(友情・信頼・相互理解・寛容)」	(1) いじめについて考え、人をいじめるという行動は絶対にしてはいけないことを理解する。 (2) いじめ(やっではいけないこと)を考える。 (3) いじめをすることなく生活しようとする。 内容 いじめを防ぐ	【理解】			
		【見方】			
		【自己】			
6 自分自身に関すること 集団や社会とのかわりに関すること (時間) 「夏休みに向けて(節度・節制、家庭生活、遵守精神)」	(1) わかば支援学校の生徒としての適切な夏休みの過ごし方がわかる。 (2) なりたい自分になるために、どのように夏休みを過ごすべきか考える。 (3) 夏休みの目標を実践しようとする。 内容 1学期の振り返り、夏休みの過ごし方、学年集会	【理解】			
		【見方】			
		【自己】			

【2、3学期】					特別の教科 道徳	△△ △△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等		
1 人とのかわりに関すること (時間) 「現場実習に向けて」	(1) 社会人としてのルールや振る舞いを覚える。 (2) 実習先への感謝の気持ちを持ってお礼状を書く。 (3) 現場実習に前向きに挑戦する。 内容 ・実習事前、頑張ろう会・報告会、実習事後学習、お礼状、マナーやルール	【理解】	社会人としてのマナーやルールを理解する。			
		【見方】	感謝の気持ちをとお礼状で伝える。			
		【自己】	現場実習へ向けて前向きに取り組んでいる。			
2 人とのかわりに関すること。 (時間) 「友達とのかわり・相手の気持ちを考える」	(1) 友達からの関りを受け入れたり、友達に自分から関わったりする。 (2) されて嫌なこと、してはいけないことを選択肢で選ぶ。 (3) 友達と仲良く関わる。 内容 ・友達とのかわり・相手の気持ちを考える(友情、思いやり、本当の優しさ)	【理解】	友達からされて嫌なこと、してはいけないことを理解する。			
		【見方】	友達からの関りを受け入れたり、自分から関わったりする。			
		【自己】	友達となかよく生活しようとしている。			
3 集団や社会との関わりに関すること。 (時間) 「異文化理解(国際理解・相互理解)」	(1) 様々な国の文化を体験する。 (2) 自分と異なることや文化に気づき、選択肢などで選んで答えようとしている。 (3) 仲良く過ごすことが大切ということがわかる。 内容 ・異文化理解(英和高校との交流も踏まえながら行う「ツバメ」ダンス)	【理解】	様々な国の文化を体験し理解する。			
		【見方】	異なる文化や自分と違うことに気づき、自分の意見を持っている。			
		【自己】	様々な国の文化に興味関心を持つ。			
4 集団や社会との関わりに関すること。 (時間) 「冬休みに向けて」	(1) 望ましい冬休みの生活(生活リズム・家のこと・友達との関係)についてわかる。 (2) なりたい自分になるために、どのように冬休みを過ごせばよいか考え、選択肢を選ぶ。 (3) 冬休みの目標を実践しようとしている。 内容 ・2学期の振り返り、冬休みの過ごし方、学年集会	【理解】	冬休みの生活を考え、適切な過ごし方がわかる。			
		【見方】	冬休みの目標を決めて、実践する。			
		【自己】	なりたい自分になるための、冬休みの過ごし方を考えようとする。			
5 自分自身に関すること。 (時間) 「正直に生きる、自分の気持ちと向き合う」	(1) 自分の気持ちを伝える手段を増やす。 (2) 自分の気持ちを適した表現で表す。 (3) 学んだことを普段の生活に生かそうとしている。 内容 ・正直・誠実・素直・公正(弁護士出前授業や高等部役員選挙の中でも取り扱う)	【理解】	いろいろな気持ちを伝える手段があることを知る。			
		【見方】	適した表現で気持ちを表そうとする。			
		【自己】	普段の生活に、学んだことを生かそうとしている。			
6 人としての関わりに関すること。 (時間) 「3年生に向けて」	(1) 3年生への気持ちを選択肢など使いながら、他者に伝える。 (2) やりたいことを自分で決めて自分で選ぶ。 (3) 4月から3年生、最上級生になるという意識をもつ。 内容 ・1年間の学習の振り返り ・3年生を送る会、卒業式に向けて、作業報告会	【理解】	3年生への気持ちを自分なりに伝えようとする。			
		【見方】	やりたいことを自分で選んでいる。			
		【自己】	3年生になる意欲と自覚を持とうとしている。			

3 学年グループの事例

令和6年度 美術 指導計画及び評価 0 年 0 組 生徒氏名 ○○ ○○ 教科担当 △△ △△

年間指導目標	(1)材料や用具の特性の生かし工夫するなどして自分の表現方法を見つけ出す。 (2)考えたことや感じ取ったことをもとに、卒送したり、構想を練ったりする。 (3)表現する楽しさや喜びを味わい、創造的な表現や鑑賞に主体的に取り組む。	高等部 1段階	教科等における 合理的配慮	・見本や実際の手順を見せるなど、活動に対して具体的なイメージをもって取り組めるようにする。 ・友達の作品を見て、良いところを参考にしたり真似したりして自分の作品に生かすことができるようにする。
評 価				

【1 学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等
1 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
2 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			
3 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】			
		【思・判・表】			
		【主体】			

【2、3 学期】					美 術	△△ △△
単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価		次の段階に進むための指導等	
1 (時間) 「重ねて作るスクラッチ付きボックスアート」	(1)山梨の伝統工芸品である印伝について知る。 (2)削って直線や曲線などで絵や文字を描き完成させる。 (3) 内容 ・気に入った印伝模様を選び、スクラッチアートする。	【知・技】	スクラッチ技法を理解する。			
		【思・判・表】	気に入った印伝模様を選び、スクラッチする。 ひっかいたり、削ったりして印伝模様を描画表現する。			
		【主体】	スクラッチ技法で絵や文字を描くことに意欲的に取り組む。			
2 (時間) 「宝箱プティボックス」	(1)デコパージュのやり方を知る。 (2)自分のイメージした完成を目指して試行錯誤しながら取り組む。 (3) 内容 ・ペーパーナフキンやシール、マスキングテープなどを用いて箱にデコパージュする。	【知・技】	デコパージュの手順を知る。			
		【思・判・表】	決められた模様から好きなものを選び、デザインする。			
		【主体】	壁に飾って使うことへ期待感をもち、前向きに取り組む。			
3 (時間) 「レリーフ銅板づくり (ドアプレート)」	(1)制作方法を理解して手順に沿って作る。 (2)自分の好きな物事や文字を参考にして独自のデザインを考える。 (3)より良いデザインを目指して修正したり整えたりする。 内容 ・銅板にヘラや、ボールペンの先などで彫金し、ドアプレートを製作する。 ・自分の名前を入れ、部屋に飾るイメージをもってデザインする。	【知・技】	用具、道具の特性と生かし方がわかり、適切に使っている。			
		【思・判・表】	伝えたり使ったりするための心地よい文字デザインと模様を考えている。			
		【主体】	飾ることを予想して、デザイン案を練っている。			
4 (時間) 「寄せ木アート (ベン立て)」	(1)色や長さが違う寄せ木を組み合わせてベン立てを作る。 (2)形状やデザインを考える。 (3)自分の気に入った形や手触りになるように整える。 内容 ・色や長さが違う寄せ木を組み合わせてベン立てを作る。	【知・技】	模様付けの技術を生かす。			
		【思・判・表】	表現したいことを、デザインして、形にする。			
		【主体】	飾って使うことへ期待感をもち、前向きに取り組む。			
5 (時間) 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】				
		【思・判・表】				
		【主体】				

年間指導目標	(1)外国語を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなど、実際のコミュニケーションで活用できる基礎的な力を身につける(知識及び技能) (2)身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力等) (3)他者を意識しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	高等部 段階	教科等における 合理的配慮	・まずは英語を話すことが楽しいと感じられるように、間違っても良いと思えるような声掛けや雰囲気づくりを心がける。
評価				

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 道案内をしよう (3時間) 「J」	(1)場面に応じた英語表現を知り、質問相手に伝える。(知) (2)簡単な質問に対して、道路や場面などを考えて答える。(思) (3)表現がわからない時に、自分が知っている言葉を使って相手に伝える。(主) 内容 ・Where is～の質問に対して“near” “straight” “left”などの言葉を使って、場所を表現する。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	場所に関する質問に対して、英語で道路を説明する。 ○ 簡単な質問に対して、道路や場所などを考え、答える。 ○ 学習した表現方法を用いて、相手に積極的に伝えようとする。 ○	・道順を表す基本的な表現(Go straight, turn right, turn left)について理解し、質問に対して答えることができていた。
2 ALTとのコミュニケーション (1時間) 「J」	(1)使用する単語の正しい発音を知り、真似して話す。 (2)「What ～ do you like?」の表現を用いて、相手に聞きたいことを考え、質問したり答えたりする。(思) (3)進んでALTとコミュニケーションをとろうとする。(主) 内容 ・「What ～ do you like?」の表現を用いてのALTとの会話。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	使用する単語の正しい発音を知り、真似して話す。 ○ 「What ～ do you like?」の表現を用いて、相手に聞きたいことを考え、質問したり答えたりする。 ○ 進んでALTとコミュニケーションをとろうとする。 ○	・ALTとのやり取りで、積極的に筆手をし、自己紹介をしたり質問をしたり、質問に答えたりすることができていた。
3 世界の国々 (3時間) 「J」	(1)様々な国名や、その国の文化の、英語での言い方を知る。(知) (2)簡単な語句や表現を聞き、国旗やイラストなどと結び付ける。(思) (3)様々な国に興味をもち、自分から調べようとする。(主) 内容 ・国名の英語での言い方、食べ物など、その国の文化について調べる。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	授業で扱った国旗を見て、国名を答える。 ○ 簡単な語句や表現を聞き、国旗やイラストなどと結びつける。 ○ 学習した英単語での表現方法を用いて、積極的に伝えようとする。 ○	・積極的に世界の国々に関する質問を考えたり、友だちのクイズに答えたりしていた。授業で扱った世界の国々の国旗は、おおまかに理解することができていた。

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 夏休みの話をしよう(コミュニケーションを広げよう) (1時間) 「J」	(1)自分の経験を、英語を使って話す。(知) (2)夏休みの出来事を思い出し、過去形にして表現する。(思) (3)聞き手が聞き取りやすいように発表しようとする。(主) 内容 ・“was” “went” “ate” “enjoyed”などを用いながら、自分の思い出を過去形で表現する。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	過去形を使って、自分の経験を伝える。 ○ 夏休みの出来事を思い出し、経験を表現する。 ○ 主体的に英語を用いて、相手に経験を伝えようとしている。 ○	・自分が分からない単語はタブレットで調べ、自分で集めた花火の写真友達に分かりやすいように提示しながら、思い出を発表することができていた。例を参考にしながら、過去形を使用した文を作ることもできていた。
2 場面による会話を知ろう (1時間) 「J」	(1)自分が欲しいものや食べたい物を、英語で伝える。(知) (2)やりとりの場面で、簡単な質問に答える。(思) (3)表現がわからないときに、自分が知っている言葉を使って相手に伝える。(主) 内容 ・店でのやりとりを想定した場面で、How much～の質問をして、店員に物の値段を聞く。 ・レストランでのやりとりを想定した場面で、What would you like?の質問に対して、自分が欲しいものを答える。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	買い物や食事など、場面に応じた表現方法を知り、伝える。 ○ 自分の要求を伝えたり、簡単な質問に答えたりする。 ○ 学習した表現方法の他、自分が知っている表現も用いて、相手に積極的に伝えようとしている。 ○	
3 自分の夢を伝えよう(コミュニケーションを広げよう) (2時間) 「J」	(1)自分の考えを、英語を使って話す。(知) (2)「○○したい」という自分の気持ちを、英語で表現する。(思) (3)聞き手が聞き取りやすいように発表しようとする。(主) 内容 ・将来の自分について、I want to～を用いて自分の気持ちを表現する。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	自分の考えを、I want to～を用いてプリントやタブレットで表記する。 ○ 「○○したい」という自分の気持ちをまとめ、英語を使って相手の伝える。 ○ 聞き手が聞き取りやすいように、発表しようとしている。 ○	
4 学校生活の思い出を伝え合おう(コミュニケーションを広げよう) (2時間) 「J」	(1)自分の経験を、英語を使って話す。(知) (2)学校生活の出来事を思い出し、自分の考えや気持ちを過去形にして表現する。(思) (3)聞き手が聞き取りやすいように発表しようとする。(主) 内容 ・高等部の思い出について、My best memory is～を用いて表現する。 ・“went” “saw” “enjoyed”などを用いて、自分の経験を表現する。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	自分の経験を、My best memory is～を用いてプリントやタブレットで表記する。 ○ 学校生活の出来事を思い出し、自分の考えや気持ちを過去形を使って相手に伝える。 ○ 聞き手が聞き取りやすいように、発表しようとしている。 ○	
5 (1時間) 「J」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】		

年間指導目標	(1) 日常生活に必要な生活習慣を身につけることができる。 (2) 健康に過ごすためにどのように行動すればよいのか判断することができる。 (3) 他者の気持ちを考える活動に主体的に取り組むことができる。	自立活動 保健(中学部 2段階)国語 (中学部1段 階)	教科等に おける 合理的配慮	・見通しをもって取り組めるように、予め活動内容や任せられた役割について話し合う。 ・人前で発表する、人前で写真を撮るなどの活動に対する苦手意識が軽減するように、活動内容を絞ったり、本人に予め説明したりする。
評 価				

【1学期】 全(時間)

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 集団への参加の基礎に関すること「自立活動」	(1) 集団で活動する場において、人前に出て自分の意見を発表することができる。 (2) 集団で活動する場において、みんなと写真に写ることができる。 内容 ・ 集団における対人関係		修学旅行中に保健係として、健康観察の呼びかけをみんなの前で行う場面では、教員の支援を受けながら声を出すことができた。今後も引き続き、事前の活動内容の説明と練習を実施する必要がある。 みんなとの写真撮影の場面では、備いて自分の顔が写らない状態で参加することができた。写真という記録を残す必要性や他者の気持ちを考えることを今後も説明する必要がある。	・ 友達と一緒に発表するなど、本人の希望を聞きながら、今後も発表の場を経験させることが、人前に出るという抵抗感を減らすのではないかな。 ・ 写真撮影の際に、撮影者の横で好きな芸能人の写真を見せるなど、楽しく取り組める工夫があると良いのではないかな。
2 健康安全に生活するために必要な基本的技能「保健」	(1) 月経に伴うナプキンの処理を適切に行うことができる。 (2) 掃除後やトイレの後に手洗いを適切に行うことができる。 (3) 怪我をしないように、自分の体を大切にすることができる。 内容 ・ 健康	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	手を洗う手順を理解している。 傷者の防止のために、どのように行動すれば良いか考えている。 月経に伴うナプキンの処理を自分で行おうとしている。	○ ○ ○ ・ 何か不安を感じることがあると目や爪、擦り傷を気にしてこすることがある。体を大切にすることの必要性を理解することが必要である。 ・ トイレに教員も入り、安心した状態で励ましの声かけや援助を行いながら、自分だけで行えるように指導する。
3	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	 	

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1 集団への参加の基礎に関すること「自立活動」	(1) 集団で活動する場において、人前に出て、支援を受けながら自分の意見を発表することができる。 (2) 集団で活動する場における写真撮影とは、友達にとって大切な思い出を残すという側面があることを理解することができる。 内容 ・ 集団における対人関係			
2 健康安全に生活するために必要な基本的技能「保健」	(1) 月経に伴うナプキンの処理を適切に行うことができる。 (2) 掃除後やトイレの後に手洗いを適切に行うことができる。 (3) 怪我をしないように、自分の体を大切にすることができる。 内容 ・ 健康	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	手を洗う手順を理解している。 傷者の防止のために、どのように行動すれば良いか考えている。 月経に伴うナプキンの処理を自分で行おうとしている。	
3 社会生活に必要な言語感覚「国語」	(1) 日常よく使われる敬語を理解し使うことができる。 (2) 場面や相手に応じて、適切な言葉遣いができる。 (3) 内容 ・ 社会生活における言葉遣い	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	基本的な敬語を理解している。 場面や相手に応じて、どのような言葉遣いをすれば良いか考えている。 相手と良好な関係を築こうとしている。	
4 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	 	
5 「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	 	

年間指導目標	(1)日常生活や社会生活に必要な知識や技能を身に付け、生活の中で生かすことができる。 (2)他者の意見や助言を受け入れ、より良いコミュニケーションの方法を身に付けることができる。 (3)自分の役割や課題に対して、主体的に取り組むことができる。	自立活動 職業（高等部1段階） 家庭（高等部1段階）	教科等における合理的配慮	・対人関係でトラブルがあった際には、視覚的に理解しやすいように図に表して話を整理することで、その後の対応を考えることができるように支援する。
評価				

【1学期】 全（時間）

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	次の段階に進むための指導等
1【自立活動：心理的な安定】 「状況の理解と変化への対応」	(1)困ったことに直面したときに、気持ちを落ち着かせたり、他者に援助を求めたりする方法を段階的に身に付けることができる。 (2)高等部卒業後に企業等に就労することを見据え、伝えたいことを整理して、必要な連絡・報告を行うことができる。 内容 ・気持ちが不安定になったときの適切な対処の仕方 ・いつ、どこで、どうしたいかなどを意識した伝え方			できるようにしている場面は増えてきているが、本人のその時の心理状態に左右されることも多いため、継続的な指導が必要である。
2【職業：職業生活】 「卒業後に必要な知識・技能」	(1)登下校時や清掃中、委員会などの場面で相手や状況に応じた挨拶や言葉遣いができる。 (2)将来の職業生活を見据えて、翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保などについて考え、日頃から健康管理を心掛けることができる。 (3)挨拶や言葉遣い、清掃の仕方など、学習を通して習得した知識や技能を日常生活で活用しようすることができる。 内容 ・生活、健康、生活の見通し、対人関係、掃除、朝の会、帰りの会、係活動など	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	相手や状況に応じた言葉遣いでコミュニケーションをとっている。 翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保について考え、実践している。 登校時や下校時に、教師や友達に率先して挨拶をしようとしている。	教師に対して友達と話をするときと同じような言葉遣いで話す場面が多く見られた。その態度、声を掛けていく必要がある。挨拶については、本人のその時の心理状態に左右されることが多く、特定の人のに対して挨拶をしようとしなくてもある。誰に対しても分け隔てなく挨拶できると良い。
3	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】		

【2、3学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	日常生活の指導	△△ △△	次の段階に進むための指導等
1【自立活動：心理的な安定】 「状況の理解と変化への対応」	(1)困ったことに直面したときに、気持ちを落ち着かせたり、他者に援助を求めたりする方法を段階的に身に付けることができる。 (2)高等部卒業後に企業等に就労することを見据え、伝えたいことを整理して、必要な連絡・報告を行うことができる。 内容 ・気持ちが不安定になったときの適切な対処の仕方 ・いつ、どこで、どうしたいかなどを意識した伝え方					
2【職業：職業生活】 「卒業後に必要な知識・技能」	(1)登下校時や清掃中、委員会などの場面で相手や状況に応じた挨拶や言葉遣いができる。 (2)将来の職業生活を見据えて、福祉サービスの利用などによる休日の過ごし方について考え、自分の考えを他者に伝えることができる。 (3)挨拶や言葉遣い、清掃の仕方など、学習を通して習得した知識や技能を日常生活で活用しようすることができる。 内容 ・生活、健康、生活の見通し、対人関係、掃除、朝の会、帰りの会、係活動など	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	相手や状況に応じた言葉遣いでコミュニケーションをとっている。 半日授業時の放課後ディサービスの利用について考え、自分の考えを教師に伝えている。 登校時や下校時に、教師や友達に率先して挨拶をしようとしている。			
3【家庭：衣食住の生活】 「卒業後に必要な知識・技能」	(1)衣服を清潔に保つための洗濯の仕方について理解することができる。 (2)衣服を清潔に保つための選別の仕方について理解し、日常生活で工夫して実践することができる。 (3)よりよい生活の実現に向けて、学習を通して習得した知識や技能を日常生活で活用しようすることができる。 内容 ・生活、健康、生活の見通し、対人関係、掃除、朝の会、帰りの会、係活動など	【知・技】 【思・判・表】 【主体】	校内着を清潔に保つための洗濯の仕方について理解している。 校内着を清潔に保つために、家庭で洗濯の仕方を工夫している。 校内着を清潔に保つために、学習した事例を家庭で実践しようとしている。			
4「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】				
5「 」	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】 【思・判・表】 【主体】				

まとめ

令和6年度 各教科 指導計画及び評価 高等部

①年間指導目標	・(1)(2)(3)は、(知識・技能) (思考、判断、表現) と具体的に記載したほうが誰が見てもわかるのではないかな。	部 段階	③配慮すべき 特性等	・「教科等における合理的配慮」には何を書くのか。 ・合理的配慮は、個別の教育支援計画から記載した。
②評 価				

【1学期】

④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価(規準・基準)	⑦成果と課題等
・年間指導計画は、9マス整理を参考にして作成した。 ・教科の免許をもっている先生が少ない教科は、特に作成が難しい。 ・段階の設定が難しい。単元によって違う部分もあるため、単元ごとに記載してはどうか。 ・計画を立てたが実施できなかった場合はどうするか。 ・進路を職業生活、情報機器の活用、産業現場等における実習等に分けてはどうか。	・1年生は、年度初めに計画を立てることが難しいのではないかな。 ・計画を立てるためには、CTやST同士で話し合う時間が必要になる。 ・学習指導要領のどの段階を扱うかが難しい。 ・実態別に分けていながら、取り扱う段階が同じでもよいのか。 ・高等部にしかない教科は、選ぶ段階も高等部1段階しかないのか。 ・日々の計画の中で、立てていければ良いのではないかなと思う。 ・他校では、年度途中で変わってきたところは書き加えている。 ・他校では、実態の高い生徒のみが外国語を学んでいる事例もある。 ・わかばでは、外国語を教科として学ぶのは高等部に入ってからである。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】	・学習に入る前に具体的な評価規準(評価項目)を設定しておくことは大切である。 ・実態把握ができていない中で、評価規準(評価項目)を設定することが難しい。 ・年度当初に計画し、学期の途中で見直したり、修正したりしてもよいのか。 ・生徒が頑張ったところを評価したい時にはどのようにしたらよいかな。 ・はじめから通信表との語尾を統一したほうが良いと思う。 ・どの単元も3観点の評価規準を設定することの難しさを感じた。 ・同じグループでも実態差が大きい場合は、複数の評価規準が必要だと思う。 ・～たり、～たりのような評価規準では、片方が◎だけ、もう片方が○ということもある。 ・特に1グループの生徒の評価の書き方が難しい。 ・主体的に学習に取り組む態度の評価規準の書き方が難しい。 ・グループごとに授業をしているため、本当に個々に向けた評価になるのか疑問である。 ・外国語の5グループの授業や評価は、中学校に近いと感じている。 ・外国語の1グループの評価が特に難しい。国語のような評価になってしまう。 ・外国語に「興味をもちながら」等をどう評価すればよいのか。 ・ALTについての評価を入れるのは難しい。 ・評価規準を学部として蓄積していけると良い。	◎○△ ・「次の段階に進むための指導等」には何を書くのか。 ・次の段階に進むための指導等ではなく、指導に関する記録や成果と課題のほうが良い。

⑧その他については裏面に記載
※書式そのもの(もしくは一部)を変えた場合は、変更した書式で記載

令和6年度 特別活動 指導計画及び評価 高等部Ⅰ学年グループ

①年間指導目標	・年間目標は3観点で書くのか。評価規準を3観点で書いてあれば良いと思う。	学校 段階	③配慮すべき 特性等	
②評 価				

【1学期】

④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価(規準・基準)	⑦成果と課題等
・特別活動の全体計画を参考に記載した。		【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】	・学校行事については、評価規準を各行事ごとに3観点で記入するように工夫した。 ・評価規準の妥当性を考え、学習指導要領の段階を参考にしていくべきだと思う。 ・本来はこのように、計画の段階で具体的な評価規準を立てることが評価の妥当性になる。 ・評価を細かくしていくと、負担が増えるのではないかなと思う。 ・生徒の実態によってはずっと△のままの場合もあり、意欲の低下になると思う。 ・生徒の実態によって評価の難しさはやはりある。 ・評価規準を学部として蓄積していけると良い。	◎○△

⑧その他については裏面に記載
※書式そのもの(もしくは一部)を変えた場合は、変更した書式で記載

①年間指導目標	・年間指導目標も【理解】【自己】【見方】から書くのか。	学校	③配慮すべき特性等	
②評価		段階		

【1学期】

④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価(規準・基準)	⑦成果と課題等
・時間の指導における内容を記載していけばよいのか。 ・単元名の書き方が難しい。	・【理解】【自己】【見方】という部分が非常にわかりづらいと感じた。 ・全単元で3つの観点から目標を考えていくことは負担に感じる。 ・学習指導要領に【理解】【自己】【見方】と観点が明確に示されていないため難しい。 ・1グループの生徒の授業づくりが難しい。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】	・【理解】【自己】【見方】という部分が非常にわかりづらいと感じた。 ・全単元で3つの観点から評価を考えていくことは負担に感じる。 ・他諸帳簿との関連を踏まえると、評価を3観点到けたいほうがよいと思う。 ・学習指導要領に【理解】【自己】【見方】と観点が明確に示されていないため難しい。 ・1グループの生徒の評価が難しい。 ・3つの観点で分けていても、どの観点も同じような文言になってしまうのではないかな。	◎ △

⑧その他については裏面に記載

※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載

①年間指導目標	・年間指導目標も3 観点で書く必要があるのか分からない。 ・合わせる教科・領域を決めてほしい。 ・合わせる教科・領域が決まっていると生徒によっては当てはまらない生徒もいると思う。 ・学部系統性を考えると自立活動、職業科、家庭科が基本になってくると思う。	学校	③配慮すべき特性等	
②評価		段階		

【1学期】

④単元名	⑤指導計画(目標及び内容)	観点	⑥評価(規準・基準)	⑦成果と課題等
・このような様式の実践例がほとんどないため、作成に時間がかかる。 ・朝の会や帰りの会の時間の指導と、給食の時間の指導は別に書くべきなのか。	・実態が高い生徒もキャリア意識の観点から指導計画を作成することができた。 ・実態が高い生徒は、家庭との連携も必要で、その評価をどのようにするかが難しかった。 ・実態が低い生徒は、小学部の生活科の内容が当てはまりやすかった。 ・実態が低い生徒は、生活年齢を踏まえて、学習指導要領のどの段階を設定するか難しい。	【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】 【知・技】 【思・判・表】 【主体】	・日々の朝の会や帰りの会、給食の指導についてねらいを共有することは良い機会だった。 ・評価も大事だが、その生徒にとってどんな手立てが有効だったのかを知りたい。 ・敬語だからと言って安易に「国語」となるわけではなく、教科の正しい理解が必要だった。	◎ △

⑧その他については裏面に記載

※書式そのもの（もしくは一部）を変えた場合は、変更した書式で記載

⑧その他

- ・書式を全学部で揃えることには賛成である。
- ・成績処理に関する各諸帳簿の相互性が今より高まることは良い。
- ・慣れるまで大変だが、やってみてはどうか。
- ・各教科の年間指導計画や指導要録の扱いはどうなるのか。
- ・新様式は整理がしやすく、指導のイメージがしやすいと感じる。
- ・年間指導計画が新様式と対応していない部分があるため、修正してほしい。
- ・何年か経過したり、9マス整理と合わせて取り組んだりすることで作成しやすくなると思う。
- ・個別の指導計画を提出する時期、その提出方法、修正の仕方などを示してほしい。
- ・生徒の様子を伝えるツールとしてどのようにしていったらよいか考えることが大切だと思う。
- ・個人フォルダーか、項目ごとのフォルダーか、どちらにもメリットやデメリットがある。
- ・他県では、通信表と一緒に個別の指導計画を保護者に見せているところもある。

② 様式案

令和 年度 国 語 指導計画及び評価 0 年 0 組 生徒氏名 ○○ ○○ 教科担当 △△ △△

年間指導目標	(1) (知識及び技能) (2) (思考力、判断力、表現力等) (3) (学びに向かう力、人間性等)	各教科の年間指導計画をもとに指導目標を記載する。	部 段階	教科等における 合理的配慮	個別の教育支援計画B票の内、教科に関する内容を記載する。
評 価		年間を通した評価を記載する。			

【1学期】

単元名	指導計画(目標及び内容)	観点	評価	指導の成果と課題
1【学習指導要領 における内容】 「単元名」 (単元指導時数時間)	(1) (知識及び技能) (2) (思考力、判断力、表現力等) (3) (学びに向かう力、人間性等) 内容 ・単元における指導内容を簡潔に記載する。	【知・技】	文末は～している。を基本とする。	指導の成果と課題を簡潔に記載する。
		【思・判・表】	文末は～している。を基本とする。	
		【主体】	文末は～しようとしている。を基本とする。	
2【 】 「 」 (時間)	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】	各教科の年間指導計画をもとに観点別の評価規準を記載する。 通知表にそのまま生かすために、生徒や保護者にとってわかりやすい簡潔な表現にする。	
		【思・判・表】		
		【主体】		
3【 】 「 」 (時間)	(1) (2) (3) 内容 ・	【知・技】		
		【思・判・表】		
		【主体】		

評価基準を◎、○、△で記載する。

他諸帳簿との相互性を高めるために、年間指導目標と指導計画の目標を記入する欄の(1)(2)(3)の後に、(知識及び技能)(思考力、判断力、表現力等)(学びに向かう力、人間性等)という言葉を追記した。また、同様の理由で「次の段階に進むための指導等」という欄を「指導の成果と課題」という言葉に変更をした。実際の運用にあたっては、個別の指導計画を作成や検討をする時期、記入する際の教師間の分担、他諸帳簿の修正方法などについて改めて確認をしていく必要がある。

領域等の個別の指導計画については、研究グループごとに担当を決めて事例検討を行ったため、それぞれのグループで出た意見を学部全体でさらに検討していくまでの時間が無かった。そのため、各教科のような様式案は作成していない。今後も、領域等の個別の指導計画を作成する際には学部全体で記入方法を確認していく必要がある。

○まとめ（成果と課題）

- ・成績処理に関わる各諸帳簿の相互性を高めることで、個別の指導計画を基本とした成績処理を行うことができるのではないかと。

現様式と新様式の個別の指導計画を比較し、課題を整理することで各諸帳簿の相互性を高めることができた。一方で、今年度のグループ研究は、通信表や指導要録を作成する前の期間で事例検討を行ったため、実際に個別の指導計画を基本とした成績処理を行うことができたかについては検証することができなかった。また、新様式の個別の指導計画の方が旧様式に比べて、年間を通した評価が行いやすいかについても現時点でまとめる段階ではない。

個別の指導計画を作成する際には、丁寧な生徒の実態把握をもとに、適切な目標設定や具体的な評価規準を設定することが求められる。しかし、個別の指導計画の作成について教師間で意見交換した際に、「年度初めの実態把握が不十分な中で具体的な計画を立てることが難しい」「高等部で初めて指導する教科の場合は、具体的な学習活動に応じた評価規準を設定することが特に難しい」と答えた教師が多くいた。教師の指導の経験や専門性があると個別の指導計画を作成する際の負担を軽減できると思われるため、学部としてどのようにして各教科の専門性を高めていくか工夫が必要である。

- ・生徒の指導を、学習指導要領のどの学部、段階、内容に基づき行なっているか確認することで、系統的な指導の充実を図ることができるのではないかと。

教師間で個別の指導計画をもとに、各教科や領域の単元目標や指導内容、評価規準について意見交換することで、事例対象教科や領域の理解を深めることができた。併せて、学習指導要領の各教科の段階を理解することや単元を通した授業づくりをしていくことの重要性を改めて確認することができた。そして、このような視点を重視して作成した個別の指導計画を、教師間で共通確認して指導に当たることによって系統的な指導の充実を図ることができると思われる。

一方で、実態別に学習グループを編成していても、各グループ内で実態差があることも多い。特に、障害の程度が重度の生徒に対する目標や評価規準の設定には課題がある。

また、特別の教科 道徳や日常生活の指導の個別の指導計画の作成については、このような様式で作成した経験のある教師が少なかったり、作成例が無かったりした。今後も、実践を積み重ねていくとともに、他学部や他校種の学習指導要領も参考にしながら、高等部の生徒にどのように指導や評価を展開していくか工夫していくことが重要である。

本研究を通して、個別の指導計画の新様式をもとに、負担の軽減や評価をより一体化させていくためには、学習指導要領の理解と、時間や内容のまとまりを見通した指導や評価が重要であることが確認された。併せて、教師の指導の経験や専門性があると個別の指導計画を作成する際の負担を経験できると思われるため、学部として各教科の専門性を高めていくための工夫が必要であると考えられる。今後も個別の指導計画を作成するだけで終わらずに、教師間で共通確認して指導することを大切にしていきたい。そして、生徒一人ひとりが「できた」「わかった」という気持ちを強くもち、社会でたくましく生き抜く力を育てる学校教育活動を実現していきたい。

（４）寄宿舍

寄宿舍では、昨年度「指導と評価の一体化を目指して」という研究主題に沿って「基本的生活習慣」「コミュニケーション・社会性」「自主性・主体性」「心理的安定」の４つのカテゴリーに分け、生活スキルチェックシートを作成した。

今年度は生活スキルチェックシートを活用しながら舎生それぞれの実態を端的に把握し、そこから見えてきた課題をその後の指導目標や支援目標につなげていけるか評価していくこととした。まず活用する方法として舎生２名をピックアップし、チェックシートに記入していきながら、項目の内容や備考欄の活用など気づいたことを指導員全体で共有し、検討した。チェックシートの活用を通し、２名の舎生においてもそれぞれ実態や特性が異なるため、チェック項目によって解釈が難しいと感じた。それと同時に、様々な観点からチェックシートの項目を評価することで、研究の目的をより深められると期待できたため、指導員全員が各担当舎生をチェックしてくことにした。全舎生のチェックシートを使用してみても感想や改良点を反映し、具体的にどのように活用していくのかも考えていった。

１１月の寄宿舍講師招聘研究会において、中間での発表をおこない田住指導主事より助言をいただいた。

（以下助言の内容）

「できる」をどこに設定するのかはとても難しい部分であり、捉え方がそれぞれであれば評価自体が変わってきてしまう。チェックリストを外部関係者や保護者と共有するものとしていくのであれば、指標は統一し、どの場所や場面でも支援なしでできることが「できる」の指標としていくことが望ましく、寄宿舍や学校内での支援目標を統一していくものとするならば「できる」のレベルは高くせず、各舎生の障害の程度や特性に合わせて使いやすくしていくと良いのではないか。チェックリストはできないことを見つけるためにおこなうのではなく「できるが少し課題がある」「少しの支援が必要」の２つの部分を見つけてだすことがとても大切である。評価項目については、具体的な項目と抽象的な項目があるため評価する指導員間でどのような視点で評価していくのか基準を持ちながら見直しをしていくとより一層よいチェックリストになると感じる。

（５）全体のまとめ

働き方改革と言っても何もかもただ削減するだけでは、これまで試行錯誤しながら積み上げてきた学校としての財産を切り捨てることになり、逆に教育現場のレベルを下げてしまう恐れがあった。そのため、今年度の研究では指導の基となっている個別の指導計画について効率的な仕組みを考え、諸様式の内容で重複している部分の記載を統一することで、書類作成全般の業務軽減につなげたいと考えた。

しかし、年度当初から研究として新様式の検討を取り扱うことへの不安があった。例年、研究の反省アンケートでは、指導に直接還元できる内容が望ましいとの意見が必ず挙がるからだ。実際に１学期の研究は手探りの状態で始めた。既に作成していた指導計画を新様式に当てはめてみるという方法であったが、何をどのように書けば良いのかという意見をまとめることで精いっぱいであった。２学期から本格的に研究を進めていく中で、指導計画の様式についての検討ではあるものの、担当する子ども達の実態や指導、授業の進め方等についての意見交換も自然と出てきた。忙しい日常の中で、子どもたちの様子についてじっくりと話し合う時間の確保は難しい。そのような状況において会議時間として設定されている研究は、とても良い話し合いの場になったと思う。そのような状況を考えれば、結果的には個別の指導計画の検証も日々の指導に還元できる題材であったとも言える。今回の研究を通して研究日の取り扱いについて新たな考え方にもつながった気がする。

新様式の検証についてだが、各教科と領域等（日常生活の指導、特別活動、道徳）で書きにくさの違いについての意見が目立った（細かい意見については、各学部の研究を参照）。予想通りではあったが、「日常生活の指導」「特別活動」「道徳」の書き方において、どのように書けば良いのかという意見が多く出された。教科と異なる点として、上記の3つに関しては比較的長い期間を通して指導して成長を促していくことが挙げられる。そのため、教科のように1単元（もしくは活動）だけでは、知識や技術の定着に時間を要する小学部児童や重い実態の子どもの評価はしにくいのではないかとと思われる。また、教育課程上では指導内容（教科）を枠で区切っているが、横断的に指導することで良い効果が期待される「日常生活の指導」「特別活動」「道徳」を単元のみで評価する難しさもある。

今回の研究を進めていくことで、教科等合わせた指導についても考える機会となった。知的の特別支援学校では当たり前のように設定されている合わせた指導であるが、その中身について具体的に議論されることはあまりないと思われる。特にどの教科と領域を合わせているということについては、職員によっても認識が一致していない現状がある。今回の研究の中で、本校において合わせた指導である「日常生活の指導」に対して観点別評価することにも重点を置き、事例対象教科の一つに選んだ。あくまでもグループ研究という中での検証ではあるが、「日常生活の指導」として行っている活動（支度、朝の会、帰りの会、着替え、給食等）のねらいは、それぞれ異なるため、ひとくくりにはしにくい状況が見えた。そのため、「日常生活の指導」に関しては、活動によって指導計画を分ける必要も考えられる。（小学部低学年の事例参照）観点別の目標を立て評価するという点においては、より具体的な目標及び評価について迫ることができたが、業務量軽減という点からすると、逆に増えているのではないかと感じた。観点別の目標及び評価をより細かく設定していくと、業務軽減につなげることが難しいのではないかと思い、個別の指導計画以外の様式も含めて考えていかなければならないと考えた。そのためにも、まずは個別の指導計画と他の書類の関係性について整理することとした。

個別の指導計画の位置づけを確認するためにまとめた（図1）。また、内容的に重複する項目を個別の指導計画を中心に表してもみた（図2）。感覚的には重複している部分がそれなりにあるのではないかと考えていたが、可視化することでその度合いがより顕著に表れた。今回の研究対象はあくまでも個別の指導計画の様式であったが、他の様式についても整えていかなければ業務軽減につなげにくいということが改めてわかった。来年度以降、個別の指導計画（新様式）に観点別の目標と評価を端的かつ明確に表記できるようにすることと、他の諸帳簿とのリンクをより効率的に行えるように、今年度の研究の成果を生かしていきたいと思う。

(図1)



(図 2)

